

中等教育教授法研究會編纂

最新  
地理教科書

東京 六盟館



本邦地學泰斗贈正四位伊能忠敬先生ノ傳

伊能忠敬先生ハ。今ヲ距ルコト百五十七年前。延享二年ニ生ル。下總國佐原ノ人ナリ。十八歳ニシテ伊能家ノ養嗣子トナリ。黽勉儉素以テ同家年來ノ荒廢ヲ恢復シ。天明三年。及同六年ノ關東大饑饉ニ當リテハ。慨然私儲ヲ發シテ。幾多ノ窮民ヲ救濟シタリ。年五十ノ時。家ヲ其子敬景ニ讓リ。單身江戸ニ出デテ。高橋東岡ノ門ニ入り。天文地理ヲ講究スルコト六年。大ニ發明スル所アリ。五十六歳ニシテ。官命ヲ奏シテ蝦夷地ノ測量ヲ始メ。尋テ各地ニ及ビ。十八年間ニシテ日本全國ヲ測量シ了リ。遂ニ日本沿海實測錄。並ニ大圖ヲ成功シ。以テ我國後世地理學上ノ大基礎ヲ建テラレタリ。翌年病ヲ以テ家ニ歿ス。享年七十四。實ニ文化十四年四月ナリ。

先生ノ家業ヲ恢復セル一事ノミニテモ常人一生ノ務ハ既ニ盡シタリト謂フベシ。加之。其年齒知命ニ達シタレバ。凡庸ノ士ナランニハ。必ズ優游餘命ヲ終フベキニ。反テ非常ノ大業ヲ起セシハ頗ル其

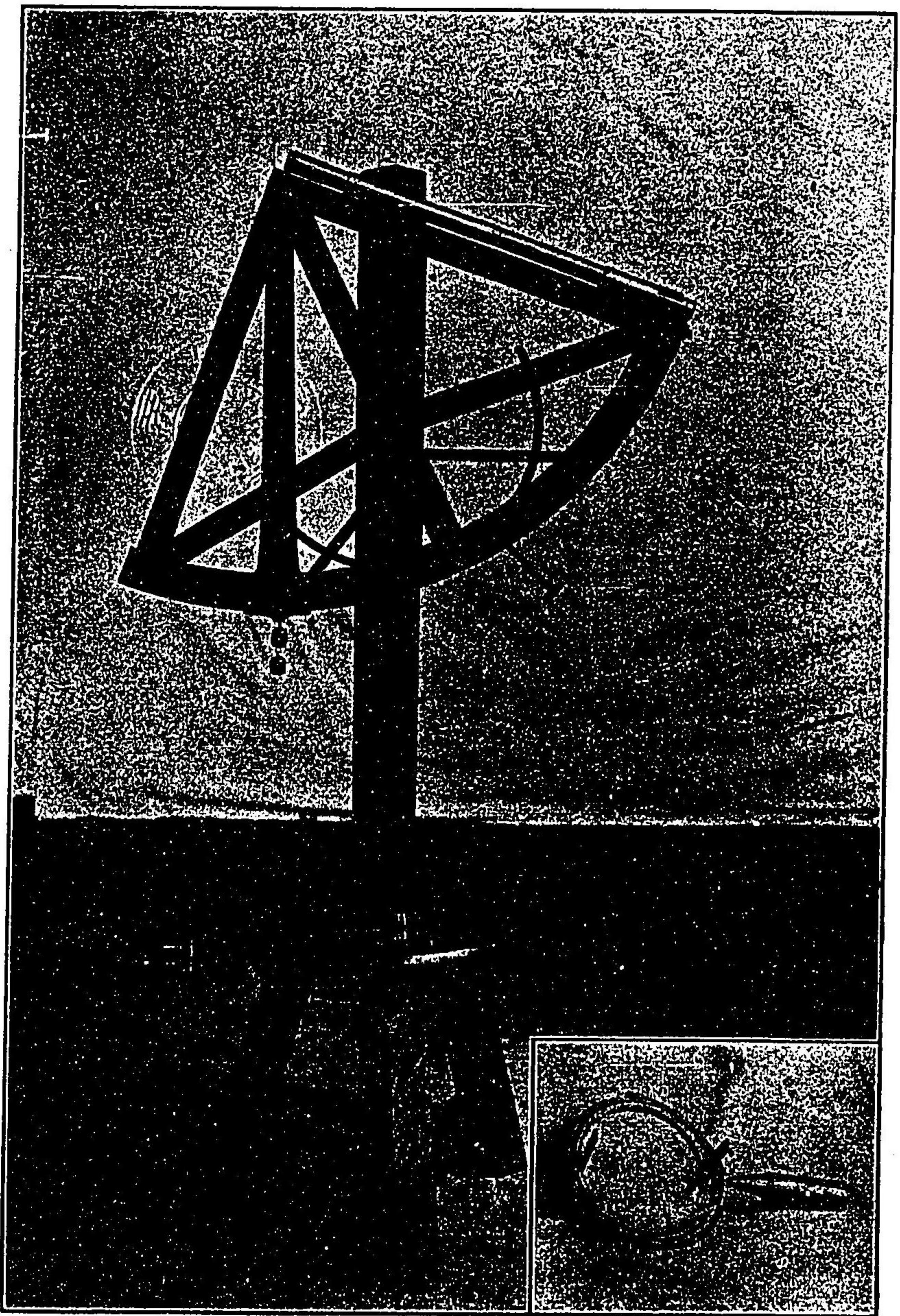
人格ノ世ニ卓絶セルヲ見ルベシ。

先生ノ測量ニ從事スルヤ。齡既ニ老ヒタリト雖モ。官命下ル毎ニ即日出發シ。寒暑ヲ怕レズ。風濤ヲ避ケズ。一意其事業ノ成功ヲ圖レリ。而シテ其使用スル器械ノ如キモ。當時未ダ船舶ノ品ニ乏キガ故ニ。皆ナ自カラ之ヲ考案シ。大野彌三郎ニ命シテ。之ヲ製作セシメタリ。左ニ掲グル圖ハ其一二ヲ示セルモノナリ。

圖ノ右方ニアルハ回光儀ト稱シテ山上等ヨリ光線ヲ反射セシメ之ニ依リテ目標ヲ定メ以テ距離ヲ測定スルノ器械ナリ。

圖ノ左方ニアルハ小象限儀ト云ヒ其上部ニ附セル遠月鏡ニテ北極星ヲ望ミ四半圓分銅ニヨリ緯度ヲ測定スルノ器械ナリ。

明治維新ノ後。朝廷其功ヲ賞シテ。正四位ヲ追贈セラレ。東京地學協會。亦先生ノ碑ヲ芝公園ニ建テ。其功烈ヲ不朽ニ傳ヘテ。以テ尊崇ノ意ヲ表セリ。洵ニ今古比倫ナキ大偉人ナリト云フベシ。



# 最新本邦地理教科書

## 編纂ノ趣旨

- 一、本書ハ最新ノ材料ニヨリ中等教育ノ諸學校ニ於ケル教科用書ニ供センガ爲メニ編纂シタルモノニシテ其綱目ハ今回發布セラレタル文部省訓令第三號ト一致セリ。
- 二、本書ハ忠君愛國ノ精神ヲ發揮シ兼テ國民必須ノ事項ヲ授ケ處世上ノ實益ヲ收メシムルヲ以テ目的トシタリ。
- 三、本書ハ富國強兵ノ基礎タル殖産與業ニ重キヲ置キ物産生業及交通等ヲ詳ニシ尙學生ニ精確ナル智識ヲ與ヘ且記憶ヲ鞏固ナラシメンガ爲メ特ニ精巧ナル物産圖交通圖等ヲ挿入シタリ。
- 四、本書ハ從來ノ弊ニ鑑ミ辭句ヲ平易ニシ敘事ニ興味ヲ加ヘ且紙數ヲ減シテ教授者ノ爲ニ臨機敷衍説明ノ餘地ヲ存シ一時間ニ凡三頁ヲ教授シ約六十時ヲ以テ終ル豫定ニ據リ編纂シタリ。若シ之ヲ每週二時間ツ課スルトキハ優ニ一ケ年ニ終ルコト

ヲ得ベシ。即チ。一時間ノ教材ハ。總論ニ在ツテハ。一題目ヲ課シ。地方誌ニ於テハ。三府、臺灣、北海道ノ外。都テ二縣宛ヲ以テシ。括論ニ進ミテハ。毎時凡三頁ヲ以テ之ニ充テタリ。

五、本書ハ、學生ノ心力發達ノ度ト。教授ノ便トヲ考ヘ。從來ノ順序方法ヲ改メ。總論(緒論トモ稱ス)ニ於テハ。先ツ地方誌ヲ學ブニ必要ナル事項ヲ授ケ。次ニ。各地ノ狀況ヲ詳ニシ。最後ニ。括論(結論トモ稱ス)ヲ以テ。本邦ノ自然。及人文地理ヲ説キ。以テ學生ヲシテ。略我帝國ノ國勢ニ通曉セシメンコトヲ務メタリ。又朝鮮ハ本邦ト密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ。あじあ總論ト與ニ卷末ニ附シタリ。然レトモ各校教授時數ノ都合ニヨリ必スシモ課スルヲ要セザルナリ。

六、本書ハ。單ニ暗記ヲ主トシ。乾燥無味ニ流ル。弊害ヲ避ケ。記事ハ簡明ヲ旨トシ。觀察、比較、概括、推理、斷定、應用等ノ諸心力ニ訴ヘ。學生ヲ誘掖啓發スルコトヲ期シ。左ノ方法ヲ撰ヒタリ。

一、點線圖ノ塗抹、記入ニヨリ。精確ナル觀念ヲ得シムルコト。

一、問題ヲ設ケ。豫修概括ヲ怠ラシメザルコト。

附問題下ニアル括弧内ノ數字ハ。年度ヲ示シ。海兵、商船等ハ海軍兵學校、商船學校等ノ略稱トス。

七、製圖、製表等ヲ課シ。以テ確實ナル智識ヲ得シムルコト。本書ノ叙事ハ。簡ヨリ繁ニ進ムノ順序ヲ取リ。先ツ大體ニ通曉セシメ。後ニ細目ニ及ボシ。且本科固有ノ目的ヲ失ハザランコト

ニ留意スルト同時ニ。歴史、博物等其他本科ト親密ナル關係ヲ有スル他學科トノ連絡ヲ保ツコトヲ務メタリ。

八、學校ノ種類。或ハ學生智識ノ程度ニ應シ。又教材ノ伸縮ヲ自在ナラシメンガ爲メ。細字ヲ以テ記載シ。且濫ニ繁多ナル事項ニ涉リ。或ハ數量ヲ記憶セシムルコトヲ避クルト同時ニ。正確ナル觀念ヲ與ヘ。若クハ敷衍ノ便ニ供セン爲メ。上欄ヲ設ケテ記載セリ。

九、土地ノ高低、都邑、山川、港灣ノ位置、及距離等ヲ。學生ノ腦裏ニ牢記セシムルニハ。地圖ニ若クモ。ナシ。故ニ本書ハ。地圖ニ就キテ充分ノ注意ヲ加ヘ。且必要ニシテ。稠密錯雜セル所ハ。之ヲ廓大シ

テ。明瞭ナラシメタリ。サレバ本書ノ或部ハ。地圖ヲ主トシ。本文ヲ  
 贅トスルカ如キ所モアリ。附圖ト本文トハ。寸時モ離ルベカラ  
 ザル組織トナセリ。  
 十、本書ヲ編纂スルニ當リ。文章ノ修正ニツキテハ。川野健作氏。描  
 圖ハ太田健吉郎氏。挿畫ニツキテハ。佐久間文吾氏ノ盡力ヲ辱  
 セリ。又本邦地形ノ七五三飾花飾ニ似タル圖及日本海形ノ兔  
 似タル圖ハ。矢津昌永氏ノ考案ニ據ル。

明治三十五年二月  
 中等教育教授法研究會 識

# 最新本邦地理教科書目次

## 第一編 總論

○大日本帝國……………一頁

五大島五中島三列島

四近の海

廣袤面積人口

地圖の讀方及經緯度製圖

○帝國の四隣……………五

朝鮮支那西伯利亞等の諸國

五大洲及本邦と親密なる關係國

經緯度の測算帝國の位置

五帶製圖

○帝國の區劃……………九

舊區劃 同沿革

現今の區劃

製圖

○帝國の地勢……………一五

中央高地

中央高地の東北

中央高地の西南

製圖

第二編 地方誌……………一九

○東海道……………一九

東京市 神奈川縣 千葉縣 茨城縣 埼玉縣 山梨縣

静岡縣 愛知縣 三重縣

○東山道……………四八

(一) 中仙道……………四八

滋賀縣 岐阜縣 長野縣 群馬縣 栃木縣

(二) 奥羽……………五九

福島縣 宮城縣 岩手縣 青森縣 秋田縣 山形縣

○北陸道……………六九

新潟縣 富山縣 石川縣 福井縣

○近畿……………七七

京都府 奈良縣 和歌山縣 大阪府 兵庫縣

○中國……………九六

鳥取縣 島根縣 山口縣 廣島縣 岡山縣

○四國……………一〇六

香川縣 德島縣 高知縣 愛媛縣

○西海道……………一四

福岡縣 佐賀縣 長崎縣 熊本縣 大分縣 宮崎縣  
鹿兒島縣 沖繩縣

○臺灣……………一三四

西部

東部

澎湖群島

○北海道……………一四九

北海道本島

千島列島

第三編 括論……………一六一

○自然地理……………一六一

地勢……………一六一

山系……………一六二

水系……………一六五

海岸……………一六八

海流……………一六九

氣候……………一七一

風……………一七二

雨量……………一七二

溫度……………一七三

天產物……………一七三

○人文地理……………一七五

住民……………一七五

種族……………一七五



人口	.....	一七七
教育	.....	一七八
宗教	.....	一七九
政治	.....	一八〇
國體	.....	一八〇
政體	.....	一八〇
兵備	.....	一八三
生業	.....	一八五
農業	.....	一八五
養蠶業	.....	
製糖業	.....	
牧畜業	.....	
鑛業	.....	一八八

林業	.....	一八九
水產業	.....	一八九
製鹽業	.....	
工業	.....	一九〇
商業	.....	一九二
交通	.....	一九三
道路	.....	一九三
鐵道	.....	一九三
航路	.....	一九五
郵便	.....	一九六
電信	.....	一九六
電話	.....	一九六

最新本邦地理教科書目次終

最新外國地理教科書目次

第一篇 あじあ

○總論……………一頁

位置……………一

地勢……………三

氣候……………五

天產物……………六

住民……………七

交通……………八

○朝鮮……………九

總論……………九

地方誌……………一四

最新外國地理教科書目次終



最新本邦地理教科書

中等教育教授法研究會編纂

第一編 總論

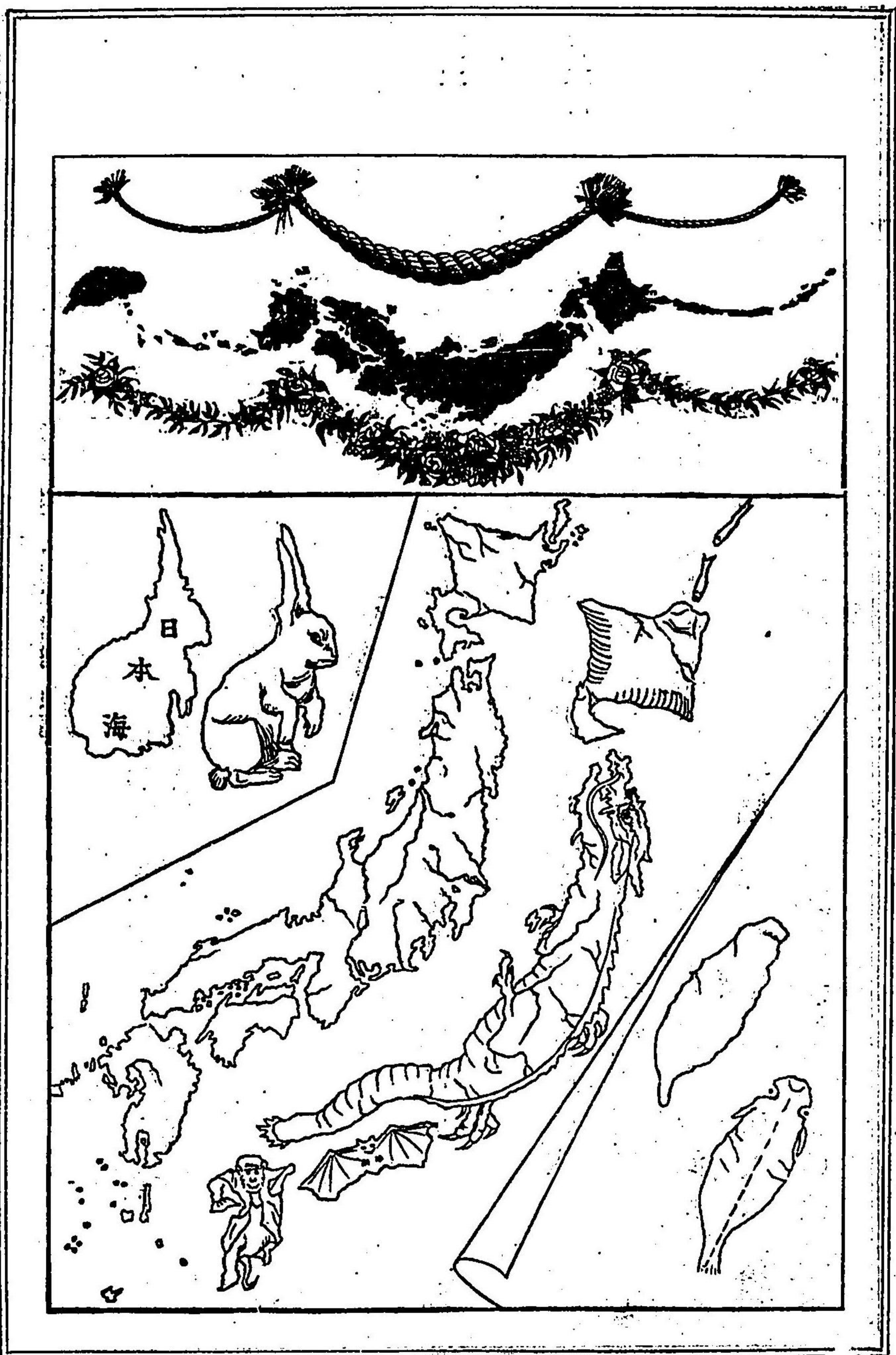
大日本帝國

我が大日本は東洋の一大帝國にして、其國土は五個の大島と四千有餘の島嶼とより成れり。

五大島中最も北に在りて其形狀恰も赤鯉アカササギの尾を掉ふて洋中に躍るが如きもの之を北海道本島と云ひ、其南にありて恰も蛟龍の口を開きて北方に飛躍せんとするが如きものを本州と稱し、其西南に當り蝙蝠の兩翼を張りて飛ぶが如きものは四國にして、猿猴の立ちて舞ふが如きものは九州

國土

五大島



なり、九州の稍南方に當りて大魚の尾を揺し東北に向ひて  
 險囁するが如きものは是れ即ち新領土たる臺灣なり。  
 五大島に亞ぎて**五中島**あり、佐渡・隱岐・壹岐・對馬及淡路是れ  
 なり。

三列島

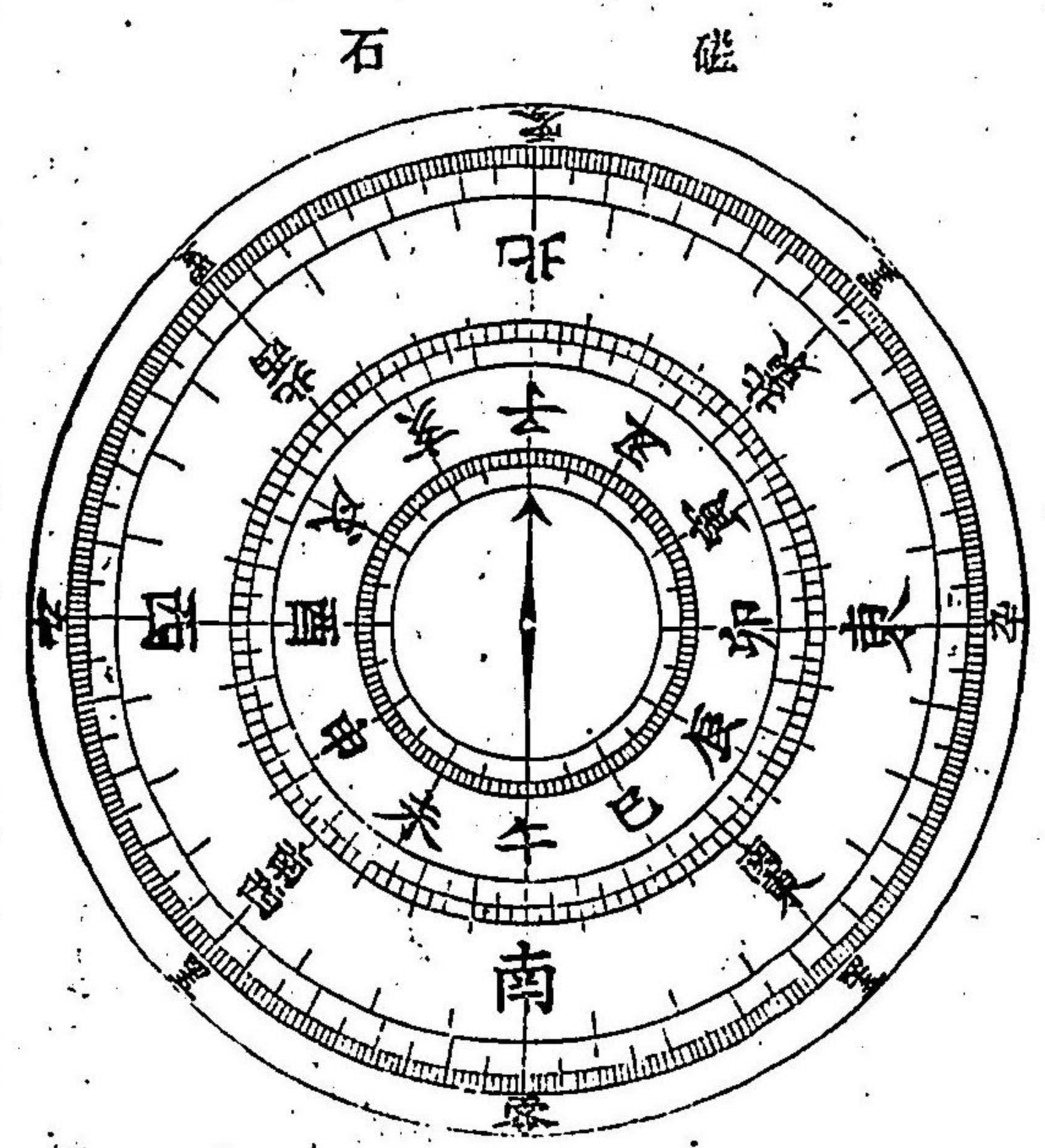
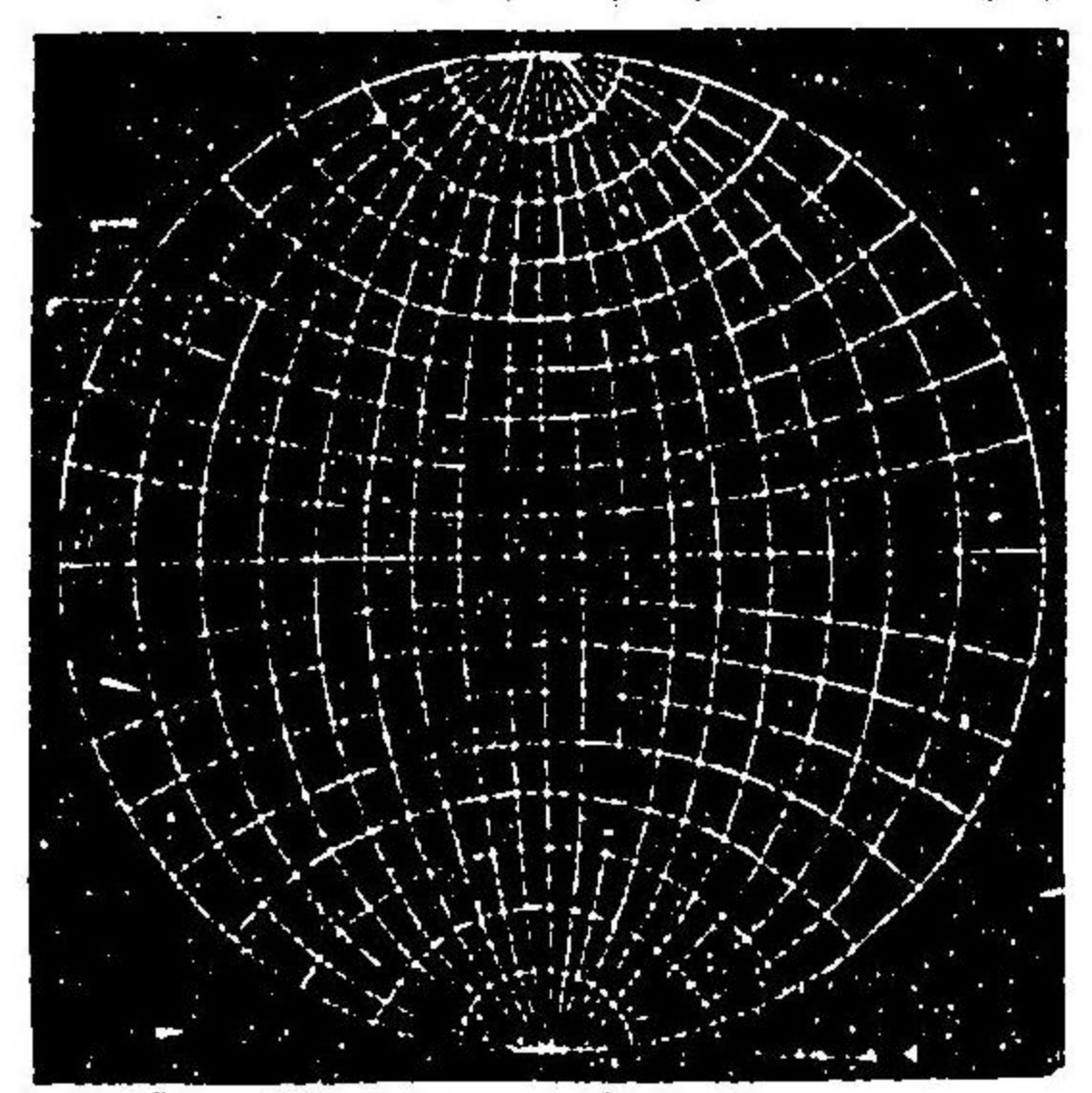
臺灣と九州との間を點綴する島嶼を琉球列島と稱し、北海  
 道本島と露領カムチャカ半島との間を點綴するを千島列  
 島と稱す、而して本州の南方、伊豆七島・小笠原島・硫黃島等の  
 連續するもの之を**豆南列島**と稱す。

四近の海

**四近の海**を叙ぶれば、我が帝國の東南にある渺茫たる一大  
 海を太平洋と稱し、千島列島と北海道本島との北にある風  
 波荒くして濃霧及浮氷多き海をオコツク海と稱す。  
 又本州の北西にありて夏期は海面穩に、冬期は風波荒くし  
 て、汽船の往來に不便なる海を日本海と稱す、日本海の南

に連りて、九州と琉球列島との西にある海を東海と稱し、本州と四國の間の海を瀬戸内海と云ひ、數多の島嶼散在せり。

經度線、緯度線



廣袤、我が帝國は地形西南より東北に綿亘する狹長の國にして、長一千二百五十里に達し、幅の廣き處は百里に近し、而

廣袤、面積、人口

經度線、緯度線

して其全面積は二萬七千方里ありて、人口四千六百萬あり。地圖の上部は北にして、下部は南方を示せり、而して其の北より南に引ける線を、經度線或は子午線と云ふ、又右方は東にして、左方は西に當るなり、而して其の西より東に引ける線を緯度線と云ふ。

- 問一 五大島、五中島、三列島を問ふ。
  - 問二 本邦四近の海を問ふ。
  - 問三 本邦の廣袤、面積及人口を問ふ。
  - 問四 地圖の見方及經緯度線とは何如。
- 製圖 附圖大日本帝國白地圖に五大島、五中島、三列島及四近の海の點線を塗抹し且つ記名せよ。
- 同圖内の露領西伯利亞(カムチヤ)、カ半島、樺太島、朝鮮、支那(滿洲)、黄海、福建省、米領フィリピン群島等に記名し且つ經緯度を記入すべし。

### 帝國の四隣

本邦の西方に當り、日本海を隔て、朝鮮(韓國)あり、朝鮮の西隣は支那(清國)の一部分なる滿洲にして、其西北に隣るは露西亞の領土たる西伯利亞の廣野なり、我が北海道の北なる樺太島薩哈連島は其一部なり。支那の南に大國あり、之を印度と稱す、英吉利の領土なり、而して本邦朝鮮支那西伯利亞印度其他の諸國を包含する大陸を亞細亞と稱す。亞細亞の西北にある大陸は歐羅巴にして、露西亞英吉利佛蘭西獨逸其他の諸國を含めり。歐羅巴の南方、亞細亞の西南にあるは亞弗利加なり。本邦の東方に當り、太平洋を隔てたるを北亞米利加とす、我と親密なる北米合衆國其中にあり、而して北亞米利加の南に連るは南亞米利加なり。

經緯度の測算

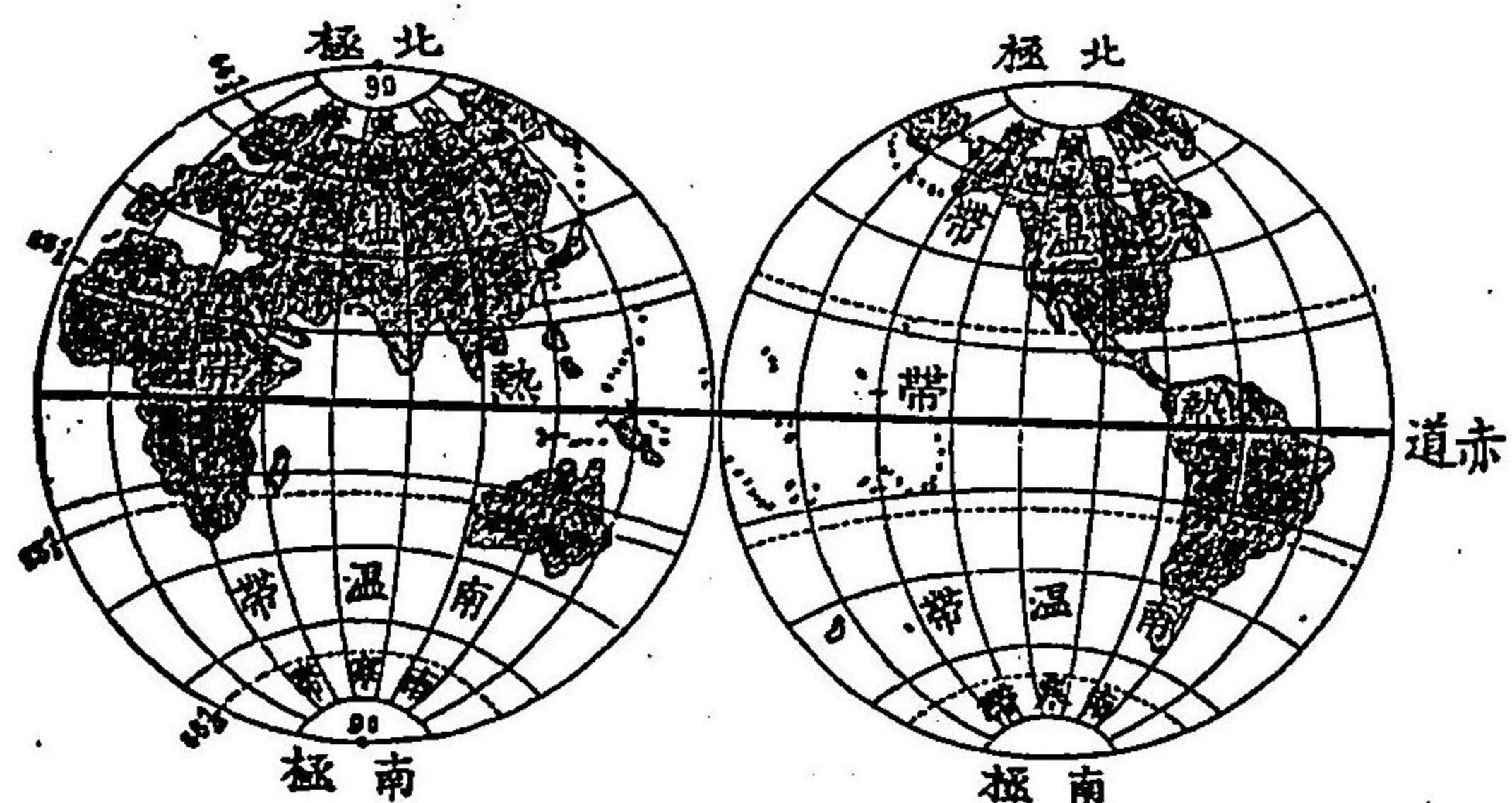
臺灣の南方バシー海峡を隔て、フィリピン群島あり、北米合衆國の領土なり、その南方太平洋中に濠太刺利亞及數多の島嶼散布せり、之を大洋洲(阿西亞尼亞)と稱す。以上亞細亞、歐羅巴、亞弗利加、亞米利加及大洋洲を五大洲と稱す。

經度の測算は、英國のグリニウチ天文臺を通ずる線を基本とし、是より東は東經何度と數へ、又西へ西經何度と數へて、各百八十度に至る、而して此線と線との間は經度一度にして、一度を六十分に分て、緯度線と緯度線との間亦然り。●緯度線は赤道を本として、是より北へ北緯何度と數へ、又南へ南緯何度と數へて、各九十度に至る、而して此九十度に當れる點を極と稱し、北にあるを北極と云ひ、南にあるを南極と云ふ。經度線と緯度線と相交はる處は、地球上只一個處あるのみなれば、是に由りて各地の位置を精密に定むることを得るなり、例へば東經百三十九度四十五分の線と、北緯三十五度四十一分の線と相交はる處は、東京の中央氣象臺の地のみなり。

帝國の位置

極東 千島國占守島  
の東端東經百  
五十六度三十  
二分  
極西 西伯利亞  
の西端東經十  
九度二十分  
極南 南緯二十  
度北緯八十  
度  
極北 北緯九十  
度  
千島國アライ  
ト島の北端北  
緯五十五度五  
十六分

五帶



五帶の圖

帝國の位置は、西は東經百二十度より、東は東經百五十七度に至り、南は北緯二十一度より、北は北緯五十一度に及べり。南緯二十三度半と北緯二十三度半との間を熱帯と稱し、北緯二十三度半と北緯六十六度半との間を北温帯と稱し、北緯六十六度半と北極との間を北寒帯と稱す、此の如く南にも、南温帯と南寒帯とあり之を地球の五帶と稱す、我が帝國の大部分は北温帯中に横はれり。

●製圖 附圖世界白地圖に、五大洲及各大洲の諸國を區劃したる點線を黒く塗り、且つ記名し、又經緯度及五帶を記入すべし。  
問、經度及緯度とは何ぞ(三四、海兵)

### 帝國の區劃

帝國は臺灣を除き、山河の形勢により、全國を大別して、畿内八道に分ち、又之を小別して、八十五國となせしが、現今は政治上此區劃を用ひず、更に府縣に分てり、然れども因襲の久しき邦人皆舊時の國名を慣用するにより、地理を學ぶには、先づ之を熟知せざる可らず。

畿内五國

山城 大和 河内 和泉 攝津

東海道十五國

伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏 安房 上總 下總 常陸

東山道十三國

近江 美濃 飛騨 信濃 上野 下野 磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽

前羽後

北陸道七國 若狹越前加賀能登越中越後佐渡

山陰道八國 丹波丹後但馬因幡伯耆出雲石見隱岐

山陽道八國 播磨美作備前備中備後安藝周防長門

南海道六國 紀伊淡路阿波讃岐伊豫土佐

西海道十二國 筑前筑後豊前豊後肥前肥後日向大隅薩摩壹岐對馬

琉球

北海道十一國 渡島後志石狩天鹽北見膽振日高十勝釧路根室千島

政治區劃沿革

沿革

關東關西

淳和帝の時畿内七道を分ちて六十六國となし、明治初年に至り、陸奥を五國、出羽を二國に分ち、蝦夷島を十國に、千島を一國として、北海道と稱し、又壹岐對馬琉球を西海道に加へて、十二國となし、總て八十五國となれり。昔時は山城近江の境なる逢坂關を以て、關東關西を分ちしが、徳川氏幕府を江戸に開き、函根關を置きしより、世人此關以東の相模武藏安房上總下

關東八州

奥羽

中國

府縣

現今の政治區劃は、一總督府・一道廳・三府・四十三縣に分ち、其下に郡・區・市・町・村等アリ。

廳府縣 官廳所在地 管轄地

東京府 東京市 武藏の内・伊豆七島・小笠原島

神奈川縣 橫濱市 相模・武藏の内

千葉縣 千葉町 安房・上總・下總の内

茨城縣 水戸市 常陸・下總の内

埼玉縣 浦和市 武藏の内

山梨縣 甲府市 甲斐

静岡縣 静岡市 駿河・遠江・伊豆の内

愛知縣	名古屋市	三河・尾張
三重縣	津市	伊賀・伊勢・志摩・紀伊の内
滋賀縣	大津市	近江
岐阜縣	岐阜市	美濃・飛驒
長野縣	長野市	信濃
群馬縣	前橋市	上野
栃木縣	宇都宮市	下野
福島縣	福島町	岩代・磐城の内
宮城縣	仙台市	陸前の内・磐城の内
岩手縣	盛岡市	陸前の内・陸中の内・陸奥の内
青森縣	青森市	陸奥の内
秋田縣	秋田市	羽後の内・陸中の内
山形縣	山形市	羽前・羽後の内

新潟縣	新潟市	越後・佐渡
富山縣	富山市	越中
石川縣	金澤市	加賀・能登
福井縣	福井市	越前・若狹
京都府	京都市	山城・丹波の内・丹後
奈良縣	奈良市	大和
和歌山縣	和歌山市	紀伊の内
大阪府	大阪市	河内・和泉・攝津の内
兵庫縣	神戸市	播磨・但馬・淡路・攝津の内・丹波の内
岡山縣	岡山市	備前・備中・美作
廣島縣	廣島市	安藝・備後
山口縣	山口町	周防・長門
島根縣	松江市	出雲・石見・隱岐



沖繩縣	鹿兒島縣	宮崎縣	大分縣	熊本縣	長崎縣	佐賀縣	福岡縣	愛媛縣	高知縣	德島縣	香川縣	鳥取縣
那覇區	鹿兒島市	宮崎町	大分町	熊本市	長崎市	佐賀市	福岡市	松山市	高知市	徳島市	高松市	鳥取市
琉球諸島	大隅薩摩	日向	豊前の内豊後	肥後	壹岐對馬肥前の内	肥前の内	筑前筑後豊前の内	伊豫	土佐	阿波	讃岐	因幡伯耆

臺灣總督府 臺北府 臺灣  
 北海道廳 札幌區 北海道

問一、本邦の舊區劃を問ふ。  
 問二、本邦政治區劃の沿革を語れ。  
 問三、本邦現今の區劃を問ふ。

●製圖 附圖本邦區劃圖に府縣の點線を塗抹し且府縣名を朱書し國名を黒書せよ。

### 帝國の地勢

本邦は山國にして、到る處山岳重疊し、地形狹長にして、西南より東北に綿亘するにより、各大島の山脈は、大抵之と同一の方向に連なり、其腹背兩側は、幅狹くして傾斜急なり。されば河流は、此山脈の兩側を流れ海に注ぐを以て、大抵水勢急にして、距離短く大河を形成するに至らず、故に平地は僅に

全國面積の九分の一を占むるのみ。

日本海に面する地は、傾斜急にして、河流及平地は其規模小なるも、之に反して、太平洋に面する地は、傾斜緩にして、河流及平地は其規模稍大なり、然れども臺灣のみは地勢全く反對にして、大陸面に於て頗る沃野を控へたり。

中央高地

中央高地は濃、飛、甲、信、兩野の山地にして、帝國の背部とも稱すべし、本邦最高最大の地なり、加ふるに此高地は全國中、地幅の最も廣き部分の中央にあるが故に大水源をなし、四方に大河を流出す、此等諸大河の灌漑する處廣大の沃野を控へたり、其東南に流るゝものは利根川、隅田川にして其灌漑地は本邦第一の廣野たる關東平野なり、東北に流るゝものは信濃川にして越後平野を灌漑し、北方に流るゝものは神通川、射水川にして越中の平野を潤澤し、西南に流るゝもの

は木曾川にして濃尾平野を肥沃にし、南方には天龍川、富士川等の諸大川、太平洋に向て注流せり。

中央高地の東北 中央高地より連亘して奥羽の脊骨をなすもの、之を中央分水山脈となす、此山脈の東に平行して阿武隈北上の兩山脈あり、阿武隈山脈と中央分水山脈との間を北流するものは阿武隈川にして、北上山脈と中央分水山脈との間を南流するものは北上川なり、此兩大川の灌漑する處は即ち宮城野の廣野なり。

北海道の南北に連亘する山脈を蝦夷山脈と稱し、之と直角に交るものを千島火山脈と云ひ、其交る處は本島の最高地なり、此高地より發源して北流するものを天鹽川と云ひ、南流するものを十勝川となす、又西流するものは石狩川にして其流域は即ち石狩平野なり。

中央高地の西南 中央高地より西方、山陰・山陽・兩道の境をなすものは中國山脈にして、西南方近畿の南部を走るものは紀伊山脈なり、而して淀川の流域は畿内平野なり。四國には東西に走れる四國山脈あり、吉野川東に流れ、其流域には阿波平野あり、九州には九州北部山脈及九州南部山脈ありて、筑後川の灌域には筑紫平野あり、臺灣には南北に走れる臺灣山脈ありて、中央より稍々東に偏せり、是より發源せる下淡水溪は西方に流れ、其流域には臺灣西部平野あり。

●製圖 附圖の地勢點線圖に高地平野山脈及河流を記入せよ。  
問本邦の地勢を問ふ。

## 第二編 地方誌

東海道 問 東海道の國名及府縣名を語れ。

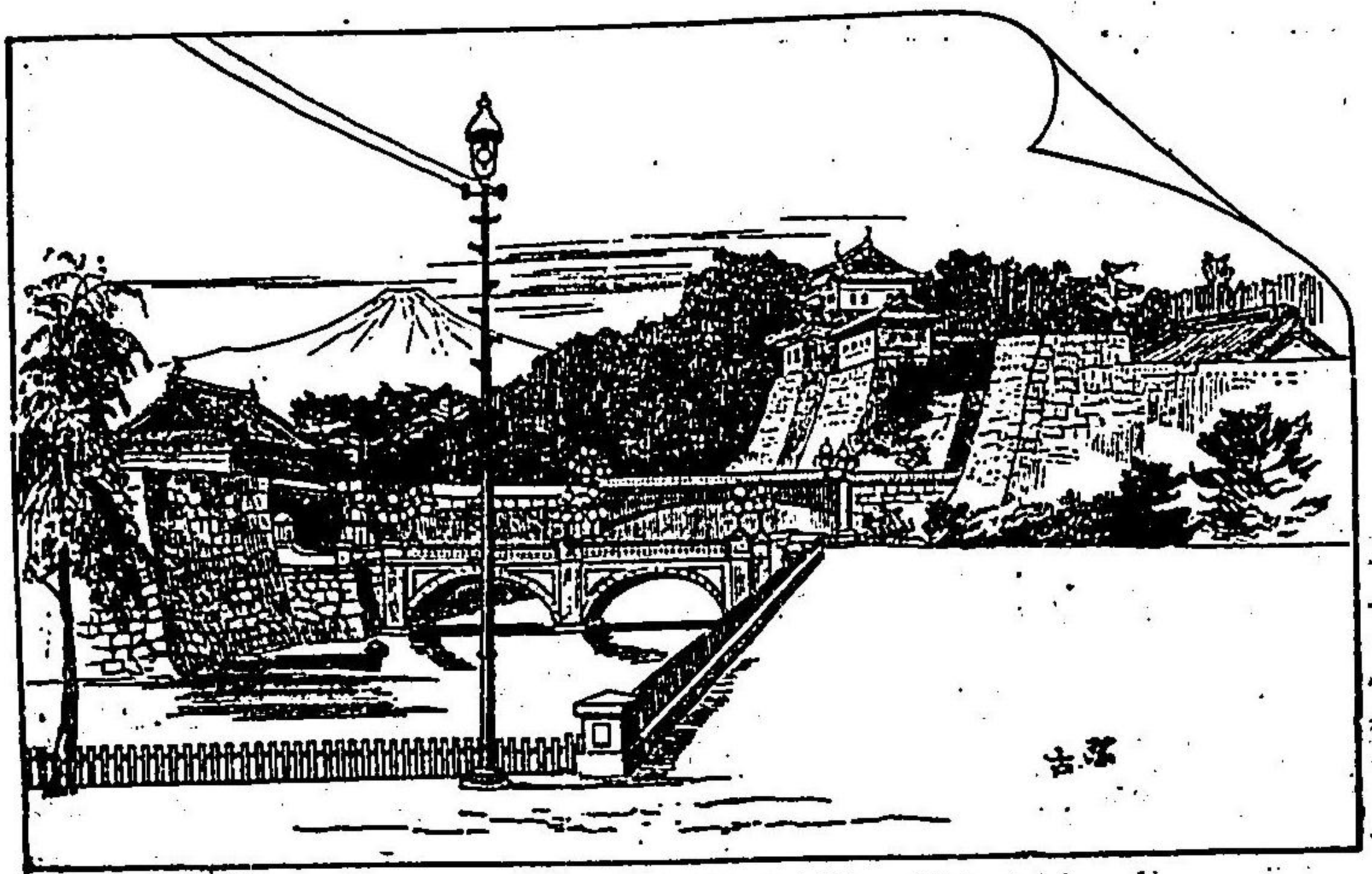
東京府 問 東京府は東海道の何れにありや。

東京府は關東平野の西南部にありて、東京灣に臨み、地勢概ね平衍、土壤肥沃にして、農産物鮮からず、其東部は中川、荒川の下流に屬し、荒川の河口には帝國の首府東京市ありて、市の附近には千住、王子、板橋、新宿、品川、大森等の名邑あり、中央以西は多摩川の貫流する地にして、八王子、五日市、青梅等の名邑あり、此等の都邑を連ぬるに鐵道を以てせり、西境には雲取山、小佛峠等聳立す。

東京市は東西三里、南北四里、人口百五十萬を有する、世界屈指の大都にして、東京灣に臨み、隅田川に跨れり、河上には瀛

(一) 人口一萬一千

(三) 人口百四十萬



皇 城

船往來し、灣内には總房相の諸州に通ずる定期汽船の往來あり、驛路には東海街道甲州街道・中仙道・奥羽街道・水戸街道・千葉街道あり、主要なる街路には馬車鐵道を布設し、或は乗合馬車の便あり、今將に電氣鐵道の布設を見んとす、且鐵道は新橋・飯田町・上野・本所の各地より四方に通ずるを以て、水陸共に運搬交通の便に富み、旅客貨物常に往來輻湊し、市況繁盛を極め全



東 京 銀 座 街

國商業の中心たり。

此地はもと江戸と稱し、その昔は壹海蘆葦の一面に生ひ茂れる際涯なき武藏野の一隅なりしが、長祿年間太田道灌城を此地に築き、次で徳川家康幕府を爰に開きてより次第に其繁昌を増し、明治二年車駕東巡幸をこゝに駐め給ひ東京と改稱せられしより、中央政府の所在地として今日の如く遂に全國第一の大都府となれり。皇城は市の中央にありて、其周圍には濠渠を繞らせり、内閣・宮内省・樞密院・近衛師團等





問四、東京府の物産を擧げよ。

### 神奈川縣

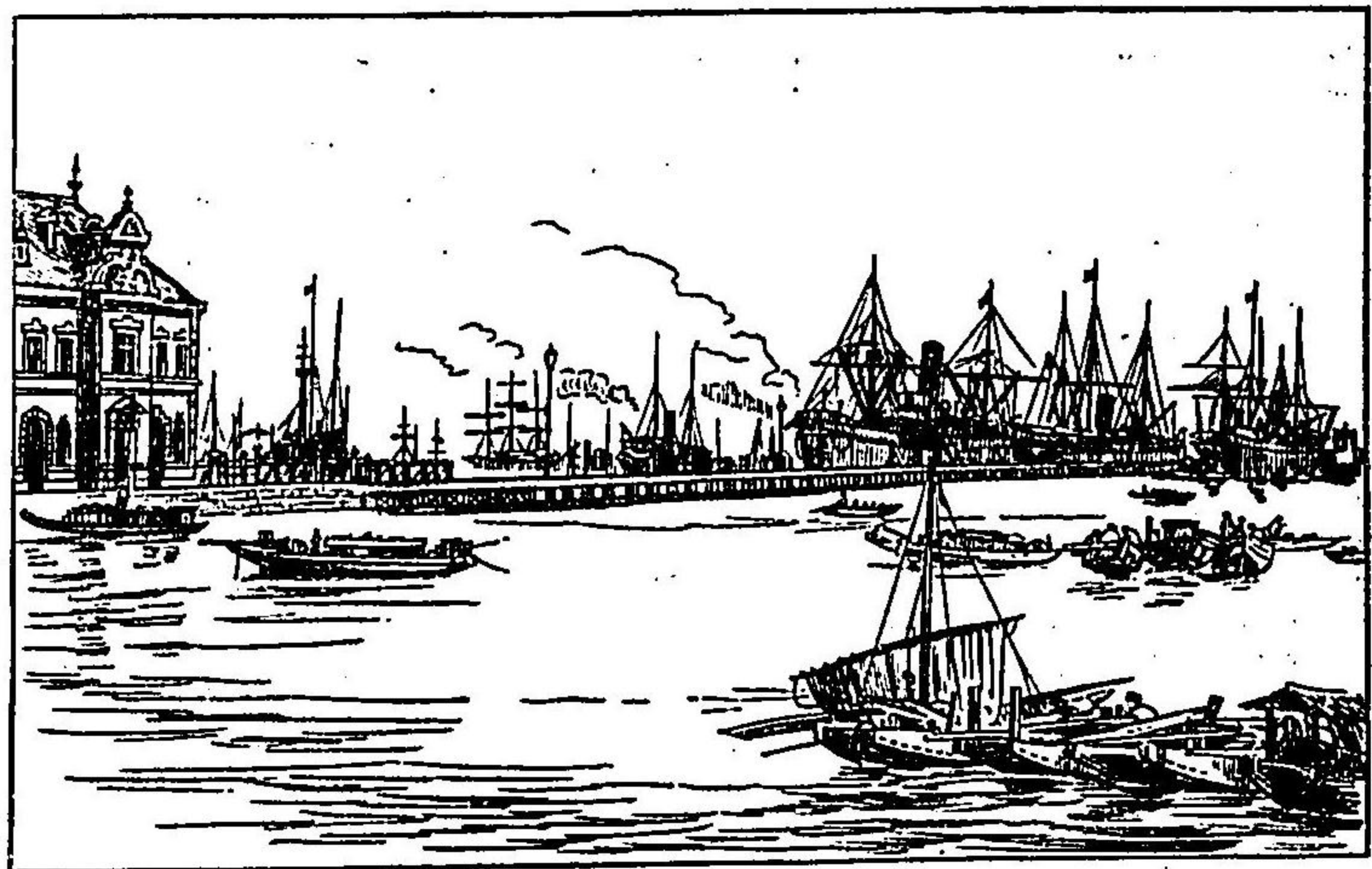
問 神奈川縣の位置及管轄を圖に就いて語れ

神奈川縣は關東平野に屬し、東南部は交通の便開け横濱須賀浦賀鎌倉大磯小田原は其要區たり、西北は箱根及び小佛の諸山を繞らし、大山は高く中央に聳へ、馬入川其東麓を流る、此流域は殊に煙草の栽培に名あり、三浦半島東南に突出して東京灣と相模灘とを分つ。

横濱市は東海道鐵道に沿ひ、東京より南方二十哩の所にあり、良港にして、海陸の交通極めて便なり、内外の船舶常に輻湊し本邦第一の開港場たり、此地舊時は一小漁村に過ぎざりしが、一たび互市場となりしより、頓に今日の旺盛を極め、人口も二十萬に近く外人多く在留し、領事館商館あり、鐵道はこれより大船驛に至りて支線を出し、尙ほ進みて藤澤大

人口十九萬四千  
一哩は十四町四十五間なり  
安政六年の開市  
貿易額二億餘萬圓  
輸出を主とす

人口一萬七千



横濱港

磯を経て國府津に出て、酒匂川に沿ふて御殿場に至る、國府津より又小田原を経て湯本まで電氣鐵道の便あり、小田原は東海道の驛路に當り、豆州熱海に通する人車鐵道の起點なるを以て商業繁盛、梅干、外郎の名産あり、而して西方に箱根の險を負ふ。

箱根山は休火山にして山中温泉の湧出するもの鮮からず、中にも七湯は避暑の好地たり、山中なる蘆の湖は火口原の一部に水を湛

へたるものにして水清くして鏡の如く、富士の山影湖面に映し風光甚明  
媚なり湖畔には離宮宮根神社及古關の址等あり、北方には足柄山、南方に  
は石橋石垣兩山の古蹟あり、物産は湯本細工を有名なりとす。

鎌倉は源氏  
北條氏百四  
十年間國政  
を執りたる  
地なり  
金澤には金  
澤文庫の遺  
趾あり

(一) 人口二萬  
五千

支線は大船より鎌倉を経て横須賀に至る、鎌倉は昔源頼朝  
の覇府を開きし地にして鶴岡八幡宮、頼朝の墳墓、鎌倉宮、建  
長寺、圓覺寺、大佛等の古蹟今尚存す、又其附近には七里濱、稻  
村崎、龍口寺、腰越等訪ふべき古蹟甚多く、名勝地としては金  
澤八景及江の島の風景殊に名高し、横須賀は半島の東部に  
ありて東京灣に臨み東洋第一の造船所あり、又海軍鎮守府  
の所在地にして海兵團の設あり、其近海は魚貝多きを以て  
三崎には東京帝國大學の臨海實驗場の設あり、又史上に名  
高き浦賀には造船所あり、其北に突出せる觀音崎は、對岸の  
富津崎と共に東京灣の咽喉を扼し、堅固なる砲臺を築きて

(二) 人口一萬  
四千

其間を點綴せり。

問一、神奈川縣下の著名なる山川を擧げよ。

問二、横濱市横須賀鎌倉につき知る所を記せ。

問三、神奈川縣下に於ける物産の産地を語れ。

問四、神奈川縣下の交通の有様を圖上に示せ。

備考 東京府神奈川縣の同題に倣ひ、以下の各府縣は自ら問ひ自ら答へ  
以て演習の便とすべし。

### 千葉縣

問 千葉縣の管轄を圖に就いて語れ。

人口二萬六  
千

千葉縣は、江戸川、利根川を以て境せる房總半島の地にして、  
所々に湖沼多く、地勢概ね平坦、田圃開け農産多し、南方房總  
の界に鋸山、清澄山あり、太平洋沿岸は漁業甚盛にして鱸の  
名産地なり、安房は盛に牛を飼養し、嶺岡の牧場特に名高し、  
千葉町は東京より十里、總武鐵道に由れば本所より船橋を



千葉氏二十餘代の城址あり

人口一萬二千

過ぎ一時間にして達す、此所より房總線は大網一の宮を経て房州小湊に向ひ、本線は佐倉に於て別れ、銚子或は成田鐵道に連りて交通頗便利なり、此地は縣廳を始め千葉醫學專門學校の設ありて市況も亦稍殷賑なり、船橋は千葉街道の名邑にして千葉町と本所驛との中央にあり、市川は里見氏の古戰場たる國府臺下に在りて西は江戸川に臨めり、其下流なる行徳の鹽、上流なる流山の味淋野田の醤油は本



犬吠崎燈臺

田の醤油は本

習志野は至尊の名つけ給ひし處なり

人口一萬三千

(一)卷首の傳記を參看せよ  
(二)經津主神を祀る  
(三)武甕槌神を祀る

縣著名の物産なり、船橋の東方に習志野及び印旛沼あり、佐倉は堀田氏の舊城下にして有名なる宗吾神社あり、近衛第二旅團を置く、佐倉炭は其附近の特産なり、成田は新勝寺の不動尊を以て聞ゆ、此地より南北の兩線を以て東京に通ず、佐原は利根川の沿岸に在り、清酒、醬油の醸造を以て名高く、本邦地理學の泰斗伊能忠敬氏の生地なり、佐原の東南に香取神社あり、常陸の鹿島神社と共に我國最古の神社なり、銚子港は利根川の口にありて貨物常に輻湊し、縮布、醬油、乾魚を産し市況甚繁盛なり、犬吠岬は此地の東端に在りて燈臺の設あり。

銚子より西南一帶の砂濱を九十九里濱とす、鯉の漁業を以て名高し、安房は陸路交通の便に乏しけれども、東京灣に面せる地は要津多し、館山北條は共に海水浴を以て名あり、南

日蓮上人の  
誕生地なり

人口三萬四  
千

岸にある小湊村は誕生寺を以て聞ゆ、半島の南端は野島崎にして有名なる燈臺あり、此地方は漁業盛にして水産多し、又房州砂及石材は著名の物産なり、北方の木更津は上總に屬する要津なり、其南の鹿野山は景色を以て聞ゆ。

### 茨城縣

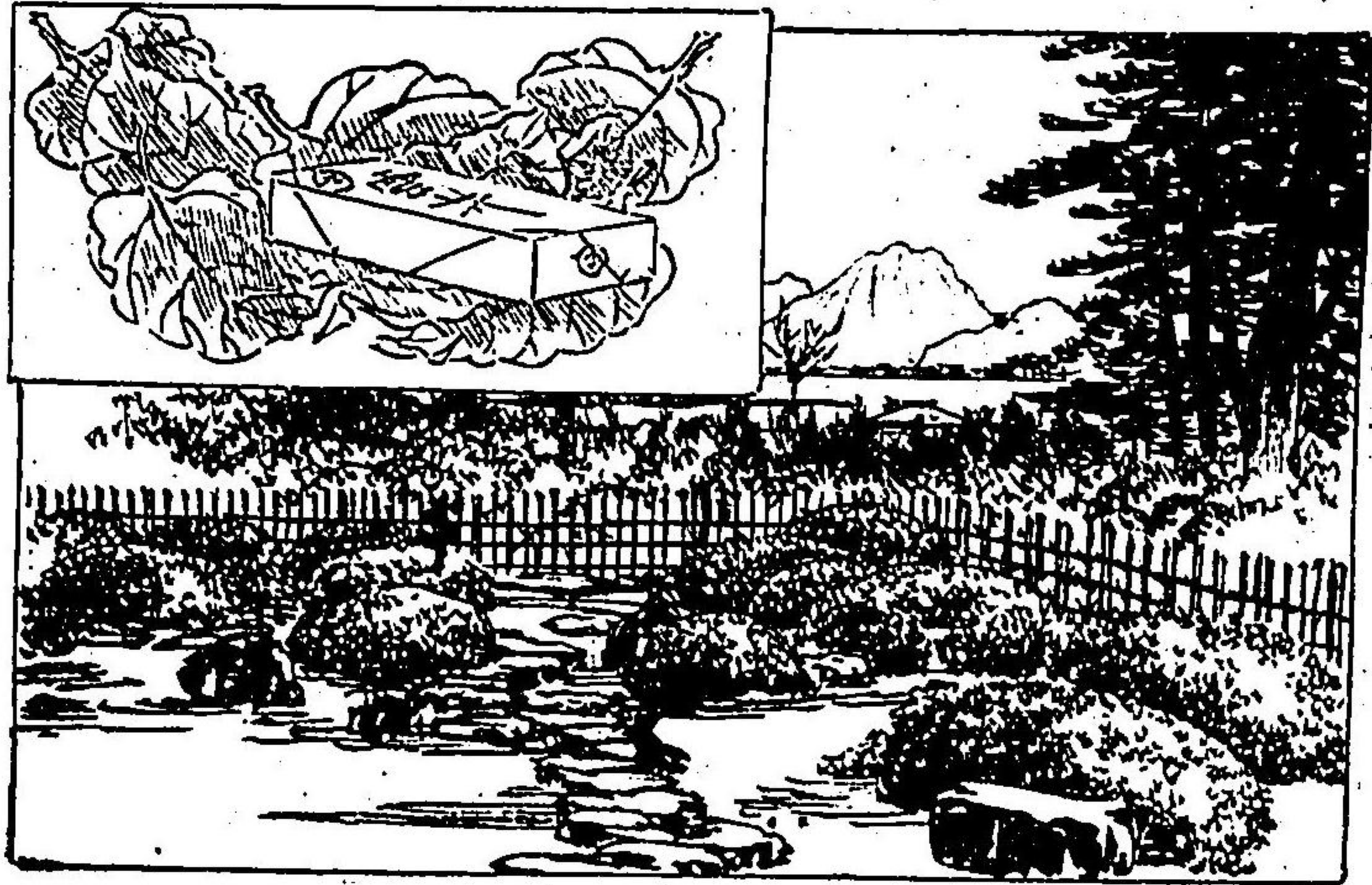
問 茨城縣の管轄區域及縣廳の所在地を述べよ。

本縣は河湖に富み利根川の流域は沃野相連り、土浦米の産地なり、東岸一帯は屈曲少き鹿島灘に面し漁利多し、北境には八溝山高く聳え南に延びて加波筑波の諸山となる、其東方は水戸煙草の名産地にして、西方の平野は實綿、米、麥等を産す。

水戸市は北に那珂川を帶び、南に千波沼を控へ、徳川三家の一なる水戸侯の舊城下にして、英名なる光圀公、藤田東湖等の生地なり、當時の偕樂園、弘道館は今尙舊規模を存し、日本



(一) 人口一萬二千



偕樂園よ筑波山を望む圖

三公園の一たり、市況繁盛にして煙草、菟蓐、木綿の産あり、日本鐵道の海岸線は、東京より水戸街道に沿ひ、小金原を過ぎ霞浦を右に望み、土浦、石岡等を経て此地に通し、更に北磐城に至る、又那珂河川の湊には日々汽船の往來あり、又西は笠間、下館、結城を經、小山に至りて、奥州線に會する、水戸線及久慈川を渡り、太田に達する太田鐵道ありて、交通の便は實に縣下第一たり。

(一) 人口一萬  
 (二) 人口一萬  
 (三) 人口一萬  
 (四) 人口一萬

太田は光圀公隱棲の地として知られ、勿來は古關の名を以て聞ゆ、其南方の地は寒水石及石炭を産す、其東岸の平瀉港は石炭積出の要港たり、平磯大洗は海水浴場を以て著はる、其他土浦石岡は共に醸造業盛なり、結城は鬼怒川に臨める小都會にして、結城紬結城縞の産あり、古河町は其の西南にありて、利根川に瀕し、東京と汽船の往復ありて市況盛なり、其南方なる相馬には平將門の遺跡あり。

埼玉縣

(一) 年産額  
 百十萬石

西部は甲武信三峯武甲の諸山相連り、秩父山彙をなして平地少く、養蠶機業盛に秩父絹の産著名なり、而して大宮郷を其中心なりとす、東部は利根川荒川の灌域に屬し、關東平野の一部にして、交通の要路に當り、本邦第一の麥作地なり。浦和町は木綿織の産地にして、中仙道の通路に當り、東京を

人口一萬二千

距ること十三哩なり、日本鐵道此處を經、大宮に至りて二分す、其奥州線は栗橋を經、利根川を渡り小山に續き、中仙道線は荒川の流域を走り、足袋の製造に名ある熊谷を經て、上野の高崎に達す、東武線は千住より來りて粕壁を經、久喜に至り奥州線に連る、熊谷より中武線により、荒川を溯れば、所謂秩父地方にして、石灰石蠟石等を出し、其南方飯能附近は斜子織を産す、其東方なる川越は甘藷の産地にして、平織亦名あり、川越鐵道は此處より機業の盛なる所澤を過き、國分寺に至りて甲武鐵道に合し、八王子に出て中央線に轉すれば小佛峠の長さ隧道を過ぎ山梨縣下に入る。

山梨縣

問 縣廳所在地を圖に就きて示せ。

中央線により本縣下に出て上野原に下車し、馬入川の上流なる桂川に沿ひ、猿橋の奇工を以て名高き猿橋驛に出づ、此

人口一萬九千

(一) 郡内織とも云ふ

(二) 人口三萬八千

四近は郡内と稱し養蠶製糸業頗る盛にして甲斐絹の名著し、尙進みて笹子峠を超え葡萄の産ある勝沼を過ぎ、北方に



甲州猿橋

天目山を望み縣下第一の都會なる甲府市(二)に着す、此地は四方山岳を以て圍まれ恰も摺鉢の底に位するに似たり、

北に國司嶽・金峯山の諸山あり、西に駒嶽及久遠寺を以て名高き身延山を望み、殊に東南には本州第一の高山たる富士山の雲外に屹立して千古の雪を戴くあり、其壯觀言ふべか

韭崎は勝頼新に城を築きし所なり富士川は日本三急流の一なり

三島

三島には官幣大社三島神社あり

北條の近傍に源頼朝の舘せられし小島あり

らず。

韭崎は諏訪路の要區にして、其西南雨畑村には良硯材を出し、近傍には到る所、金及水晶の名産あり、カサカサ鰍澤は富士川により駿河に出づる要地にして、河道は水勢疾きが故、二十八里の距離を僅に五六時間の舟行を以て岩淵に達すべし。

### 静岡縣

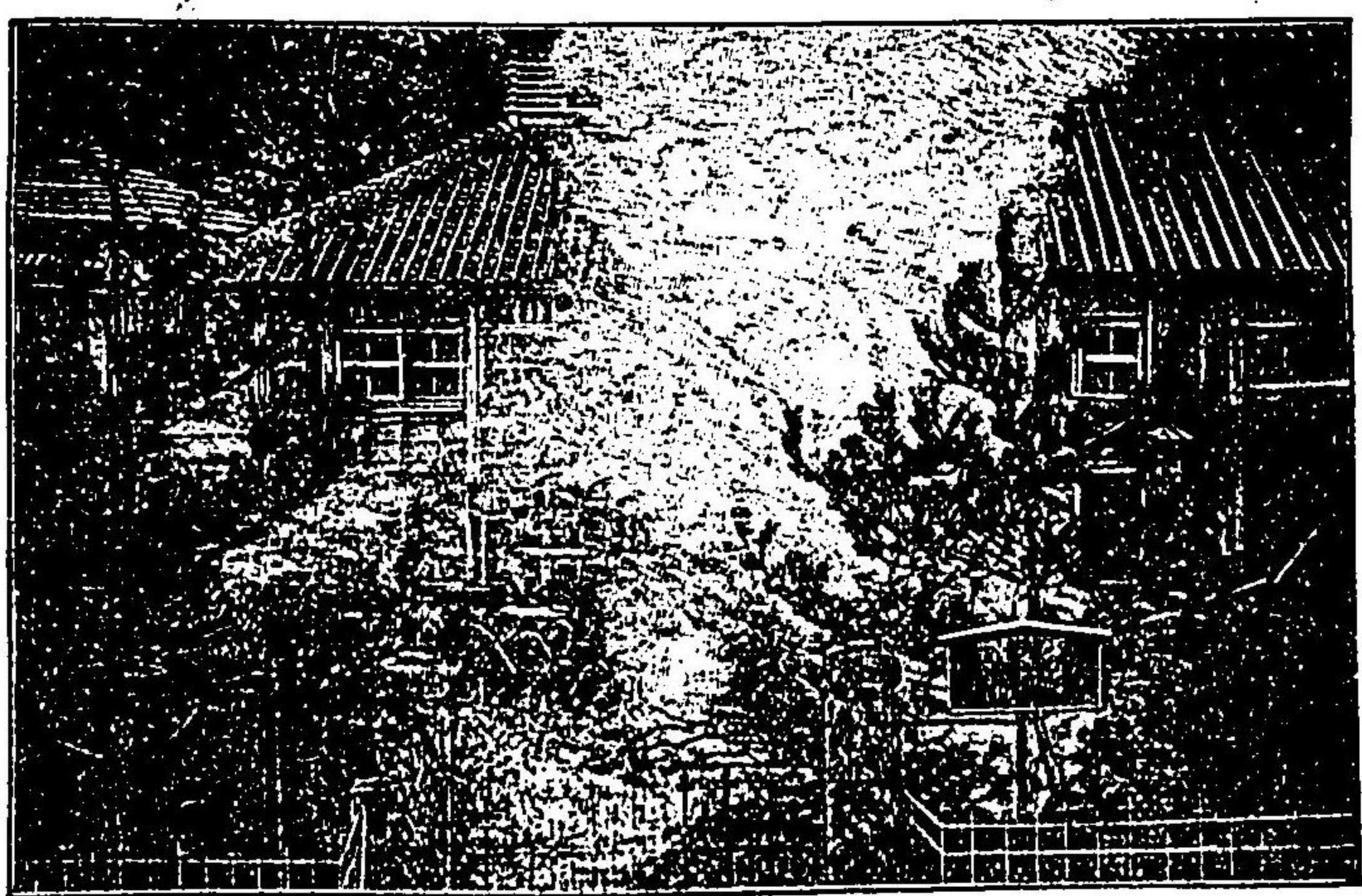
問 縣廳所在地を語れ

赤石山脈は北西部を限り、富士火山脈は北東部より伊豆を貫きて豆南列島に連なるを以て、地勢北方は高峻を極め南方なる富士川・大井川・天龍川の灌域は田圃開け米穀の産に富み、且つ盛に茶樹楮・三極を培養す。

伊豆は天城山全國に蟠屈するを以て、林産多く温泉諸所に湧出し、石材の産に富み、狩野川流域の外平野極めて稀なり。豆相鐵道は三島より三島山北條を経て修善寺に達す、是より

修善寺には  
頼家絶頼の  
墓あり

(一)人口一  
二十萬



熱海間歌温泉

を經北に富士山、南に田子浦を望みて富士川を渡り、興津を

狩野川を溯り山路を越え、半島の南端なる下田港に達すべし。

下田港は安政年中米艦來泊に關して史上に名高く、今は地方の要津たり、東海岸には根府川ありて伊豆青石の產地なり、熱海は本邦稀なる間歇温泉にして小田原より人車鐵道の設あり、周年浴客絶ゆる時なし、官設鐵道の東海道線は御殿場より三島沼津

過ぎ清見寺より遙に三保の松原を眺め、開港場なる清水港附近を過ぎ静岡に入り、焼津、濱松及濱名湖の鐵橋を渡りて三河に入る。

人口四萬二  
千

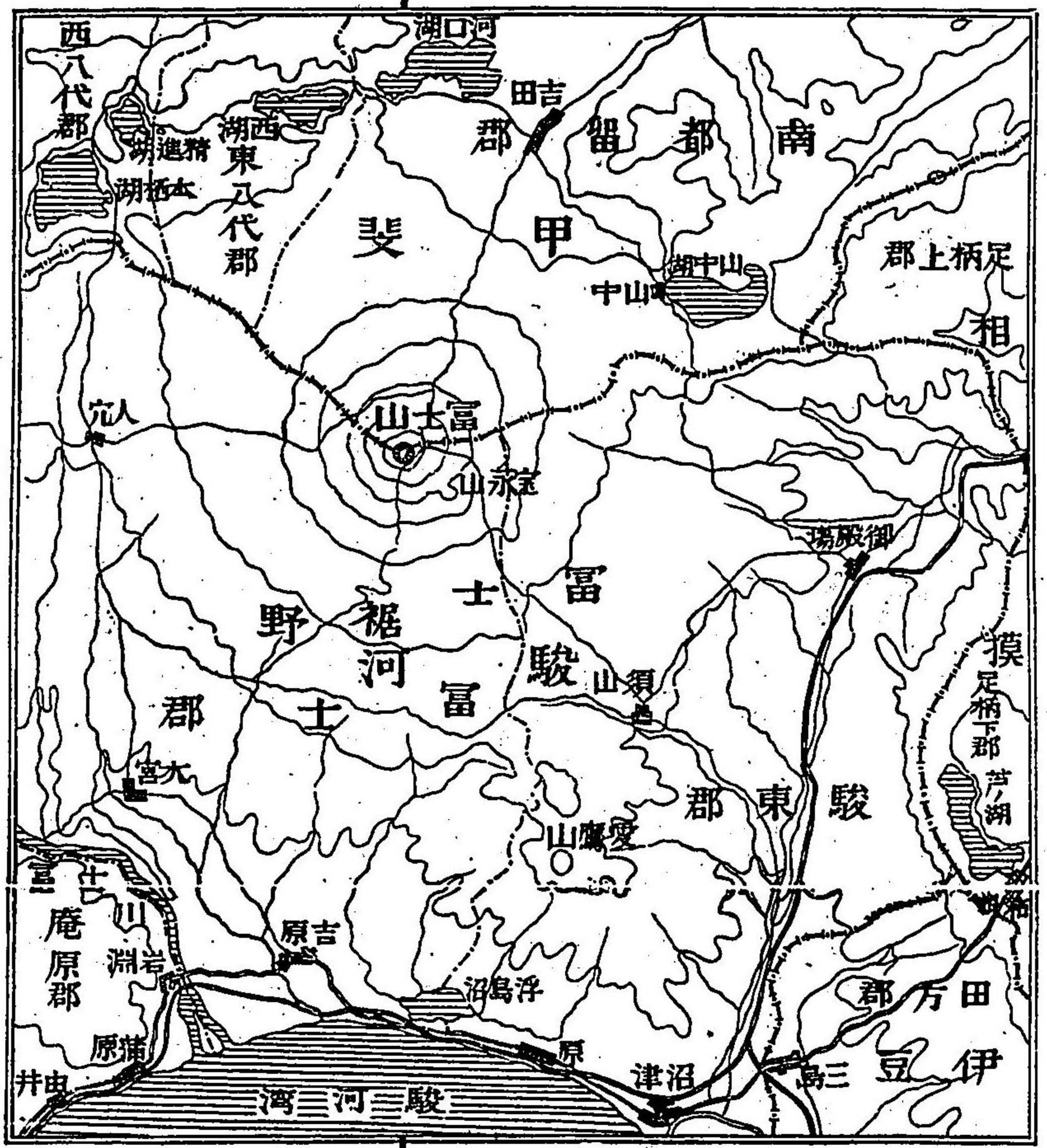
(一)人口一  
千萬

大井川の右  
岸に小夜の  
中山あり

静岡市は安部川の畔にあり、縣下第一の都會にして舊時駿府又は府中と稱し、市況繁盛を極め漆器、竹細工、賤機織及製紙の業發達せり、此地はもと徳川家康の居住せし所にして、市の東方久能山には東照宮の寢廟あり、市内の淺間神社及び市の北なる古刹臨濟寺等も亦皆有名なり、焼津は日本武尊の古事を以て知らる、西方島田は地方の名邑なり。大井川は平時水量甚高からざれども、潦水時に至ればその勢頗猛烈なるが故に、往時橋梁の設なかりしときは大井の川渡とて、東海道中有名の難所なりしが、今はさる趾方だに見えず、南方相良には石油の産あり。

水準曲線は  
最下線は  
四メシ  
十メハ  
以上は  
二百メ  
以上は  
二線に  
一線加  
ふ  
比例尺  
一十萬  
分之四

富士山附近之圖



人口二萬

濱松は遠江の都會にして、東海道鐵道の要路に當り市況賑かなり、北方に三方原あり武田・徳川の古戰場にして今は盛に茶樹を栽培す。

**富士山**は甲駿の境上にあり、本邦第一の名山にして直立一萬二千四百尺に餘り、頂上に舊噴火口あり院内と稱す、山頂の周圍には八峯創立して八朶の芙蓉狀をなし、劍峯最も高し、山嶺より四方を望めば雙眸に集まる所遙に五十六里に亘り、所謂富士見十三州の名實に空しからず、遠く之を見ればその姿は恰も白扇を倒に懸けたるが如く、盛夏と雖も尙千古の雪を殘し、溪間には清水の湧出する所あり、是れ所謂金明水及銀明水にして南麓裾野は遠く南方の平原に連り、曾我兄弟の美談を以て著はる、其盡くる處は則浮島原にして内に浮島沼あり、又北の裾野には河口山中精進本栖、西四尾連の六湖散在し、蘆の湖と共に富士八湖の名あり、大宮は富士登山の表口なれども、御殿場を経て須走口よりすれば五里十八町にして頂上に達する最近の登行路なり、山腹の寶永山は寶永年間に爆裂の結果なりと云ふ。

(一)人口一萬  
大宮には富  
士製紙會社  
あり

此三川は國名の由て起る所なり

人口一萬三千  
豊橋は日清戦役に馳名を揚げし第一十八聯隊の所在地なり

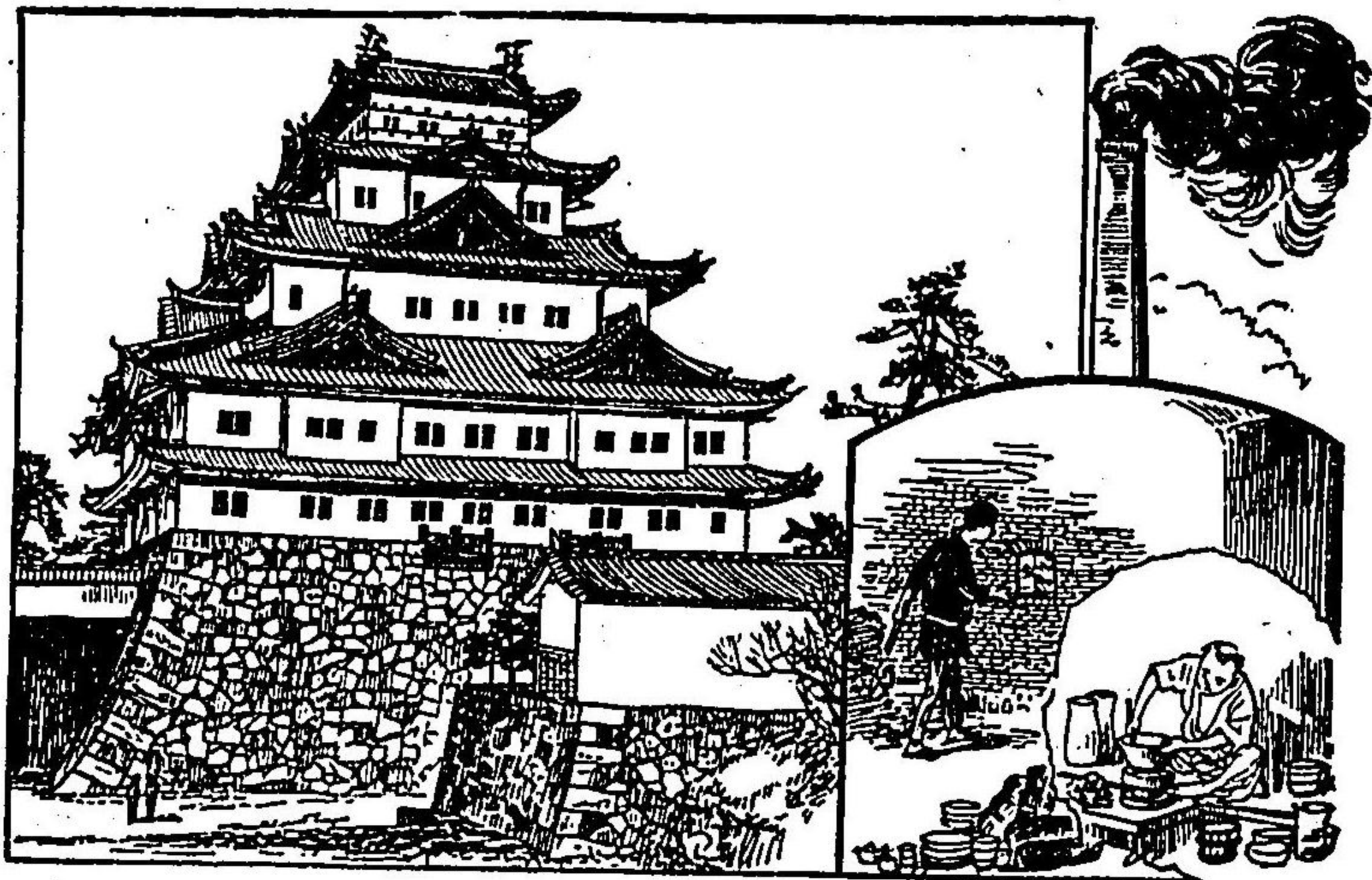
### 愛知縣

問 管轄區域及縣廳所在地を述べよ。

赤石及木曾山脈の餘派、東北より渥美半島に亘り、山岳起伏すれども、西より南は平野開け濃尾平野の一部に屬し地味極めて沃饒なり、豊川・太平川・矢作川の流域は平坦にして土地肥え、農産物としては豊に綿を培養し三河木綿の名世に高し、山地よりは石材を出し沿岸は漁業發達せり。  
東海道鐵道により三河に入れば豊橋に出づ、此地は豊川に臨み豊川鐵道の起點に當り市街繁盛なり、豊川には有名な稻荷明神ありて賽人常に絶へず、尙進めば長篠の古戰場あり、其の東北の鳳來寺山は松・杉・檜等の樹木全山を掩ひ半腹に鳳來寺あり、其北に砥石に名高き名倉邑あり、豊橋の西方に渥美半島と知多半島とを以て擁する渥美・知多の二灣あり、灣内の佐久島には海鼠腸の名産あり、尙西北行すれば

岡崎人口一萬七千家康の生地なり

人口二十四萬四千



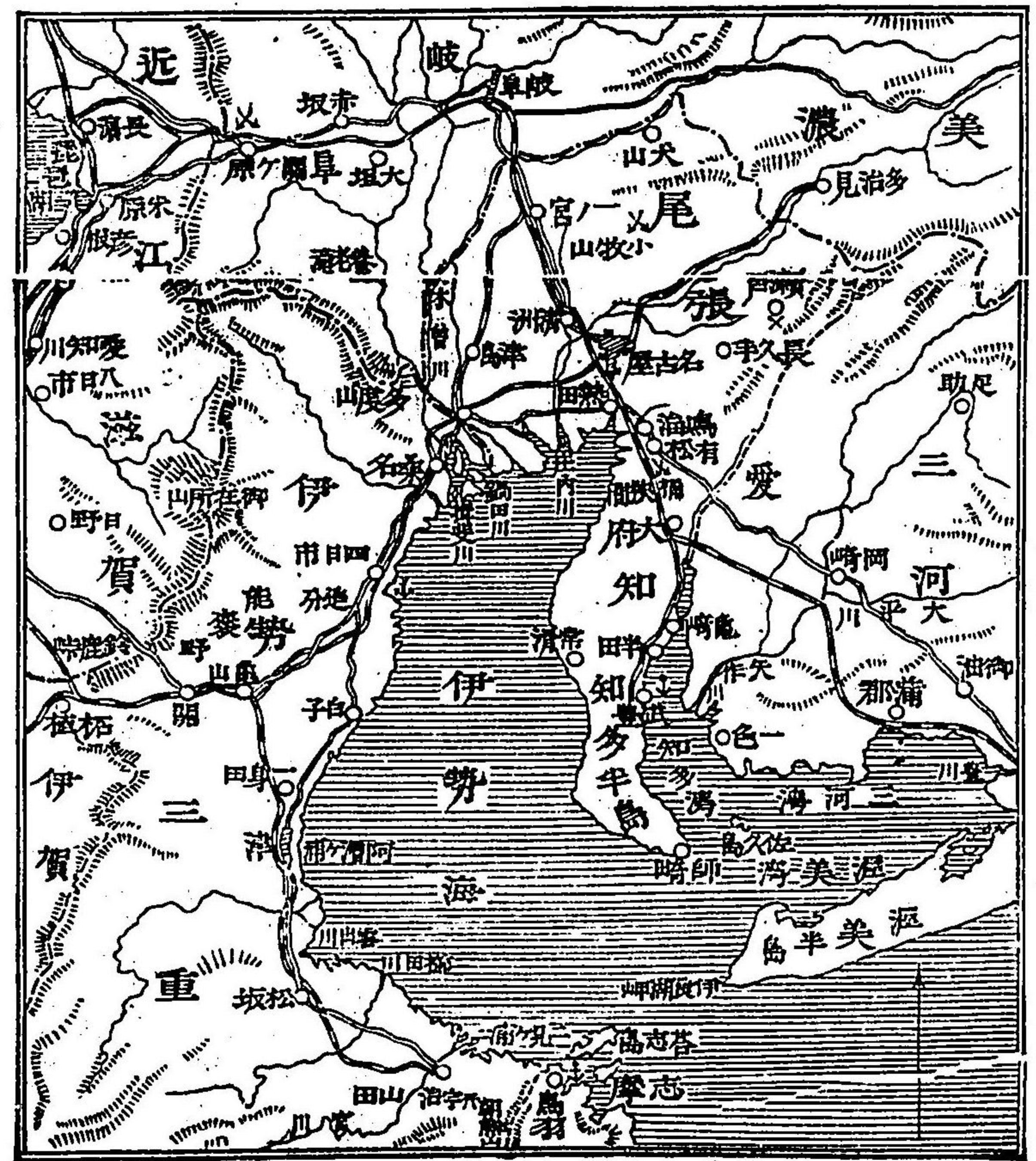
名 古 屋 城

矢作川の沿岸なる岡崎を経て大府に出づ、武豊鐵道はこより半田を過ぎて武豊に通ず、其西岸常滑は陶器を以て有名なり、大府より鐵道は桶狭間の古戰場を東に見て、瀬織染に名ある有松・鳴海の附近を過ぎ熱田を経て名古屋に達す。  
名古屋は鐵道を以て東京・京都に連絡し、且中央線及關西鐵道の起點に當り商工業大に發達し市況殷賑本邦第



名古屋附近之圖

比例尺百萬分の一



(一) 人口二萬五千

長久手小牧  
は豊臣徳川  
の古戦場な  
り  
(二) 人口一萬四千  
(三) 人口三萬

四の大都なり、人口凡そ二十五萬あり、此地もと尾張侯の舊城下にして金鯨を以て名高き城は市の北部に位し、其牙城は今離宮となれり、又第三師團控訴院の設あり、七寶燒・扇子・燐寸紡績糸・陶器織物は市の名産なり、市の南方に接せる熱田は熱田神社あるにより、俗に此地を宮と稱す、伊勢に渡る要津にして船舶常に碇泊せり、市の東北なる瀬戸村は名高き製陶地にして中央鐵道線路は其近傍を過ぎて美濃の多治見に通し交通便利なり、其附近長久手・小牧は共に古戰場なり、其北方木曾川に沿へる犬山も亦陶器の産に名あり。清洲<sup>(一)</sup>の宮津島<sup>(二)</sup>は互に鐵道を以て連絡せり、此地一帯は木曾川の下流に屬し地味豊饒なるも、屢洪水の患あり。

三重縣

問 管轄區域及四境を圖に就いて語れ。

伊勢海に面する地は濃尾平野に連接し、雲出川・櫛田川・宮川

人口三萬三千  
藤堂氏の舊  
城地なり

(一) 人口一萬三千



伊勢内宮

の灌域に屬して地味肥沃最も米穀に適し伊勢米の産地たり、又熊野灘に瀕せる地は平地少なく、西方一帯は紀伊山脈及鈴鹿山脈を以て大和近江に界し山岳連亘せり。  
津市は又安濃津と稱す、阿漕浦に接す、鐵道は名古屋及大阪に連り商業繁盛、縣下第一の都會たり、縞木綿、緞子織、阿漕漕焼を産す、市の北なる一身田に眞宗高田派の本山なる専修寺あり、松坂町は木綿織

(二) 人口二萬八千

(三) 人口二萬五千  
横濱へ二百  
哩あり

(四) 松平氏の  
舊城地なり  
人口二萬  
(一) 人口一萬  
五千

を産し國學の大家本居宣長の生地なり、宇治山田町は皇太神宮(内宮)豊受神宮(外宮)の在します地なるを以て、津より參宮鐵道を通し參詣者常に絶えず頗殷賑なり、東方二見浦は古來名高き勝地にして、鳥羽は的矢と共に志摩の要港なり。  
四日市市は開港場として水陸交通の便利なるを以て商業大に發達せり、洋紙綿糸の産出多く其近傍は萬古焼の産地なり、市の北なる桑名は木曾川の畔にあり、交通至便にして市街繁盛なり、時雨蛤を此地の名産なりとす、上野は伊賀中央の小都會にして伊賀焼を産す、其南に傘の産地なる名張邑あり。

問一、東海道の良港を列記すべし(三四商船)

問二、東海道鐵道の線路に當れる人口一萬以上の都邑を列記せよ。

問三、本道各府縣の物産二種宛を擧げよ。

### 東山道

問 東山道の國名及縣名を語れ。

(1) 中仙道 問 中仙道に於ける縣廳所在地を舉げよ。

### 滋賀縣

山岳四境に連亘し、中央は窪みて琵琶の大湖をなし、湖畔は地勢平衍なり、中にも東南岸は地味肥沃にして、農産物に宜しく江州米の名殊に高し、此地方は人口稠密にして長濱彦根・八幡・草津・大津等の名邑あり。

琵琶湖は其形琵琶に似たるを以て此名あり、周回七十三里、吐口は勢多川となりて淀川の水をなす、國內の諸川皆こゝに注ぎ舟楫灌漑の便利好く、今は汽船湖上を往來し、琵琶湖短艇競漕會も亦例年夏期に於て開かる、湖畔景勝に富み、夙に近江八景の名人口に膾炙し、富士山と共に我が國の美觀たり、湖水鯉鮒等多く、中にも源五郎鮒は其名高く鮒鮓として世人に賞美せらる。

大津市は湖上汽船航行の要津なるが上に、西は京都と疏水

〔近江八景〕  
栗津晴嵐 石山秋月 唐崎夜雨 矢橋歸帆 三井晚鐘 堅田落雁 瀬田夕照 比良暮雪  
人口三萬四千



愛知縣

三重縣

滋賀縣

岐阜縣

長野縣

群馬縣

栃木縣

栗津原は木  
會義仲の戦  
死せし所なり

人口一萬七  
石高二十五  
萬石  
佐和山城址  
は此近傍に  
あり  
人口一萬千



琵琶湖唐崎の松

運河を以て連絡し、且東海道鐵道の支線此所に達せるを以て貨物の集散甚だ迅速に市街繁華なり、三井寺逢坂山は市の西にあり、北方には唐崎比良山あり、石山寺勢多の長橋栗津原は市の東南にあり、草津は東海道線路に當り、又關西鐵道の起點にして交通上の要區たり。

は此地より藍・煙草の産地なる日野を経て關西鐵道に連絡し、北は長濱、東は岐阜に通ぜり、長濱縮緬は其名世に高く、此

八幡の近傍  
に安土の城  
址あり

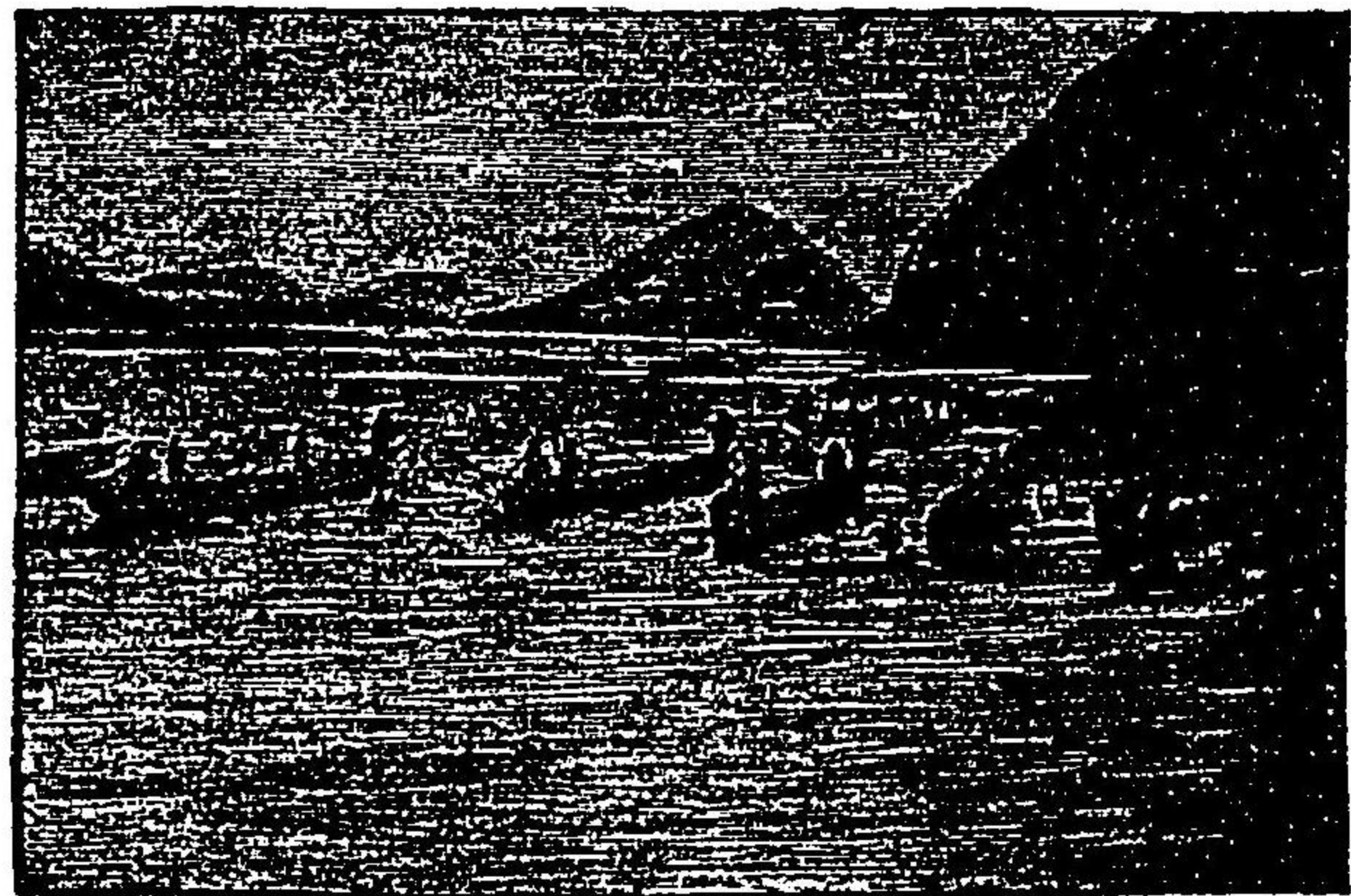
人口三萬二  
千

地方は一般に養蠶業甚だ盛なり、北方に姉川・賤岳・余吾湖あり共に古戰場なり。  
其他八幡及南方の日野は商業地にして又蚊帳の産あり、信樂郷は信樂焼を出す。湖西高島郡は高島縮の産地にして、近江聖人の遺蹟あり  
**岐阜縣** 問は前數縣の例に倣へ、以下之を略す。  
北方は濃飛高原にして山岳重疊し、宮川・白川の灌域地は僅に農業製紙業を營み、南方は木曾川の流域に屬し、所謂濃尾平野の一部をなし、灌漑の便あり、地味肥沃にして農産頗る夥しく、養蠶製紙の業盛なり、岐阜・大垣・高山は縣下の都會なり。  
**岐阜市**は名古屋・京都の中間に位し、汽車東西に通し、稻葉山の古城址及鵜飼を以て名ある、長良川は、共に市の近傍にあり、提灯・團扇・縮緬及紙は市の名産にして商業頗盛なり。

人口一萬九千  
戸田氏の舊  
城下に於て  
大垣城今尙  
は存す

赤坂は大  
理石の産を  
以て名高し

人口一萬  
六千



長良川の鵜飼

**大垣**は岐阜の西に位し、桑名に通ずる舟楫の便を有し、縣下第二の都會なり、養老の瀧は其南の多度山中にあり、中仙道は近江より不破の關址關原赤坂の古戰場を過ぎ、岐阜の南方なる木曾川の沿岸を遡りて信濃に入る、岐阜より東北行すれば、刀劍に有名なる關を経て飛驒の高山に至る、此地は濃飛高原に位する當國第一の都會なれども、寒暑の差特に甚し、此地は一位細工を以て有名なり、位山は其西南に聳ゆ、此國は古來名匠の世に出たる者鮮からず、所謂飛驒匠の名夙に人の能く知る所なり。

### 長野縣

問 四境の國名をあげよ。

繭の年産額  
四十二萬石  
生糸の年産  
額 四十七萬貫

諏訪湖は冬  
期湖面氷結  
して人馬氷  
上を行く

境域十國に接し、四面は皆峻山を以て包まれ、地勢一般に隆起して中央高地の一部をなし、地體平均二千三百尺に達す、是故に縣内の諸川悉く他縣に流れ去りて海に朝し、唯其河谷點々僅に低地を残すのみ、善光寺平、松本平、諏訪平、伊奈谷及木曾谷は田圃開け農耕に適するも、主要なる生業は養蠶にして繭生糸の産額本邦第一に位す、又更科蕎麥は所々に産すれども、犀川流域の産著明なり。

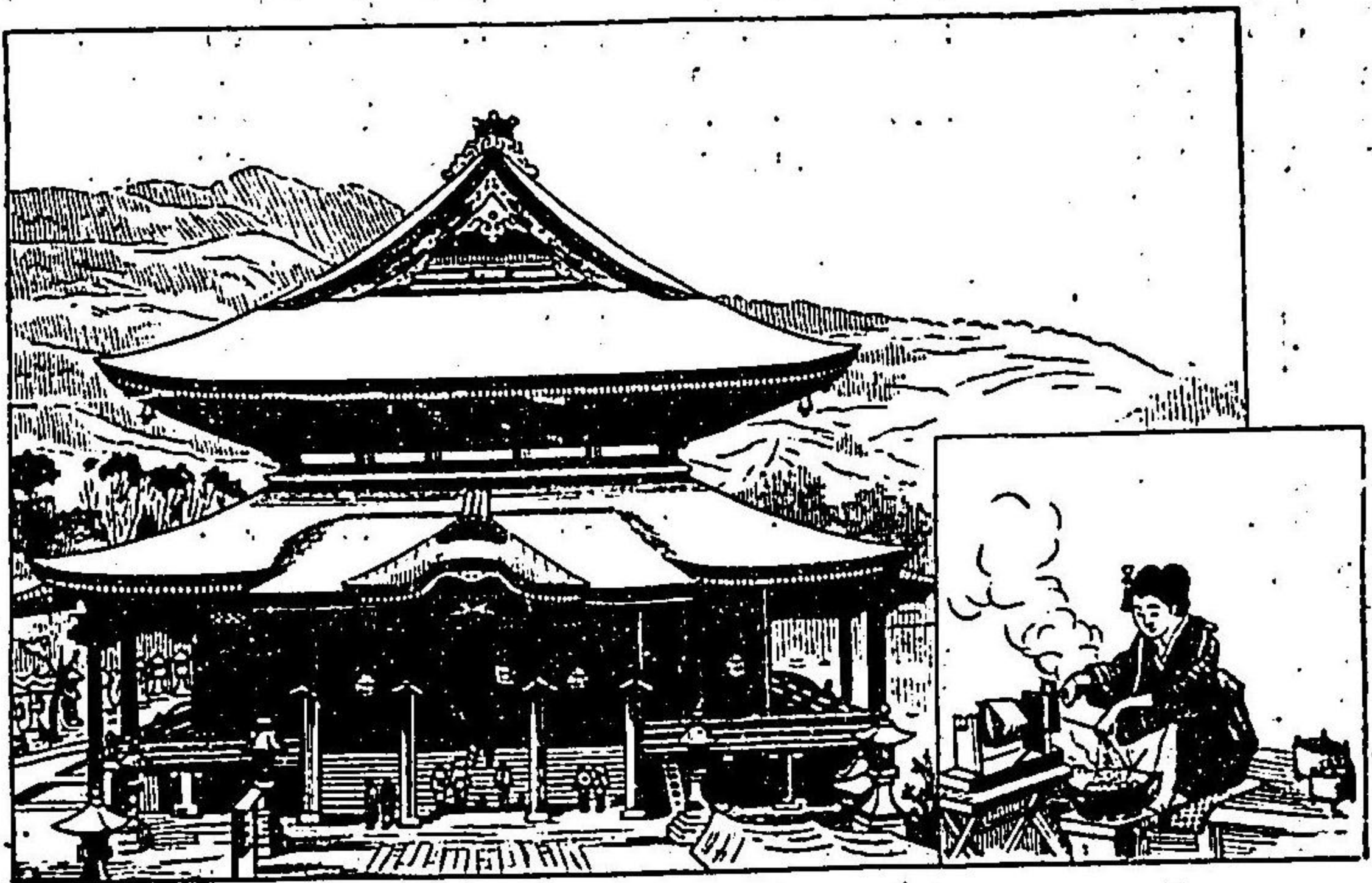
中仙道は美濃より寢覺の床の勝景を経て、木曾の棧橋のありし福島をすぎ、深林良材に富み、且木曾駒の産地たる木曾の奔流を辭し鹽尻峠を越えて諏訪平に出づ、諏訪湖は其中央に位し湖畔の諏訪町は其附近の地と共に製糸業甚盛なり、

(一) 人口一萬

(二) 人口一萬四千  
本多氏ノ舊  
城下

(三) 人口一萬  
松平氏の舊  
城地其天主  
閣今尙存す

(四) 人口三萬  
一千



善光寺

り、又上諏訪地方は温泉多く、戸々浴湯の設あり、湖水は南に流れて天瀧川の源をなす、其流域は即ち伊奈谷にして、其中央に飯田町あり、元結は此地の名産なり、中仙道は和田峠を越えて、佐久平の北方道分に出て北國街道に合す、松本は犀川の上流なる松本平にありて、養蠶業盛なるが上に南部地方より越後までの商權を握る、長野市は善光寺平の中央に位す、殊に此地

善光寺は三國傳來の佛像を安置せり

(一)武田上杉の古戰場  
(二)貝津城址あり  
(三)人口二萬四千

(四)日本武尊の舊蹟ありと云ふ

は信越鐵道の通路に當ると、善光寺の大伽藍あるとにより、縣下第一繁華の地たり、市の南なる犀川と千曲川との落ち合ふ所は所謂川中島なり。  
松代町は其東南の平地にありて佐久間象山の生地なり。<sup>(四)</sup>上田は佐久平にある都會にして養蠶業盛に行はれ生糸紬を産す月と蕎麥とを以て名ある更科郡の姨捨山は、町の西北千曲川の西岸にあり、此所より左に淺間山の煙を眺め追分輕井澤を経て碓氷峠を過ぎ上野に入る、碓氷峠は二十六の隧道を穿ちアプト式の鐵道を布設せり。

### 群馬縣

碓氷峠を越えて群馬縣に出づれば、東北西の三方は山岳を以て繞らし、利根川の上流縣内を貫流し、淺間火山脈は域内を横過して、赤城榛名妙義の諸山を起し、高山峻嶺をなせど

人口三萬五千  
松平氏四十  
七萬石

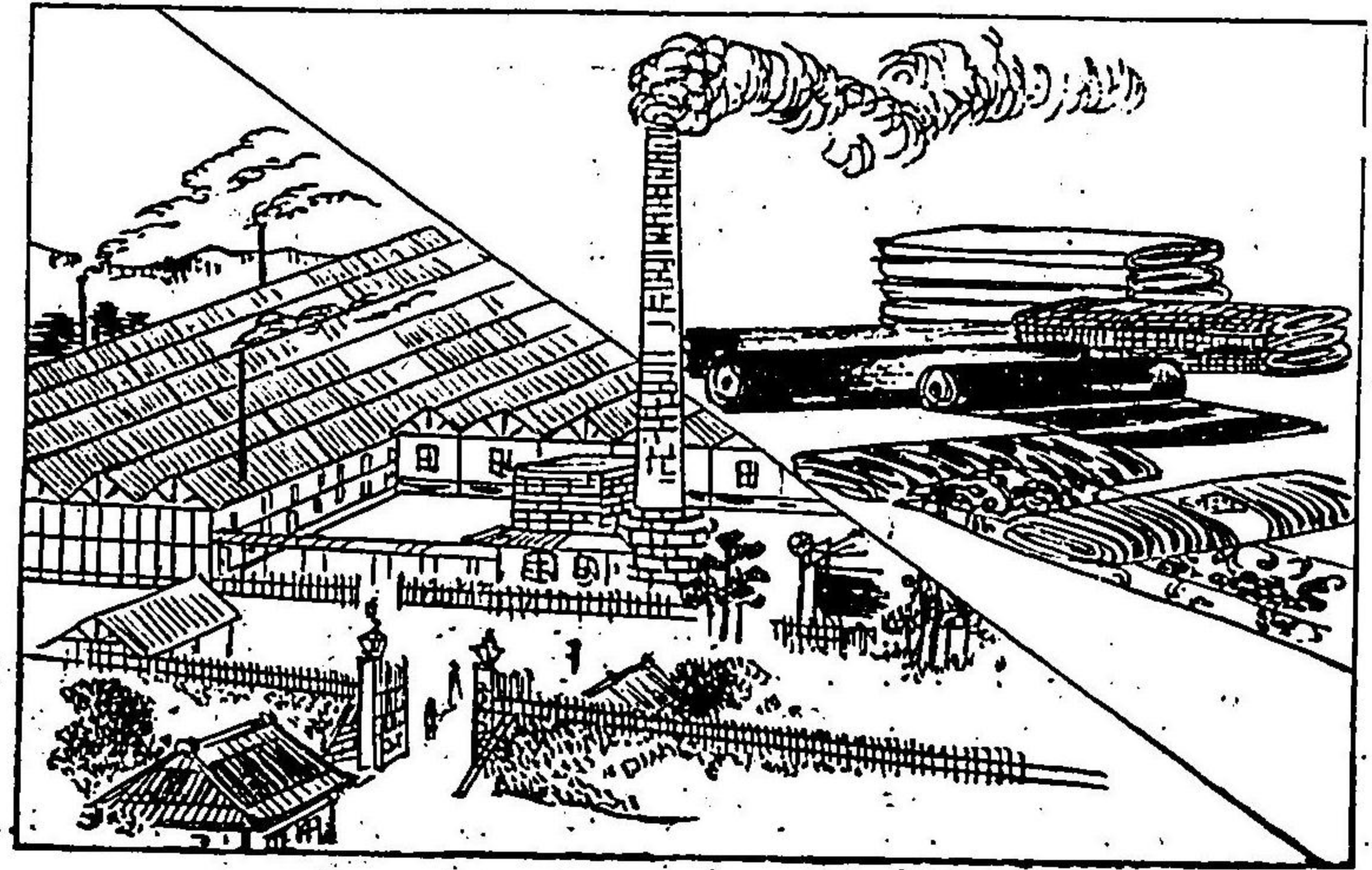
人口三萬一  
千  
高崎は大河  
内氏の采邑



榛名山の圖

も、東南部は關東平野の一部にして地坦に土肥に米穀の産少からず、且養蠶業最も能く發達し、繭生糸の産額極めて多く、本邦屈指の蠶業地なり。  
前橋市は縣下に於ける生糸取引の大都市なるのみならず、交通も亦甚、便利にして、北は利根川の溪谷より清水越を経て越後に達し、南は坦道各地に通し、日本鐵道の兩毛線は、西南高崎に於て信越線に連り、東は伊勢崎桐生を経て下野に入り、東北線に連絡す、故を以て市況頗殷賑なり。  
高崎市は南部の平地にあり、古來中仙道

(一)五代將軍  
綱吉の封せ  
られし地な  
り  
人口二萬四  
千



桐生織物工場

の通路に當り、汽車は東北に於て前橋に連り、西は信越線に通し、南は上野鐵道を以て連絡さる、富岡(本邦第一の製糸場あり)を経て下仁田に達し、東南は東京に至る、交叉點に當り市況甚だ盛なり、東方に於ける伊勢崎の銘仙織は桐生の絹織物と共に其名高く、新町は紡績の業盛なり、其東方の金山には新田氏の古蹟あり、其東南なる館林は木綿を以て名高し、榛名山の東

人口三萬二  
千  
(一)戸田氏の  
藩城下  
寛政三奇士  
の蒲生君平  
の生地なり  
(二)の人口一  
萬二千

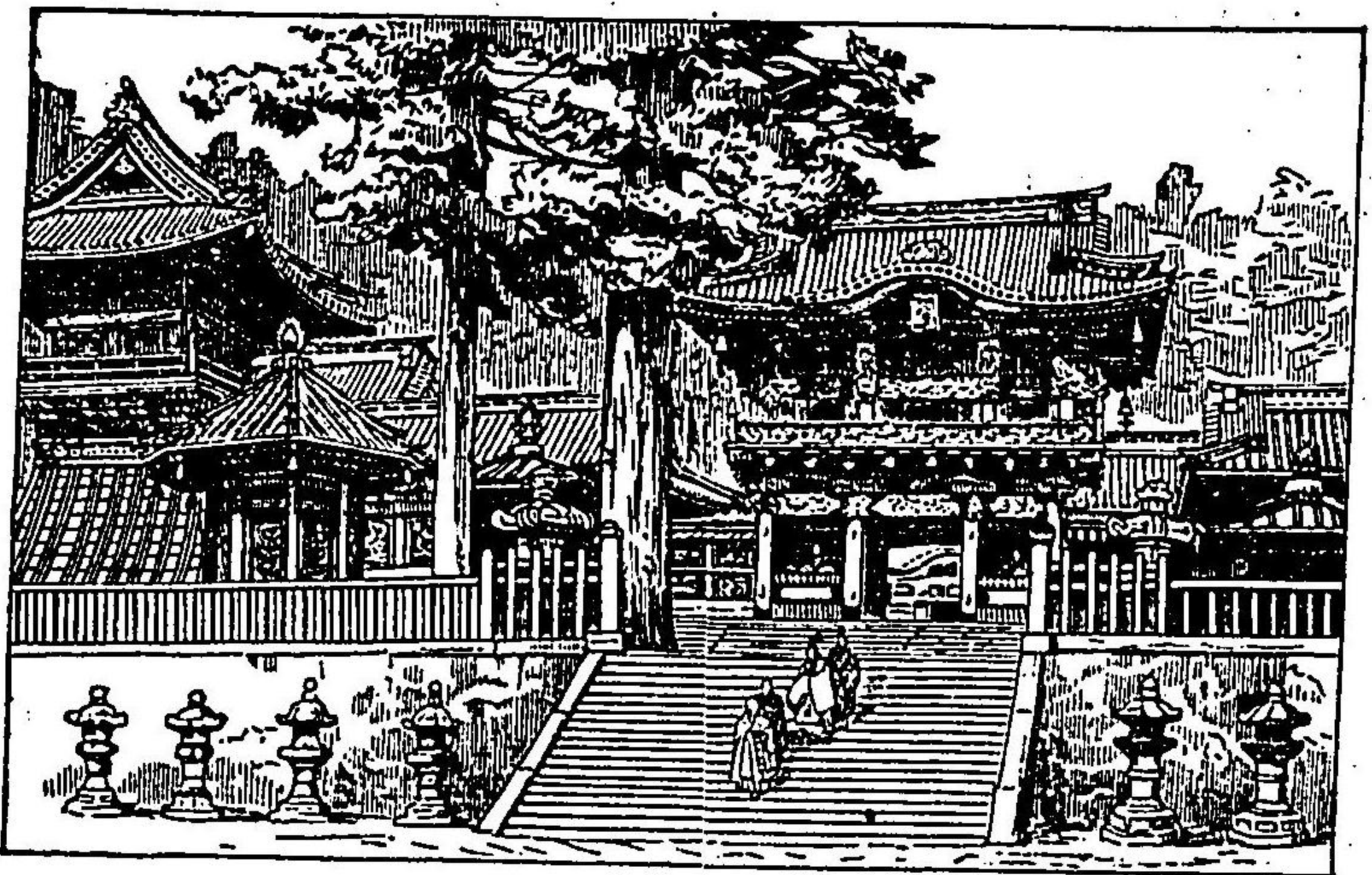
麓なる伊香保及西北の草津温泉は古より世に名高く、妙義に近き磯邊も亦温泉を以て知らる。

栃木縣

本縣の南部は關東平野の一部をなし、北は山岳重疊し東北境に入溝山聳々、北境に那須岳高く峙ち、其麓には有名なる那須野原あり、其脈西方に延ひて男體・白根の諸山を起し、所謂那須火山脈をなすを以て鹽原等の有名なる温泉湧出す、中央以南は那珂川・鬼怒川の流域地にして平野開け麻・綿・桑の栽培に適し、干瓢・煙草も亦産額多し。

宇都宮市は關東平野の中に位し、奥州線及日光線の會合點に當り、東京を距ること六十六哩餘、市況盛なり、市の東南の真岡町は小都會なれども、其地方に産する木綿の名は古來世上に著し、日光線の要路に當れる鹿沼は有名なる麻の産





日光陽明門

地にして盛大なる製麻會社あり、日光町は男體白根等の諸山よりなれる日光山彙の南麓に位し、徳川氏祖廟の在る地にして、その東照宮は幕府の隆盛なる時財寶を盡くして經營せしものにて、金碧燦爛壯麗を極む、日光を見ずして結構を云ふ勿れとの諺を以て其當時を想像するに足る。

男體山は高く八千尺に聳ゆる名山にして、南麓に中禪寺

(一) 人口一萬九千九百七十一人

(二) 人口二萬一千二百人  
足利學校の創  
小野篁の所  
立せしなり

湖あり、湖畔の風景賞すべし、其水溢れて華嚴の瀧となり、飛下すること四十餘丈、大觀豪壯を極む、下流を大谷川と云ふ、裏見瀧、霧降瀧等と共に勝景を以て稱せらる、日光の西南六里に足尾町あり、有名なる銅山は銅の産出本邦第一にして、全産額の三分の一を占むといふ、市街の賑やかなるはこれが爲なり、渡良瀬川は此地に發す。

足利は兩毛線路に當り絹織物の産地として名高く、有名な足利學校あり、佐野町は木綿鑄物を以て聞ゆ、佐野鐵道の起る所なり、栃木は宇都宮に次げる都會にして、干瓢、生糸、薪炭の集散盛なり、小山は東北線、兩毛線、水戸線の交叉點に當り、市街繁盛なり、上野下野は昔の毛國なるを以て兩毛と呼ぶ。

問 中仙道の地勢及生業を述べよ

(四) 奥羽 問 奥羽の國名及縣名を擧げよ。

### 福島縣

(一) 人口二萬

(二) 人口一萬三千九百

(三) 人口二萬五千

地勢は阿武隈山脈中央分水山脈出羽山脈南北に連亘し、東海岸及阿武隈川流域會津平等の平野其間にありて米・麥・大豆等の農産及牧畜養蠶の業盛なり、而して福島郡山若松等を其名邑なりとす。此地以北は古の陸奥にして峯巒南境を限り、交通不便を極む、勿來白河關の設けられし所以なり。

福島町は阿武隈川の西岸に立ち交通の要區に當り、蠶業能く發達し絹織物の産額多く、東に有名なる文字摺石あり、其南の二本松は紬を以て名高し、且白河と共に戊辰の役の古戰場なり、郡山は生糸の産を以て知らる、須賀川三春は馬又は煙草を以て著はる。

若松市は猪苗代湖の西北會津平の中央に位し、會津塗・會津焼及蠟燭を出し稍繁華なり、此四近の地は農産に乏しきも

(一) 人口一萬一千

(二) 人口一萬五千  
白河の南方  
一里餘に白  
河關址あり



猪苗代湖と磐梯山

工藝品の産出多し、又戊辰の史上に於て有名なり。

猪苗代湖の北方に聳ゆる磐梯山及吾妻山は近年噴火せし變災を以て世に知らる。

(一) 白河は土地頗る峻険にして勿來と共に奥羽の咽喉を扼す、戊辰の際に於ける激戰場にして、又盛なる馬の市あり、其東方の棚倉は製紙を以て聞ゆ。

(二) 平は海岸地方交通の中心に當り、市場賑はしく西に白水

炭坑を控ふ、其北方の**中村**は相馬焼を以て名高し。

### 宮城縣

西は中央分水山脈を以て縣界を限り、東には北上山脈北より來りて牡鹿半島を突出す、其間に北上川阿武隈川の流域地たる仙臺平野遠く開け交通運輸の便に富む、是れ有名なる仙臺米の産地なり、鹽竈には鹽竈神社あり、**松島**は日本三景の一にして松島灣内に在り、沿岸は魚鹽の利



松島

多く**金華山**沖の鮪は特に有名なり。

仙臺市は奥羽に於ける最大の都會にして、第二師團控訴院及第二高等學校の設あり、市内の勝地には躰躰岡、櫻岡等あり、市の名産には仙臺平織、八橋織及埋木細工等あり、市の附近には多賀城址及秋草の名所なる宮城野あり、**石巻**は北上河口にありて縣下の要津なり、**萩濱**は牡鹿半島の西南に位し、函館横濱間の航路に當り船舶の出入頻繁なり、**岩沼**は鐵道及國道の分岐點に當り、**白石**は阿武隈川の流域にありて養蠶業甚盛なり。

### 岩手縣

中央は北上川南北に貫流して土地平坦に、田圃よく開けて耕作に適し、産物多くして且交通上の要部を占め、**盛岡**、**黒澤尻**の一の關等の名邑ありて點々連続す、西部は中央分水山脈

(一) 人口八萬三千  
伊達氏累代  
二萬石  
の政下  
寛政の三人  
士の子平は  
此地に生る  
此人口九萬

東海岸は先  
年大海嘯被  
害の地なり

人口三萬三  
千

(一)安倍貞任  
の柵址あり

(一)高野長英  
の生地あり  
又地軸變移  
觀測所の設  
あり

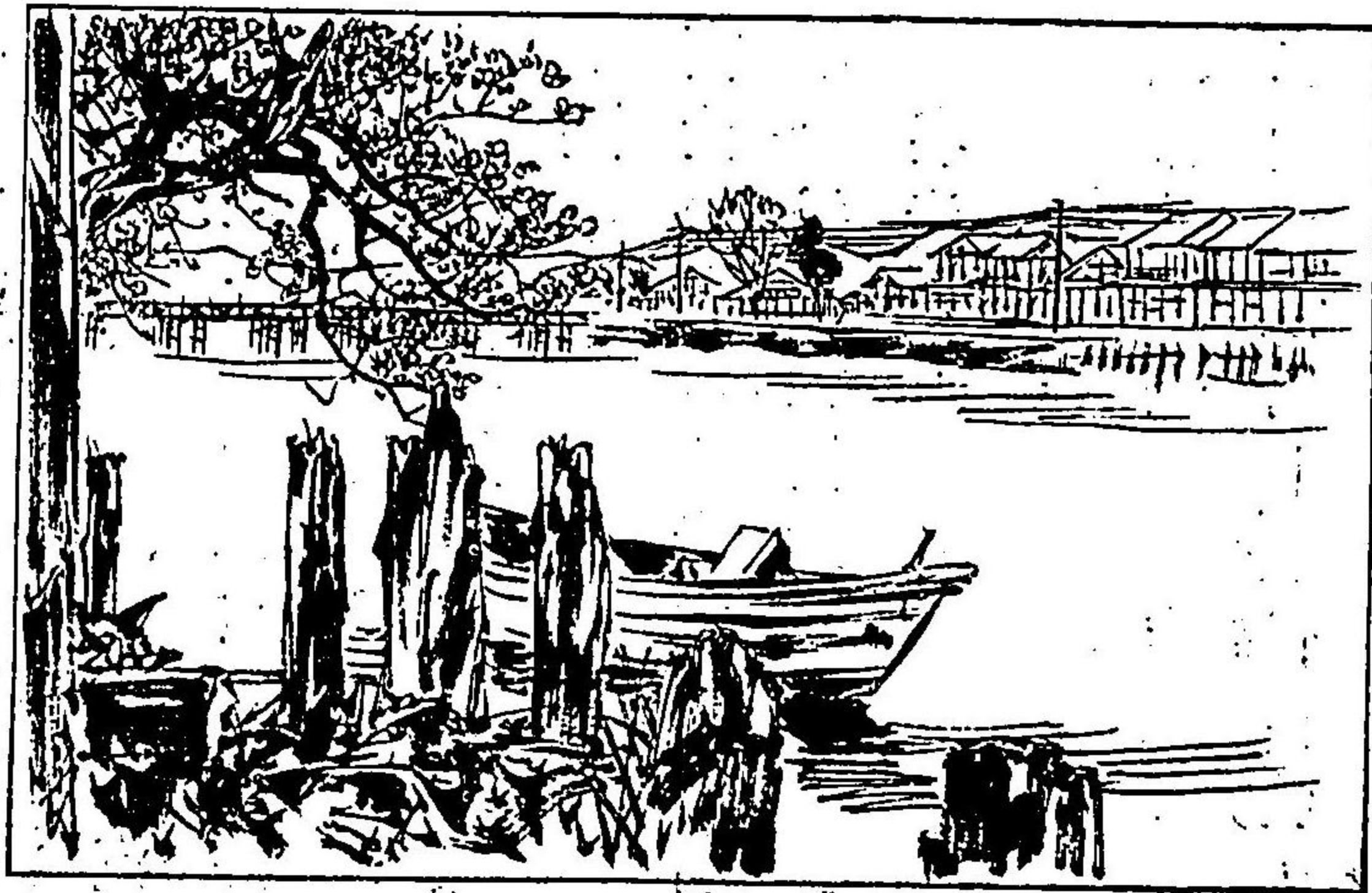
連亘して國境を限り、東は海岸に近く北上山脈南北に走り交通を不便ならしむ、東岸の地は平野少きを以て住民多くは漁業に従事す。

盛岡市は北上川流域の北部に位し、縣下交通の要路に當り南部氏の舊城下なるを以て南部と稱す、南部縮緬細織物を産す、市の對岸に厨川あり、附近の地は馬の飼養を以て有名なる南部馬の産地なり、縣下の交通は南仙臺より養蠶の盛なる一の關、近傍の平泉館高館の舊址及中尊寺の古刹、衣川の柵址より、水澤を経て盛岡市を過ぎ南部富士と稱する岩手山を左に望み、一戸及有名なる末の松山を経て青森縣に入る、東海岸の宮古金石は縣下の要港なり、釜石近傍の仙人峠は鐵鑛に富み帝國第一の良鑛なり。

青森縣



相坂川は十  
和田湖より  
發す



青森港埠頭の圖

三面海を以て圍まれ、沿岸屈曲に富み、斗南津輕の二半島は平館海峽を挟みて内に陸奥灣を抱く、夏泊崎中央に突出し野邊地、青森の二灣を分つ、中央には分水山脈連亘し地勢自ら東西二部に分る、馬淵、相坂の流域及小河原沼の沿岸は平野開け、地味豊腴にして能く米作に適し、牧畜業亦盛なり、中央及西部は山岳重疊し、僅に岩木川流域の地方のみ土壤肥沃にして米穀

人口二萬八千

岩木山より起り出羽山脈中を南走する火山脈を岩木火山脈と云ふ  
人口三萬五千

に適す、山地は又一般に漆樹を栽培す。  
青森市は青森灣に臨み汽車の便あるのみならず、函館に渡る要津なるを以て市況殷賑なり、此處より奥州線は野邊地に出づ、其對岸に大湊の軍港豫定地を望み、南、小河原沼を左に見て、相坂川を渡り支線を鮫港に出し、馬淵川の流域を溯り陸中に入る、官設奥羽北線は西南岩木川の畔に出で津輕富士の名ある岩木山を右に仰ぎ、縣下第一の都會たる弘前市を過ぎ秋田縣に通ず、此市に第八師團を置く、津輕塗は市の名産なり。

### 秋田縣

(一) 人口一萬

地勢は中央分水山脈を以て岩手縣と向背をなし、西、日本海に向て傾斜し、能代御物の兩流域は田野開け米豆類の産地なり。東方山岳地方には尾去澤(銅山)小坂(銀山)阿仁(銀銅)南方

(一) 人口一萬四千

人口一萬三千

(二) 佐竹氏の舊城地人口三萬

には院内(金銀)の鑛山ありて最も世に著名なり。  
奥羽北線によりて此地に入れば、直に能代川の流域に出で遂に其河口にありて日本海の要港たる能代に達し得べし、能代塗一名春慶塗は其地の名産たり、是より國道に由れば八郎潟の畔に出で男鹿半島の寒風山を遠望し土崎港に達す、是亦良港にして秋田の市況を承けて殷賑を極め船舶の碇繋常に絶えず、秋田市は西に土崎港を據え商業繁盛機業も亦大に發達し秋田畝織八丈縞及秋田蓆は當市の名産なり、市の東にある高清水は秋田古城址のある所なり、秋田より海岸に沿ひて南すれば子吉川の河口なる本莊町に達す、子吉川は鳥海山より發し鳥海山は高さ七千餘尺あり、岩木火山脈中の秀峯なれば此脈を一に鳥海火山脈と名づく。

問 日本鐵道線路の過ぎる縣名國名及縣廳所在地を擧げよ。

### 山形縣

羽前の三山

- (一) 人口三萬五千
- (二) 人口一萬三千
- (三) 人口二萬二千
- (四) 人口一萬二千
- (五) 人口二萬

東境は中央分水山脈連亘し、北境は支脈鳥海山に連り、南境も亦支脈飯豊山より朝日岳に及び、遂に海中に没す、中央には羽黒山湯殿山月山聳え最上川の流域これが爲めに屈曲し、流勢急激日本三急流の一に數へらる、されど此流域は地味、農耕に適し出羽米の産地たり、其上流は紅花薄荷の産に名高し、下流近傍は庄内平野にして酒田鶴岡の名邑あり。  
**山形市**は南は米澤節織の名ある**米澤市**を経て福島に至るの間鐵道及國道を以て連絡し、北は最上川の谷に沿ひて**天童**及龜綾織の産ある**新庄**を経て秋田縣に通じ、實に縣下の大都たるに恥ぢず、**酒田**は縣下第一の良港にして船舶の出入多く、北本莊に連り、南は繪蠟燭を以て名ある**鶴岡**を経て新潟に通ずる街道に當り商業盛なり、此此方馬生糸漆器の

産を以て其名高し。

問 奥羽の良港を列記すべし。三四、商船

### 北陸道

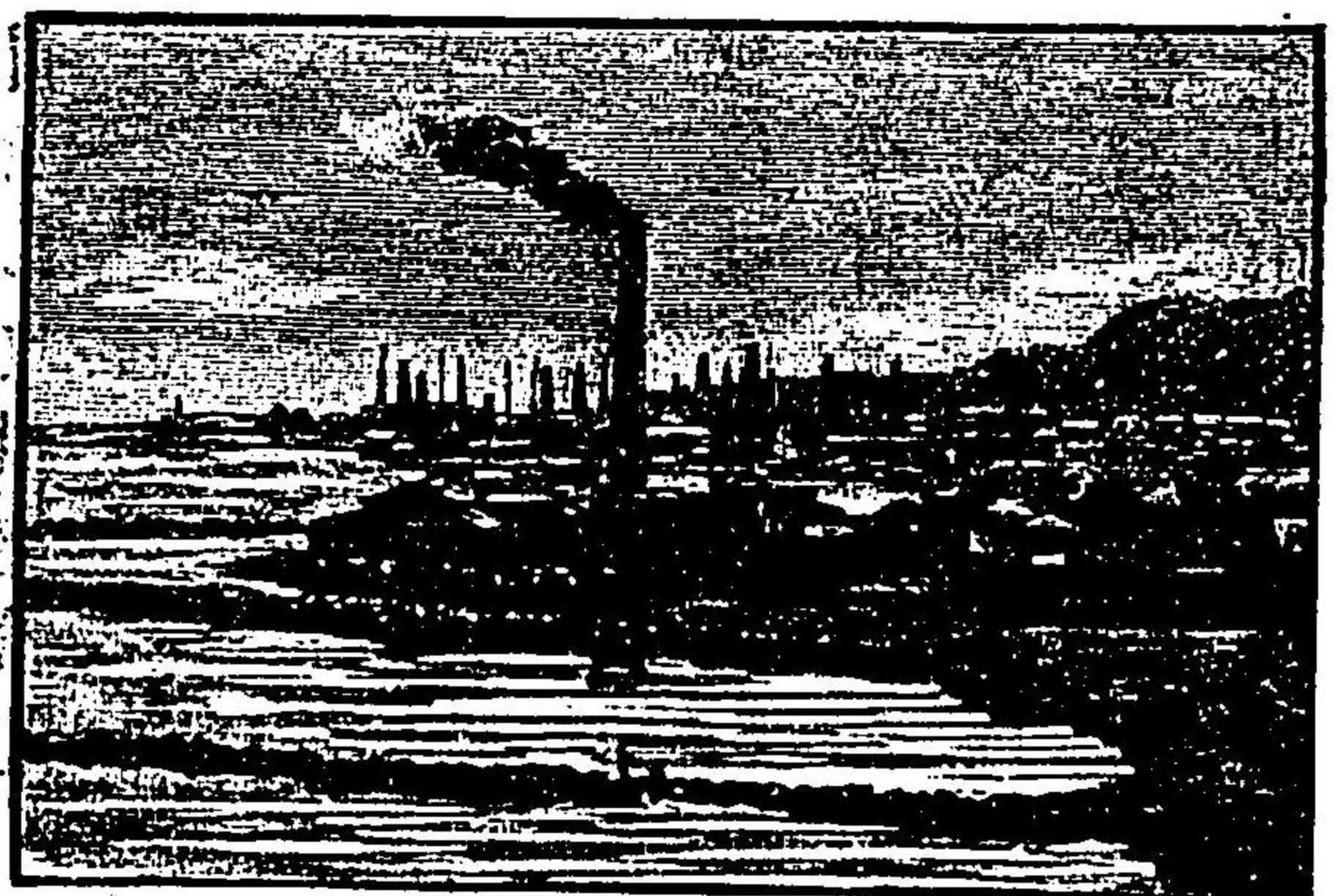
問 北陸道の國名縣名を擧げよ。

### 新潟縣

越後は中央高地の北面に當り、信濃川阿賀川の流域及海濱は平野遠く連り湖沼多く運輸灌漑共に好く越後米の産地なり、**新發田****新潟****長岡****直江津****高田**の都會亦此間に點在せり、佐渡は新潟より三十二湮隔れる島國にして、全島山岳多く**金北山**最も高し、中部の狭き所は田圃開け農耕に適す。  
**新潟市**は信濃川河口の西岸に位し鐵道及國道を以て直江津に通ず又上野に通ずる國道と村上を経て酒田港に至る北街道とあり、市況繁盛にして夙に外國と互市を開きしも

本縣米穀の  
 産額二百四  
 十萬石にし  
 て全國第一  
 位を占む  
 人口五萬三  
 千

人口一萬一千



出雲崎石油坑

港内水淺くして大船は港口を距る數十町の沖に碇泊し、風波起れば佐渡の夷港に避くるを常とす、されば冬季北海の波暴き時は船舶の碇泊するもの稀なり、新發田には歩兵第十六聯隊駐屯す、物産は漆器の外五泉地方より五泉平織を産す、新潟より信濃川を溯ること十六里にして長岡に達す、新潟とは日々に汽船の往來あり、此地は絹布及び鑄物を産す、その近傍なる栃尾には紬の産あり、南方の小千谷には縮布及び透綾の産あり、十日町、六日町は絹織物を以て名高し、新潟より海濱を西行すれば彌彦山及

三十三年の  
總産額四十  
七萬石な  
と云ふ  
人口一萬一  
千

佐渡を右に見て寺泊に出づ、冬季佐渡に渡る要津なり、夫れより出雲崎、柏崎を経て直江津に達す、此地方は本邦第一の石油産地にして多くの會社競ひて採油の業に従事す、直江津は信越線と北越線との連合地に當り、又佐渡に渡る要津なれば交通便利にして市況漸時繁盛に赴けり、此所より汽車時程十三分にして達する南方の高田は西部平野の中央に位し、此國第二の都會なり、冬日降雪多きと



越後雪



高田市の西  
方春日山に  
は上杉謙信  
の古城址あり

人口一萬三  
千  
産額  
金三十四萬  
圓  
銀十一萬圓  
眞野神社は  
順徳天皇を  
祭る

飴及越の雪と名くる菓子産とを以て知らる、其南方は山岳重疊し越中との國界なる海濱の道路は世に親不知、子不知の險と稱し頗危険なる所なりしが、今は新道開け往來便利なり、相川は佐渡の西岸にあり當國第一繁華の地なり、北隣の相川鑛山は古來金銀の産出多く我が國第一の金銀鑛産地なりしが、今は大に減少せり、此地よりは又無名異焼を産す、眞野は同名の灣に臨み其地に眞野神社あり、夷港も亦同名の灣に枕み東岸第一の都會なり、赤泊、小木の二港は冬期寺泊に渡る要津なり。

### 富山縣

富山灣に臨める地方を除くの外三面山を以て圍まれ、南方は濃飛高原に連り漸次北方に傾斜し此所より發源せる射水、神通等の諸大川は國中を灌流し越中の平野をなす、地味

人口六萬  
前田氏支封  
の地

常市は古來  
賣藥の行商  
人多し

人口一萬四  
千

人口三萬二  
千

豐饒農耕に適し越中米の産地たり、大連華山は縣下第一の高山にして噴氣孔多き立山之に次ぐ。

富山市は神通川に臨み國道東西に通じ、南は高山に至る、又北陸鐵道の終點なると河口に東岩瀨港を控ふるとを以て貨物の集散頻繁にして市況盛に縣下第一の都會なり、古來反魂丹、熊膽圓等の賣藥を以て名高し、富山より東は魚津を經て黒部川を渡り越後に入る、魚津は漁業盛にして烏賊の黒作を産す、又富山より東に常願寺川を溯れば有名なる立山にして、其地獄谷は所々に硫烟或は熱湯を噴き出す、高岡市は縣下第二の都會にして、射水川の灌域に屬し富山を距ること西方六里北陸線と中越鐵道との交叉點に當り、米穀の取引最も盛なるのみならず銅器の産出を以て著はれ、此地方に於ける商業上の中心たり、此地の北なる射水川の河

(一) 人口一萬八千  
(二) 人口一萬三千

口に伏木あり、開港場の一にして船舶の出入繁く鐵道を以て高岡に連り縣下第一の要港なり、其對岸に新湊あり、此近海は漁業盛に行はる特に水見を最も盛なりとす、中越鐵道の南端なる城端は絹を産す、西境に有名なる俱利伽羅峠の古戰場あり。

### 石川縣

東南の國境には山岳連亘し白山最有名なり、其支脈南に走りて越前の境に亘り、地勢漸次西北に低下し手取川其中央を貫流す、海岸の低地には河北瀉の如き湖沼多し、能登は半島國にして山岳起伏し瀕海の地に稍平地を残すのみ、然れども三面海なるを以て水産業甚盛なり、中にも製鹽は其産額の多きこと北海岸中第一位を占む。

金澤市は前田氏百萬石の舊城下にして、第九師團第四高等

人口八萬四千

(四) 人口一萬二千  
(三) 人口一萬  
(二) 人口一萬三千

學校、金澤醫學專門學校等の設あり、西北は金石港に通し、且汽車の便あるを以て市街繁昌し、象眼細工、漆器及絹布を産出し、此國第一の都會なり、市の中央に位せる兼六園は風景絶佳にして日本三公園の一なり、金澤より北陸鐵道の要路なる津幡に至れば此地より能登七尾に通ずる七尾鐵道あり、七尾は同名の灣に臨み開港場なり、其西北に和倉の温泉場あり、西北海岸に近く總持寺の大刹あり、其北に漆器に名高き輪島あり、金澤より南方に通ずる鐵道は小松、大聖寺等を経て福井縣に入る、小松は金澤に次ぐ都會にして機業頗盛にして加賀絹を出し、又九谷焼の産地なり、安宅の關趾は西方海中に没せりとて今は見え、其南の大聖寺よりは絹及び陶器を出す、其南の九谷村は九谷焼の本場なり、其附近の山中及山代は温泉を以て名高し。

### 福井縣

人口四萬四千  
 松平氏廿二  
 萬石  
 昔柴田勝家  
 の居城地  
 人口一萬  
 新田義貞の  
 戦死せし藤  
 島村は福井  
 市の北二里  
 にあり

大聖寺より來れる北陸鐵道の通ずる地方及若狹の海岸は平地開け、中にも九頭龍川流域は平坦にして田圃大に開け農耕に適し越前米の産地なり、東及南は濃飛高原に接し其脈延ひて中國山脈に連り山岳重疊せり。  
 福井市は昔北莊と稱し足羽川に臨み機業甚だ盛にして奉書紬を産す、羽二重絹手巾は外國の市場に名高く東方の大野と共に絹織物の名産地なり、九頭龍川河口に三國港(坂井)あり福井市と運送の便あり、新田義貞を祀れる藤島神社は近年藤島村より福井市内に移せり、市の東四里に永平寺の古刹あり、九頭龍川上流勝山附近の地には煙草の特産あり、北陸鐵道は福井より日野川に沿ひて鯖江・武生・敦賀を経て近江に入り東海道鐵道と連結す、武生は鳥子紙を出し市

人口一萬六千

人口一萬八千  
 (一)金崎宮は  
 尊良親王及  
 新田義顯を  
 祭れる官幣  
 社なり

況稍繁盛なり、敦賀は同名の灣に臨み開港場の一にして船舶常に輻湊し、北海唯一の良港なり、東北に金崎あり敦賀より西は小濱を経て丹波に通ず、其海岸一帯は甚だ屈曲に富む、小濱は若狹中央の海濱にある名邑にして、小濱鯛・若狹塗瑠瑠細工等の名産あり。

問一 本道の天産物を問ふ。

問二 史上に著名なる處を擧げよ。

### 近畿

問 近畿の國名及縣名を擧げよ

### 京都府

中國山脈域内を横斷し丘陵所々に起伏すれども、南部は桂宇治木津諸流の會合地なるを以て地、平衍に田圃能く開け茶樹の栽培に適し、畿内平野の北部をなせり、丹波丹後は山脈の北面をなし、地勢北方に傾斜し平地少く由良川の流域

(一) 人口三十  
五萬  
三千



京都金閣寺及物産

のみ稍低平なり、海岸は屈曲に富み宮津・舞鶴の兩港あり。京都市は東京大阪と共に本邦三大都の一にして、山城の中央に位し、東山・北山・西山三面を限り、鴨川市の東部を貫流し大路東西南北に通じて街衢井然たり、而して東西に通ぜる三條通を以て上京・下京の二區に分つ、禁裏御所は市の北部にあり、二條離宮は西部にあり、京都帝國大學・第三高等學校・美術學校・博物館

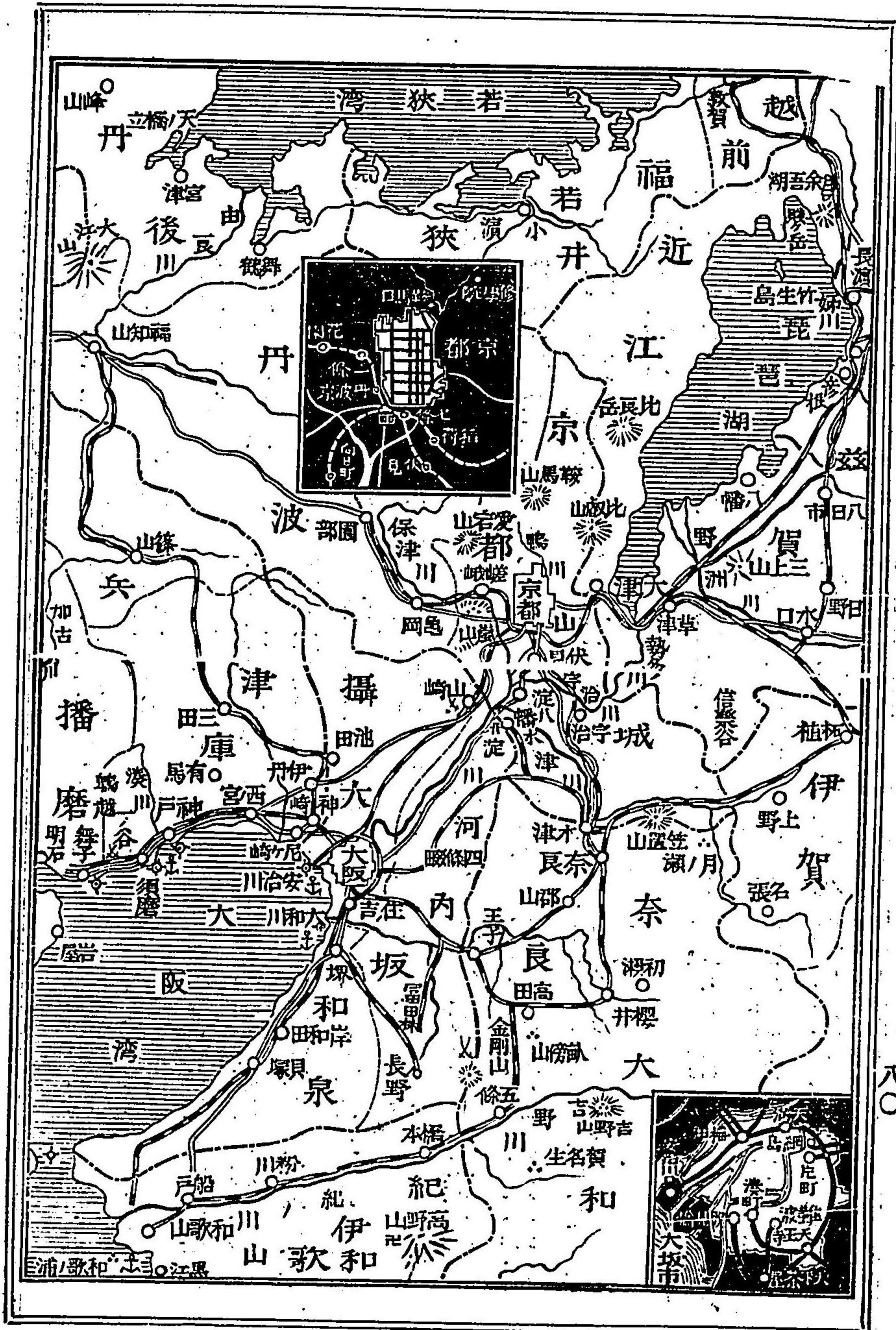
(一) 高雄  
梅尾  
横尾

あり、近年琵琶湖の水を疏通して、工業及運輸の便を助く、又要路には電氣鐵道の設ありて伏見に通し、市況繁華なり。

此地は、昔桓武天皇奠都以來千七十餘年間の帝都たりしを以て、古跡甚多く、神社には上下賀茂北野神社平安神社吉田神社八坂神社稻荷神社等あり、佛寺には仁和寺金閣寺大徳寺銀閣寺南禪寺知恩院清水寺泉涌寺三十三間堂東西南願寺東寺最も著はる、東京に對して西京と呼び、又平安京と云ふ、名勝には、嵐山の櫻花三尾の紅葉等枚擧するに遑わらず。

此地は古來美術工藝の中心と稱せられ、精巧にして雅趣ある製作品甚だ多く、中にも西陣の織物・友禪染・刺繡・清水・粟田の陶器・京塗等孰れも有名の産物なり、此外京紅・白粉・みすや針亦名あり。

七條停車場は鐵道の四集する所にして、市の南端にあり、東海道鐵道は近江より來り、此處を経て大阪神戸に通じ、奈良鐵道は南方に向ひ、伏見・宇治を経て奈良に至り、途中木津に



て關西鐵道に連絡す、京都鐵道も亦こゝより起り、丹波路に進み嵯峨の西なる嵐山の櫻花を眺め、大堰川の下流なる桂川を渡り、愛宕山の南麓を越えて龜岡に達す、此地は保津川の南岸にあり、舊龜山と稱し、明智光秀の居城ありし處なり、鐵道は尙進みて園部に達す、他日福知山又は舞鶴軍港に向つて延長せられんとす。

愛宕山は高く丹波の境に峙ち近江の境なる比叡山と東西相對して、山城を包む、附近の地方は丹波栗北山九太等、山地の産物に富めり。

福知山は由良川の畔にあり、山陰道の要路に當り、由良港との間に舟筏の便あり、又阪鶴鐵道は大坂より此地に來り、尙進みて大江山を左に望み、由良川に沿ひて舞鶴に達せんとす、交通の便利好くして丹波北部に於ける物産集散地なり。舞鶴は港内水深く大艦巨舶の碇泊に便なるを以て、第四海

昔の傳へ  
られたる浦  
島太郎の釣  
りせし所は  
葦此の近海  
なるべし

人口二萬二  
千



と大阪との間には淀川に由りて毎日汽船の往復あり市街

天の橋の立

軍鎮守府の所在地たり。  
宮津港は宮津灣頭にある開  
港場にして丹後第一の都會  
なり、宮津の對岸に天の橋立  
あり、一條の砂洲遠く西南に  
斗出し、白砂青松相映する所  
絶景言ふべからず、海岸には  
鰯鳥賊等海産の利あり、又此  
國は養蠶業盛にして、縮緬の  
産出夥しく、宮津の西北、峯山  
はその本場の地たり。

殷賑にして伏見人形の名、古來世に著し、而して秀吉の舊城  
地たる桃山は、町の東北に在り、其東南なる宇治は宇治川に  
臨み古今の歴史上常に東西軍の決戰場たり、此附近は名高  
き茶所にして其平等院には著名の鳳凰堂あり、宇治橋を隔  
て、禪宗黃檗派の本山萬福寺あり、西に巨椋池を距て、淀  
町あり、加茂、桂、宇治、諸川の合流點の南岸を占め、昔は淀の夜  
舟といふを出だせし要津なりしが、今は殆んど衰廢に歸せ  
り、其西南、木津川南岸の男山八幡宮は、淀川を挟みて山崎と  
相對す、八幡より鐵道にて木津川を溯れば、史上に有名なる  
笠置山あり、其中腹に後醍醐天皇の行在所あり、其行宮の遺  
趾に立てる碑石は觀る人をして坐に當時を追懷せしむ、加  
茂より奈良市に通ずる鐵道支線あり。

山崎は羽柴  
明智の古戦  
場なり

問 京都府の著名なる神社佛閣及古戰場を語れ。

奈良縣

人口三萬一千

北部大和川灌域に屬する地は、地勢平坦、土壤頗る肥沃にして、農産多く又交通上の要區たり、東及南の大部は、紀伊山脈に屬し、到る所山ならざるはなく、吉野、大臺原の諸山相連り、林産の利多く、杉材は特に有名なり、此國は神武天皇奠都以來屢々帝都を奠め玉ひし地なるを以て、名所舊蹟甚多し。  
奈良市は奈良朝七代の帝都たりしを以て、南都又は平城の稱あり、東方三笠山の麓に春日神社あり、東大寺・大佛・正倉院及其他の寺院には、古代の美術品多く、興福寺・猿澤池等の名勝、舊蹟に富み、帝國奈良博物館の陳列品は古代に於ける民俗の雅致ある嗜好を追想せしむ、奈良晒布・漬物・人形・筆・墨根來塗等は市の名産なり、奈良より東方伊賀の境なる名張川の兩岸に月瀬の梅林あり、東部地方には初瀬の長谷寺・多武

談山神社は藤原鎌足を祀る

大佛の丈五尺三寸  
顔の長さ五尺六寸  
一寸五尺九寸

如意輪堂には楠正行の辭世の和歌あり  
人口一萬一千



東大寺の大佛

峯の談山神社・畝傍山の檀原神宮・天香山等の舊蹟あり、又南部の吉野山は

吉野川の南岸に峙ち、古來櫻花を以て名高く、花期に於ける一目手本の佳景は西京の嵐山と併稱せ

らる、此地は南朝四世五十餘年の行在所たりし處とて、後醍醐天皇の御陵及如意輪堂等あり、是より南は吉野山彙にして、葛粉・紙・木材の名産地たり、十津川郷は其西南山中の都邑にして、近傍より安質母尼の産あり。

(一) 人口一萬四千  
南都七大寺  
東大寺 興福寺  
西大寺 元興寺  
大安寺 藥師寺  
法隆寺 なり

大阪鐵道は奈良より西に向ひ郡山及南都七大寺の一なる法隆寺の近傍を過ぎ、王子に至り分れて二線となり一は大坂に通じ、一は南高田を経て櫻井に達す、高田より南和鐵道に依りて、五條に至る、此地方は吉野川の流域に屬して吉野飛白著名なり、此處より紀和鐵道によりて和歌山縣に入る。

問 奈良に於ける神社佛閣の最大なるものを挙げよ。三四、東美

### 和歌山縣

紀和鐵道の布設せる地方は紀伊川灌域に屬す、此國最大の平野にして、縣下の農産地とす、其南畔に峙てる高野山は扁柏・杉・金松を以て蔽はれ、山上に金剛峯寺あり、弘法大師の開基に係る有名の巨刹なり、此所より南は紀伊山脈の分派、域内に蟠屈せるにより、大部は山岳相重り、那智山南方に峙ち山麓に那智の大飛瀑懸れり、高さ八十餘丈、遠く海洋より望

人口六萬四千

(一) 人口一萬  
(二) 人口一萬四千  
熊野三社  
新宮本宮及  
那智なり

むを得て甚壯觀なり、此地黒曜石を産す、其南方の沿海岸には狹長の平地、西北に連り和歌山に達す。

和歌山市は紀伊川の河口に臨み、大阪及奈良へ汽車の連絡ありて海陸交通の便に富み、商工業盛に行はれ、綿フランネル・紋羽織・雲齋織は市の名産なり、特にその綿フランネルは市人の發明に係るを以て單に紀州ネルとも稱す、市の西南に和歌の浦あり、一名明光浦と云ひて紀三井寺と相對し風光明媚にして、縣下第一の勝區たり、是れより南に漆器を以て名高き黒江を過ぎ、湯淺を経て田邊に至る、其間に於ける有田川・日高川の灌域地は有名なる紀州蜜柑の産地にして、湯淺は蜜柑蠟燭を出すを以て知らる、是より東南岸、熊野川の吐口に新宮あり、熊野三社の一なる那智山と共に世に名高く、又此地方の中心市場たり、熊野地方は甚山林に富み良



材を出す、又木炭に熊野備長あり。

### 大阪府



(一)人口八十  
二萬二千

北部及南部は山岳連亘すれども、中央は淀川・大和川の灌域に屬し、畿内平野の大部を占め、土地概ね平坦地味肥沃にして、農産極めて豊に、交通運輸の便も亦好し、而して古來英雄豪傑の雌雄を争ひし所なるのみならず、又夙に人文の能く發達せし所なり。  
大坂市は本邦第二の都會にして畿内平野の西部、淀川の三角洲に位し、關西商業の中心として、商工業の盛なること實に海内第一た

り、されば、紡績製造等の工場甚多く、煙突並び立ちて黒煙天を蔽へり、紡績糸・燐寸・硝子・鐵器・流酸・曹達・一閑張・眞田織・其他製造品の種類頗る夥多なり、全市を四區に劃り、市内は横堀・長堀・道頓堀等の溝渠縱横に貫通し、數多の橋梁を以て往來を通じ、陸路は四方に鐵道の便を有し、大阪商船會社の汽船は又此地を中心として、諸方に通し、所謂四通八達の地なるが上に、開港場なるを以て、外國人許多在留し、内外の商船港内に輻湊し、貿易最も盛に、貨物の集散活潑なり、築港工事完成の曉には當に帝國の商業を左右するに至らんとす。

此地は元、難波と稱せし處にして、高津の宮趾・高津神社・四天王寺・生國魂神社・住吉神社・安倍野神社・櫻の宮・天滿天神・南本願寺・別院等の名所舊蹟、到る所に散在せり、秀吉大阪城を築きし以來、長足の進歩をなし、今日の旺盛を極めたり、其牙城は第四師團司令部に充てらる、其他控訴院・造

幣局砲兵工廠商品陳列所各種の學校等あり。  
 鐵道の本市より出づるもの五條あり、關西鐵道は網島より  
**四條驛**の古戰場を過ぎて山城に入り、遠く名古屋に連る、奈  
 良線は湊町に發し八尾を過ぎて大和に入り、その城東線は  
 市の東方を繞りて梅田に達す、高野鐵道は汐見橋より住吉  
 長野を過ぎて高野に向ふ、南海鐵道は難波より起りて、住吉  
 堺市を過ぎ和泉の海岸を経て和歌山に達す、**住吉**には住吉  
 神社あり、**堺市**は大和川の河口に臨み、足利時代に於ける外  
 國との互市場たりし地にして、商工業大に開け市況盛大な  
 りしも、港内水淺きが故に、次第に衰替に歸したりしが、現時  
 鐵路三方に通し、**綴通**、**双物**等を産し市内に有名なる**妙國寺**  
 あり、近傍より行基焼を産す、泉州第一の都會なり、**濱寺**はも  
 と高師の濱と稱せし所にして、公園あり、岸和田、**貝塚**と共に

(一)人口五萬

妙國寺は大蘇鐵を以て名あり

勝景に富める海岸の名區たり。

東海道鐵道は大阪市の北部梅田を過ぎて京都神戸に連絡  
 し又西成鐵道は梅田より出て、安治川口に至り坂鶴鐵道  
 は清酒の醸造に名高き**池田**を経て福知山に通ぜり。

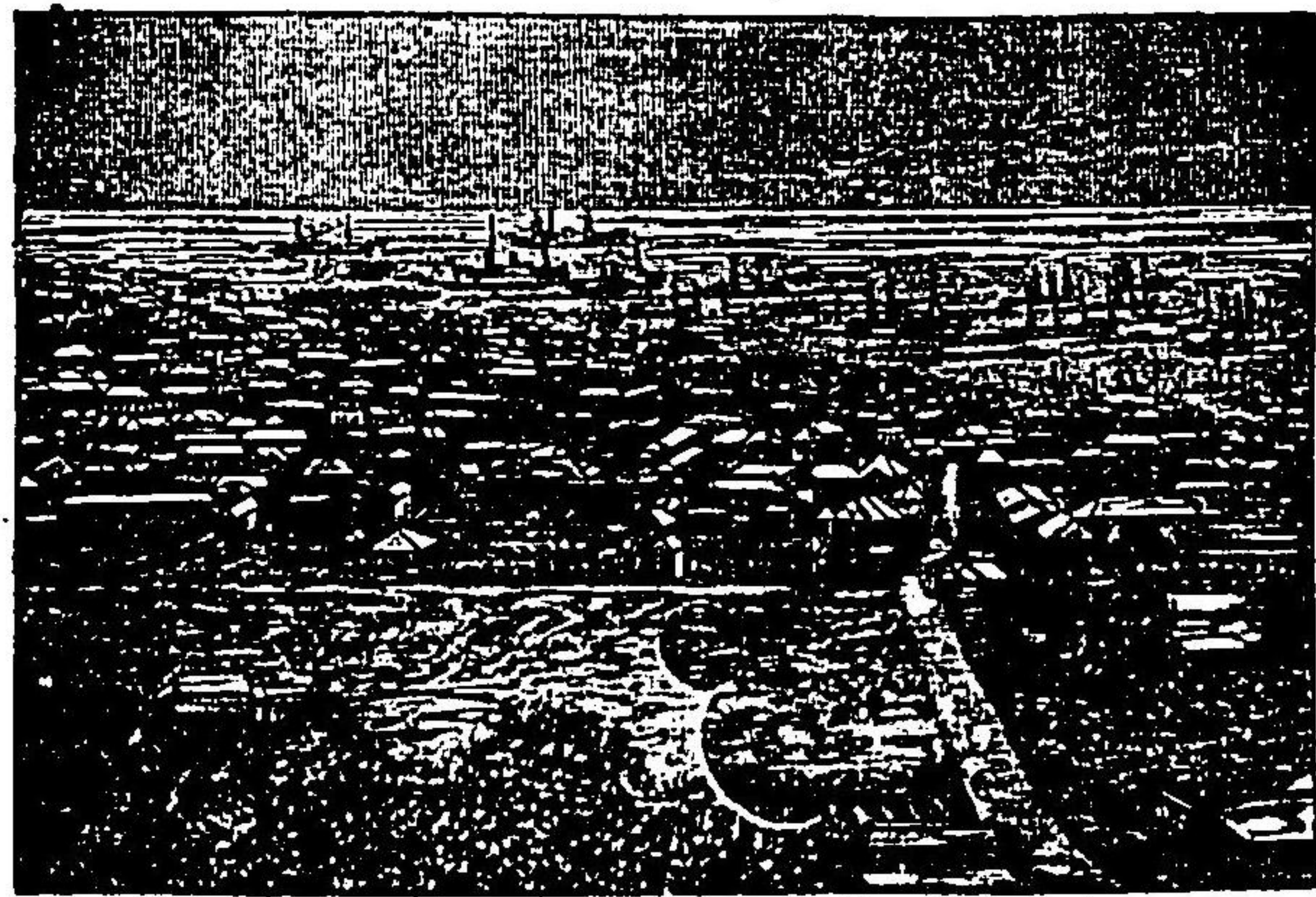
### 兵庫縣

問 管轄國名及四境を語れ。

本縣は畿内山陰、山陽及南海の一畿三道五國に跨り境域甚  
 だ廣く、地勢複雑なり、縣の中央は中國山脈東西に貫き、南北  
 二部に分つ、南部武庫川流域は、畿内平野に連り、摩耶山は攝  
 播の境を限り加古川、**榊保川**、**千種川**は其西部の平野を造り  
 生産に富み、其沿岸は氣候好くして漁鹽の利多く、神戸、**明石**、  
**姫路**の市街相連り、交通の要衝たり、丹波は山岳重疊し、本縣  
 に屬する市邑は唯一の篠山あるのみ、北方山脈を超ゆれば  
 但馬の國にて、地勢北に傾き、沿岸を除くの外概ね山地に屬

人口二十一  
萬六千

慶應三年の  
開市  
貿易年額  
二億七百萬  
圓  
輸入を主と  
す



神戸市街

す、然れども牛は到る處に飼養せられ、但馬牛の名あり、平野には出石、豊岡の名邑あり、淡路の地勢は琵琶湖に似て、面積も略等しく、平野開け、國中高山峻嶺を見ず、漁業尤も盛にして、製鹽の量亦少なからず、名邑には洲本、由良、福良あり。  
神戸市は神戸、兵庫の二港を合併したるものにして、元は寂寞たる一漁村なりしが、港内廣濶にして水深く、大船巨舶の碇泊に便なるを以て、開港以來日を逐ふて繁華に赴き、今は内外の船舶常に輻湊し、市況甚だ殷賑にして、本邦第五の都會となれり、又東海道鐵道及



舞子濱より淡路島を望む

山陽鐵道との連絡する處なるを以て、海陸の運輸交通極めて便利なり、湊川は市の中央を貫流して、神戸、兵庫を劃れり、其畔に湊川神社あり、楠公の靈を祀る。  
神戸は大阪より丹後の舞鶴に至らんとする阪鶴鐵道の東海道鐵道と分るゝ處に當り、其附近なる伊丹、池田、西宮と共に灘と稱せらるゝ酒造地として有名なり、此鐵道は名高き有馬温泉の附近を過

(三)人口一萬四千

ぎ、陶器の産地なる三田を經、篠山を過ぎ、福知山迄開通せり。支線は神戸より尼崎に通ず。西宮の西方なる御影は石材を以て聞ゆ。神戸の西に須磨あり。此近傍福原舊趾一の谷、鶴越等の古蹟甚多く、西方播磨の霧子、明石と共に海濱の風景古來最も著名なり。

人口二萬一千  
我國中央標準時の子午線に當る

明石は市街極めて繁華なり。帆木綿及明石縮、明石玉を産し、其附近を舞子の濱と云ふ。淡路の岩屋と相對して明石海峡を挟み、攝津の須磨浦と共に風光明媚を以て稱せらる。洲本は淡路の名邑にして由良は由良海峡に臨み、要塞砲兵駐屯す。福良は鳴戸海峡に臨み、稍良港なり。其東方なる伊賀野村より伊賀野燒(珉平燒)を出し、清國に向ひて輸出多し。神戸より西山陽鐵道は明石姫路を過ぎ、西境船坂峠を越へ、遠く馬關に達す。姫路市は播磨の中央なる市川の畔にあり、姫路

船坂峠のト  
ンネルは長さ六百間あり  
人口三萬五千

(一)天日槍の古蹟ありといふ

城は秀吉の築きし處にして、現今第十師團を置く。木綿及革細工は市の名産なり。北方の書寫山は奇景を以て著はれ、楫保川の畔なる龍野には盛に醬油を製出す。西方の白旗山は赤松氏の古城趾を以て著はる。千種川の下流に赤穂あり、本邦第一の食鹽を製出し、又四十七義士を出せし處なり。播但鐵道は飾磨より起り、姫路市にて山陽鐵道と交叉し、北方但馬の生野に通ず。此地に有名なる銀山あり。朝來川より發し、北流して日本海に入る。其支流出石川の河畔に出石あり、出石燒を産す。其下流に城崎温泉あり。近傍なる玄武洞は、岩石の奇觀を以て名あり。

問一 左の市邑の所在國を問ふ。

長野・舞鶴・鳥羽・銚子・洲本等三四、東美

問二 畿内の氣候及物産を記せ。三四、商船豫

中國 問 中國に於ける國名及縣名を語れ。

鳥取縣

地形狹長、南に中國山脈を貫ひ、北は日本海に向ひ、急に傾斜す。従て河流は概ね長からず、但千代川(賀露川)日野川の流域は稍平坦にして、鳥取及米子の市街あり、海岸は一帶に屈曲少く、唯伯耆の西部に夜見濱突出し、西に中の海東に美保灣をなし、鳥根半島と相對す、平地は米穀・綿の産稍多く、其他行李・白珊瑚及海松は縣下の名産なり。

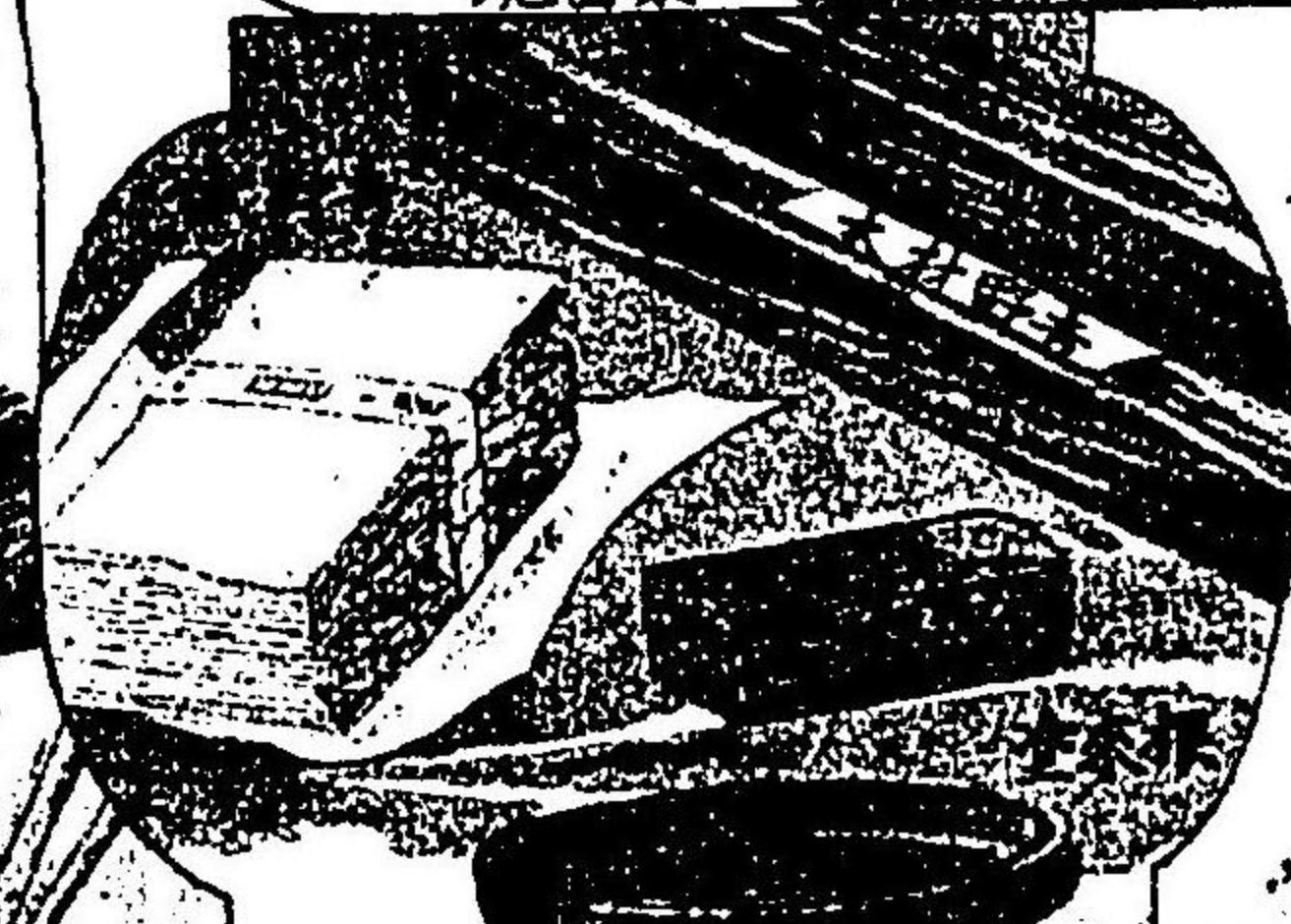
鳥取市は美作・播磨・但馬と交通の便を有し、千代川に臨み、賀露港を控へ、市街繁華なり、國道は是より西に海岸に沿ひ、湖山池を右に見、伯耆に入り、天神川を渡り、左に船上山、大山を望み、淀江を過ぎ、日野川を渡り、米子に至る。天神川の上流には、名木綿飛白の産ある倉吉あり、船上山の北麓名和村には、名

人口二萬九千  
鳥取市は池田氏三十二萬石の舊城地なり

京都府



奈良縣



和歌山縣



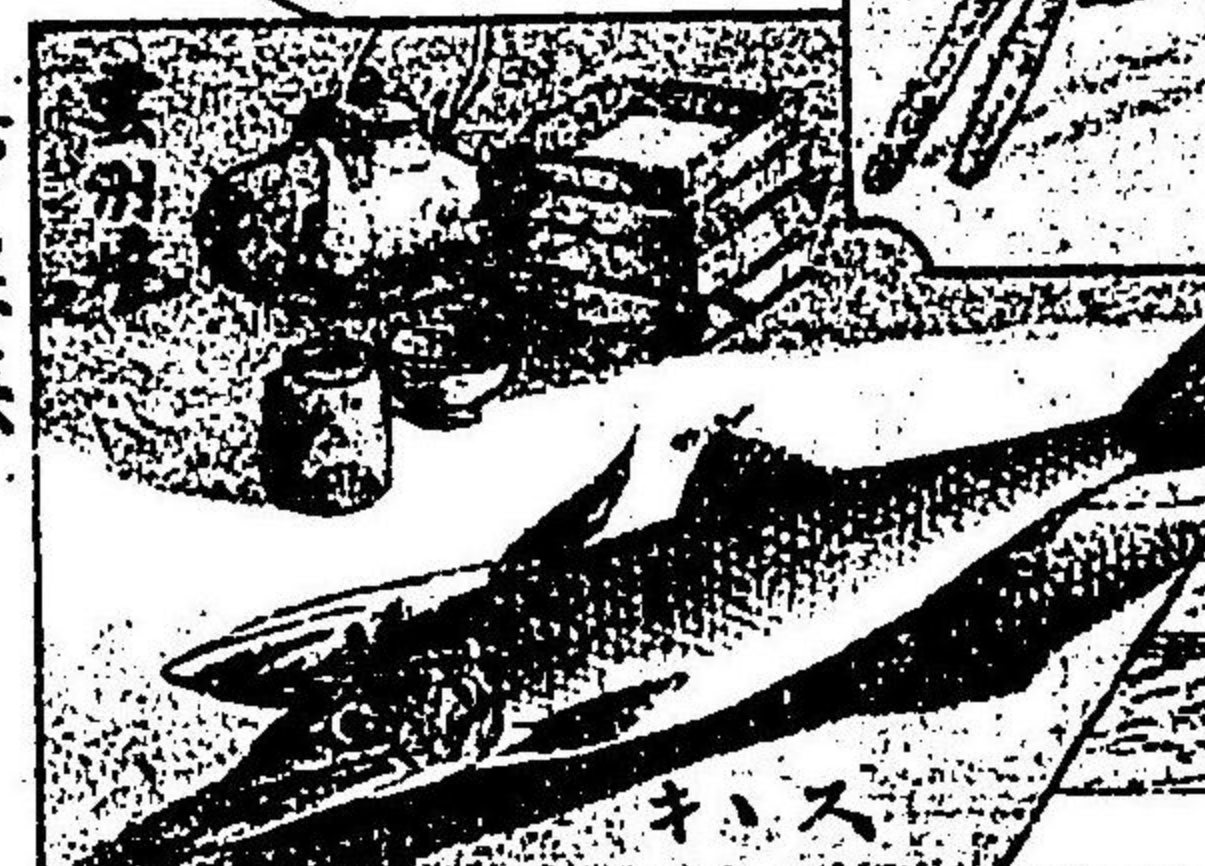
大坂府



兵庫縣



島根縣



人口一萬六  
千

和神社あり、大山の北麓は牧牛甚だ盛にして、神戸・大阪地方に向つて多く輸出す。境港は開港場にして夜見濱の北端に位し、僅に中江海峽を距て、島根半島に對し、灣内水深くして船舶の碇泊自在なるを以て敦賀・新潟・馬關等と汽船の往來あり、米子は鳥取に次ぐ都會にして出雲の界に接す、一面は日野川の平原にして、他は中海に瀕し、海運の便あり、線綿を産す。

### 島根縣

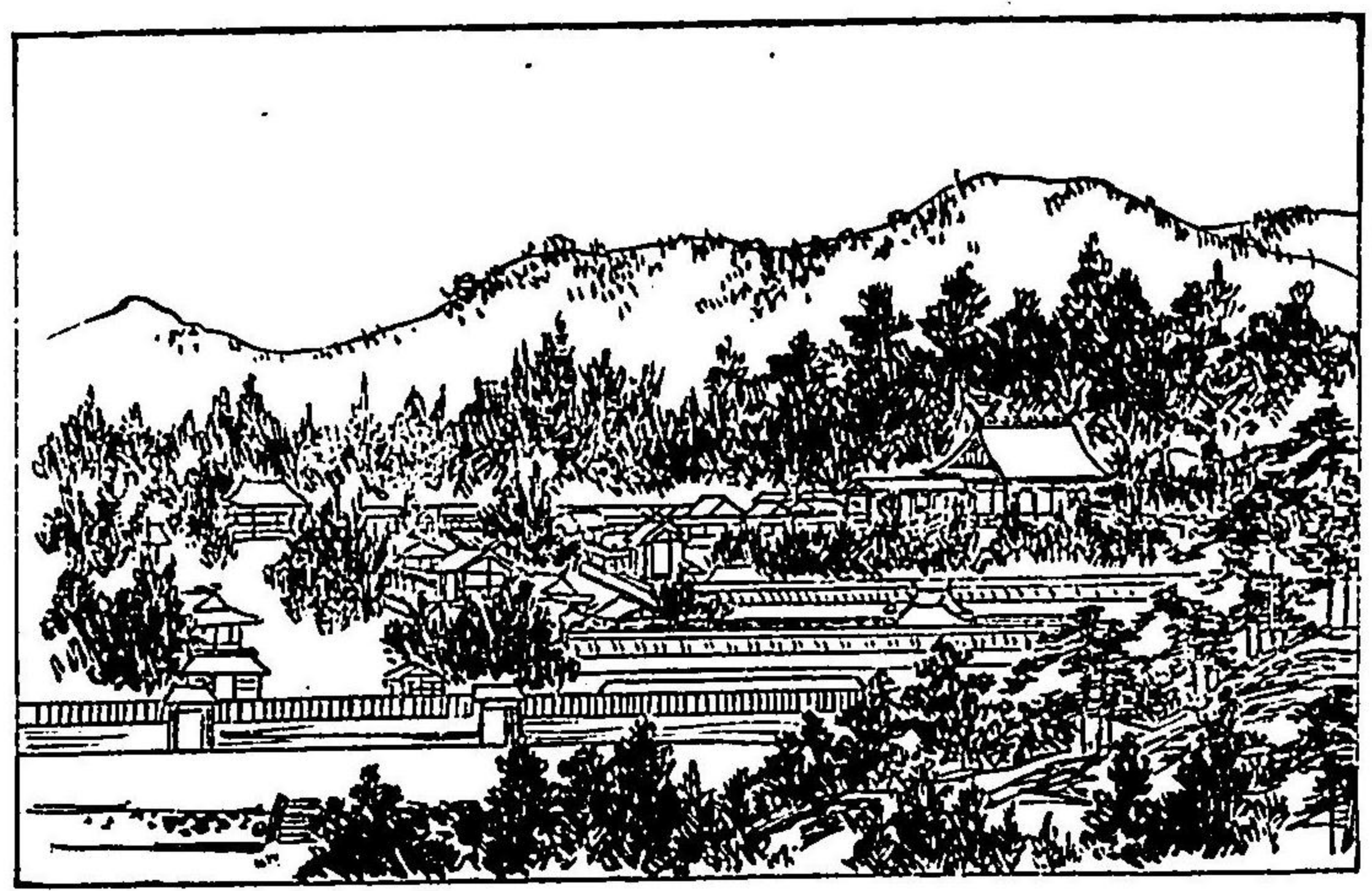
南に中國山脈横り、北は日本海に面す、地形狹長にして平野少きも、簸川・神門川・江川カマドの流域は田圃稍開け山陰第一の米産地なり、石見の沿岸は屈曲乏しきも出雲には島根半島横り、其尖端に美保關あり、内に中の海・夫道湖ウミミチを抱く、隱岐は出雲を距る四十五哩にあり、島前中、西、知夫理、島後よりなり、火

山群島にして土地耕耘に適せざれども、海産物頗る多く中にも烏賊の漁業最も盛なり。

人口三萬五千  
松平氏の舊城址にして其天主閣今尚存す  
市の東南月山に舊富田城址あり

人口一萬一千

松江市は宍道湖より中の海に通ずる大橋川に跨り、頗る湖山の景に富む、湖南地方より布志名焼(出雲焼)を出す、其東方一體は盛に人参を培養す、宍道湖は周回十一里鱸魚を以て著はれ、斐伊川(簸川)之に注ぐ、川は源を船通山に發し、古史に所謂簸川上の地方は此邊にして、素盞鳴尊の古事を以て名あり、杵築には出雲大社あり、社殿は古雅宏壯にして、賽人常に絶えず、杵築より海岸に沿ふて三瓶山を左に見、大森の銀山を経て、江川を渡れば濱田に達す、濱田港は開港場にして、紙の取引盛に、汽船は馬關及境に航行し、石見第一の良港をなし、第二十一聯隊の駐屯地なり、此附近より長濱焼を出す、津和野町は此處より山口に通ずる街道にあり、江川は備後



出雲大社

より發し、中國第一の大河にして、上流沙鐵を産す、西郷港は隱岐第一の良港たり、西の島なる後醍醐天皇の舊址、中の島なる後鳥羽上皇の舊蹟は共に史上に名あり。

### 山口縣

本州の西南端を占め、南は瀬戸内海に面し、西より北は日本海を繞らす、中國山脈は域内に充塞し、各其方面の海に向つて傾斜す、岩國佐波阿武等の流域は平野稍開け、岩國

(一) 人口一萬二千  
人口一萬七千

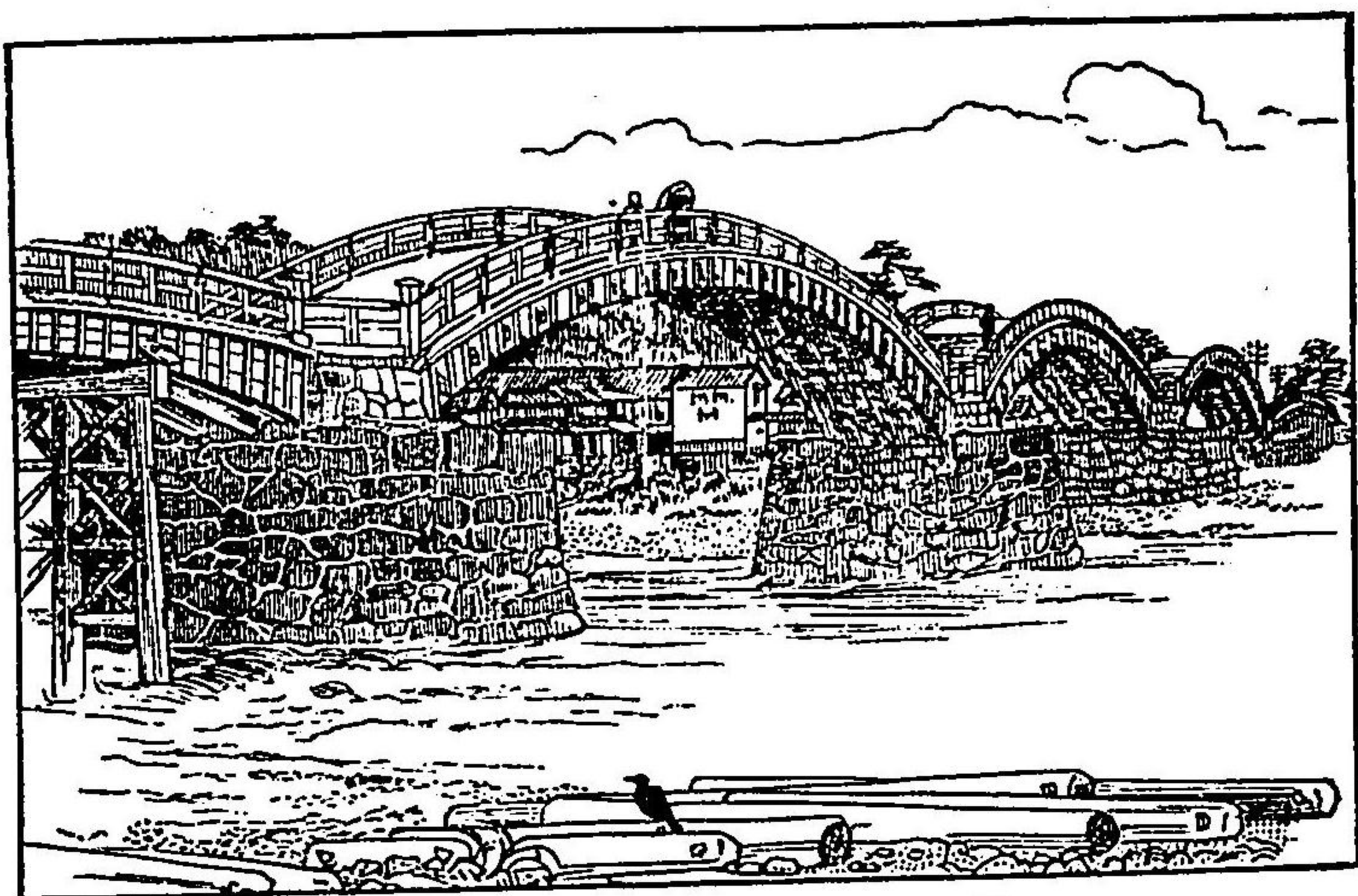
(二) 人口一萬六千  
毛利氏の舊城地  
(三) 人口四萬三千  
上關は長島  
中關は三田  
尻の西南にあり

人口一萬二千

(一) 徳山・三田尻・赤間・關萩等の市街あり。

山口町は三方山岳を控へて要害堅固なるにより、往時大内氏の治下たりしときは中國第一の要地たりき、今は山口高等學校第五師團の分營あり、此地は維新の際多く俊傑の士を出し、爾後高官に列する者多く世に薩長と並べ稱す、萩は日本海に面する都會にして夏橙萩焼を産す、赤間關は防長三關の一にして長門の西南端に位し馬關又は下の關と稱す、山陽鐵道神戸よりこゝに開通し、馬關海峽に臨み、彦島其口を扼し門司と相對して瀬戸内海の咽喉に當り、軍事上通商上頗る重要な所なるを以て砲臺を設く、且開港場なるが故に内外の船舶は常に輻湊し、市況繁盛なり、市内の春帆樓引接寺は日清戰役以來特に有名なり、壇浦の古戰場、豊浦宮は市の東方にあり、三田尻は山口の東南六里に位し縣下の

(一) 吉川氏の舊城地  
錦帶橋は一名算盤橋と稱す日本三奇橋の一なり



錦 帶 橋

要津たり、製鹽業は盛に此地の近傍に行はる、山陽鐵道の通路に當り東は徳山・室積・柳井津・岩國の都邑に連る、柳井津の西南に柳井津の半島突出し室津港あり左右に大島長島あり、岩國は岩國川に臨み一小市街にして、岩國縮は錦帶橋と共に能く世人の知る所なり。

### 廣島縣

域内は概ね山岳重疊し、北部は中國山脈殊に高く聳え、冬



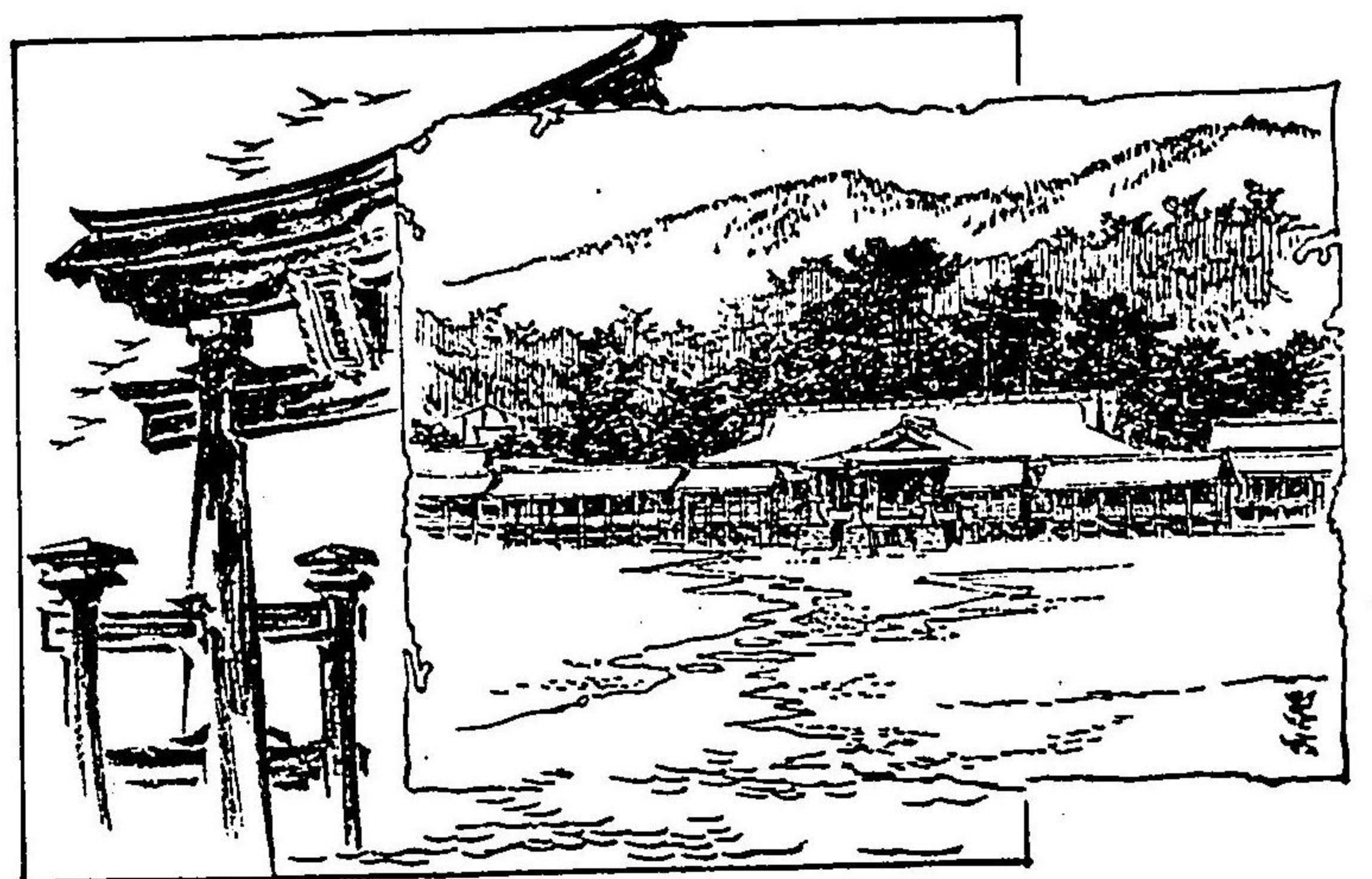
期積雪丈餘に及ぶことあれども、漸次南方に低く、沿海の地は稍平坦にして製鹽業盛なり、河流は地勢に従つて南流するもの多く、唯江ノ川のみ中國山脈を横斷して日本海に注ぐ、内海には島嶼甚だ多く、中にも嚴島・能美島（江田島）倉橋島最も大なり。

人口十二萬二千

廣島市は中國第一の都會にして、太田川の三角洲に位し、河口に宇品港を控えて、水陸の便に富み、第五師團控訴院等あり、牡蠣・練綿は市の名産なり、宇品の西南に嚴島あり、周圍七里北岸に嚴島神社あり、故に此島を宮島とも云ふ、其社殿は平清盛の造營せし處にして、日本三景の一なり、東に能美島あり、製糖業盛に行はる、其一部は江田島にして海軍兵學校を置く、對岸の吳港には第二海軍鎮守府の設あり、南に倉橋島あり、其北方の海峽を音戸の瀬戸と云ふ、清盛の開鑿に係

吉田は元利元就の生地

(一)人口二十萬二千



嚴島神社

るものと傳ふ、廣島の東北江川の  
上流なる三次川の流域には三次吉田あり、共に北方の名邑にして、此近傍より麻を産す、三次より下流は舟楫の便あり、三次の東南方海岸に尾道市あり、島嶼其前面に横はりて自然に良港をなす、海陸の運送交通便利にして、商業の盛なること廣島に下らず、蘭蓆は著名なる物産にして、海外に輸出す、西方の糸崎港は海水深きが故に近年

(一)人口一萬七千

開港場となれり、その西に三原あり食鹽及酒類を産し、稍繁華の地なり、福山は尾道の東五里の處にあり、市街繁盛、生糸、綿、綿布を産す、鞆津は縣の東部の要津にして保命酒を産す、其傍に阿武兔岬あり。

### 岡山縣

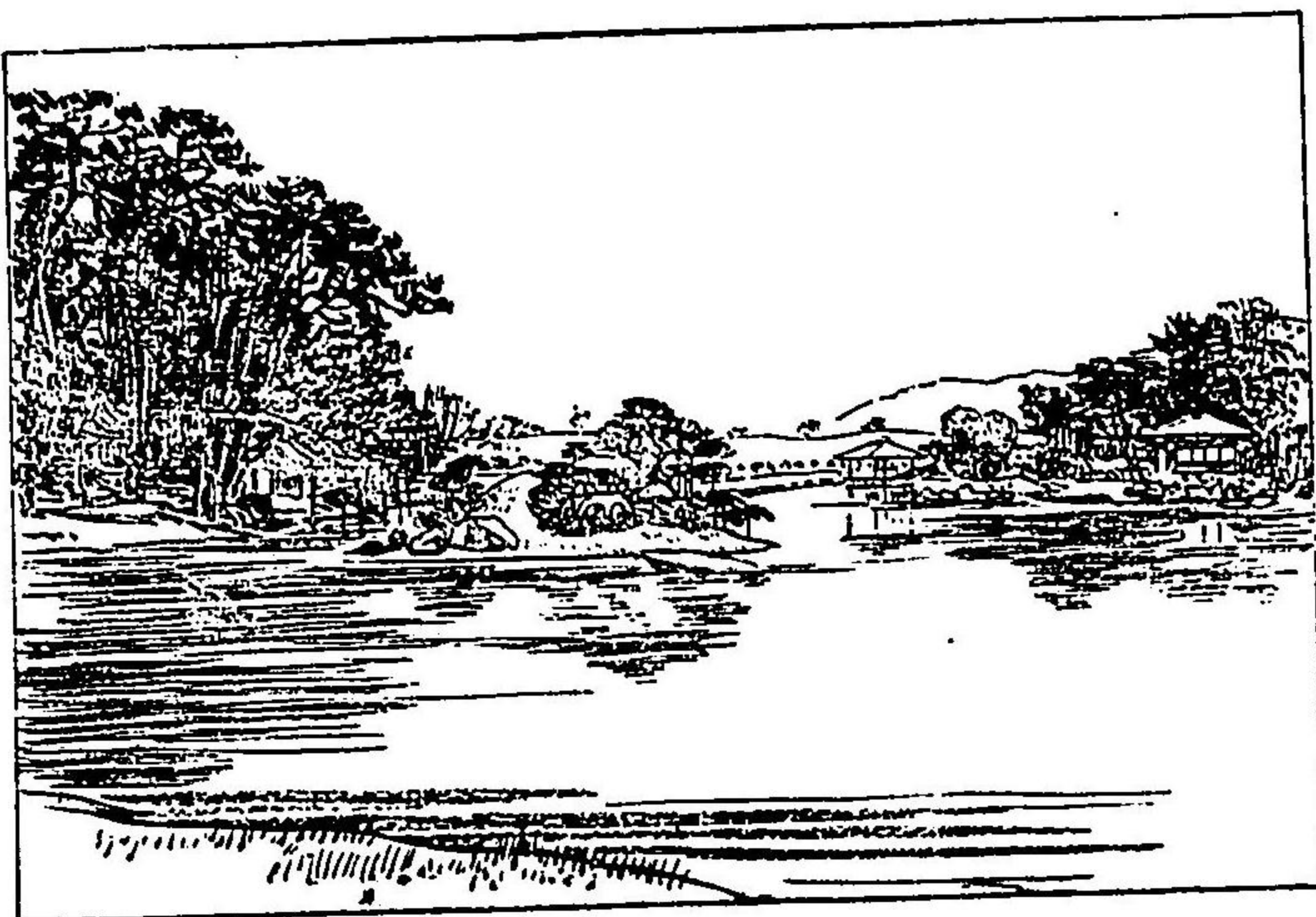
本縣も亦北部は中國山脈横はりて高峻の地多く、河水は南方に流る、南面一帯は田圃能く開け米、麥及疊表等の主要なる生産地にして、南方に兒島半島突出し兒島灣を抱く、沿海の地、製鹽業盛に行はる。

岡山市は旭川其東部を貫流す、河口に三蟠港を控へ商工業盛に華、熊野染は市の名産なり、第六高等學校、岡山醫學專門學校の設あり、市の東隅なる後樂園は風景絶佳にして日本三公園の一なり。

人口五萬八千  
池田氏の舊城地

伊部は上古忌部職のありし處なり、舟坂峠は兒島高徳の後醍醐天皇の駕を要せんとせし處なり

中國鐵道沿へる誕生寺の村は浄土宗の開祖生然上人の生地なり、人口二萬津山は松平氏十萬石の舊城地なり



後樂園圖

山川には其下流の和氣迄日々舟楫の便あり、雲齋織及足袋

岡山市より山陽鐵道は、刀劍を以て名ある長船、伊部、燒備前、燒を産する伊部及蠟石の産ある三石を経て舟坂峠の隧道を過ぎ神戸に向ふ、三石の西方なる閑谷巖は池田光政の創めし處にして、其名世に高く今に學生の來り學ぶもの多し、●中國鐵道は岡山より津山に通ず、津山は岡山の北十五里美作の中央に位置し、當國第一の都會なり、又津

備中の境に  
近き高松は  
秀吉の水攻  
を以て知ら  
る

は著名の物産なり、其西方の院庄には作樂神社あり、兒島高  
徳の櫻樹に題せし舊蹟のある處なり●岡山より川邊川大  
川の流域に出づれば高梁玉島あり、高梁は北方の都會なり  
玉島は港内水深く、此地方の要津にして、百貨集散し商業稍  
盛なり、南方の高島には神武天皇行在所の趾あり、兒島半島  
の地頭を藤戸と云ふ、古の藤戸ノ渡是なり、其南端下津井港  
は四國に渡る要津なり。

問一 山陽鐵道東海道鐵道日本鐵道の幹線を別圖中に畫き且其線路に  
當る府縣廳所在地名を記入せよ。(三四、海兵)

問二 山陽鐵道の起終點並に之に沿ふ著名の市邑を圖示せよ。(三四、外語)

問三 山陰山陽二道の主なる物産を問ふ。(三四、商船)

### 四國 問 國名及縣名を舉げよ。

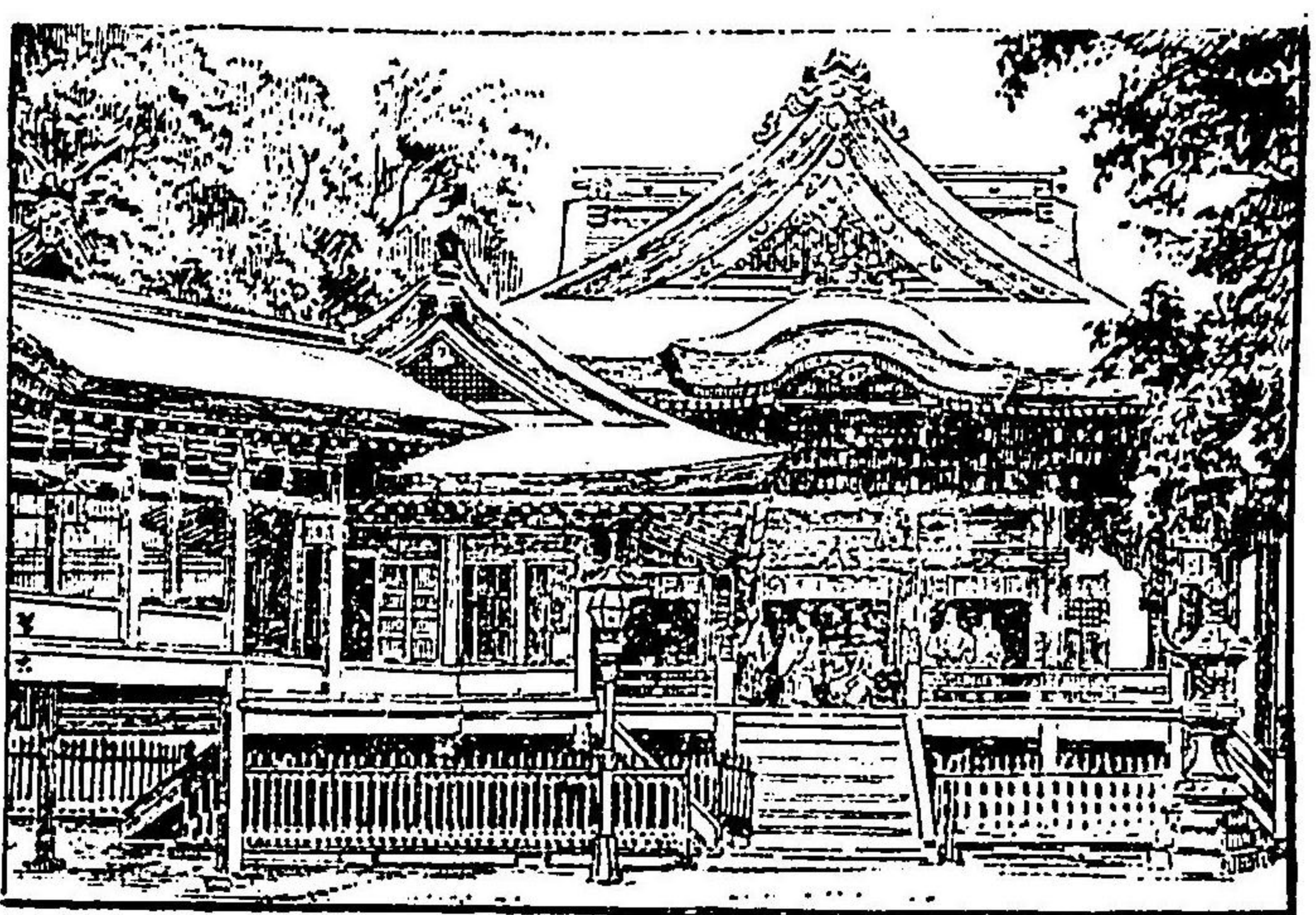
### 香川縣

人口三萬四  
千  
松平氏の舊  
城地なり

(一) 人口一萬  
二千  
(二) 人口二萬  
五千

讃岐山脈南境を限り、雲邊寺象頭の諸山其中に峙つを以て、  
南方一帶は山岳重疊すれども、北方は次第に低く海岸一帯  
は平坦にして農業製鹽業盛なり、沿海出入多く島嶼亦少か  
らず、就中大豆の産ある小豆島(周回三)を最も大なりとす。  
高松市は縣の中央海岸にあり、内海の諸港と汽船常に往復  
し産物に保多織を出し市況殷賑なり、此地は大阪を距るこ  
と四十七哩、徳島を距る十七里なり、その栗林公園は市の南  
方二十餘町の所にあり、風景頗佳なり、讃岐鐵道は此地より  
起りて西に向ひ崇徳天皇の御陵ある白峯を右に仰ぎ阪出<sup>(一)</sup>  
丸龜多度津等を経て東南琴平に達す、丸龜市は良港を有し  
神戸及大阪との交通頗る繁く市況繁華にして讃岐富士の  
名ある飯野山その東南に聳ゆ、多度津は縣下の要津にして  
中國より九州に航行する汽船の寄港地なり、西北の海上に

(一)人口一萬三千



金刀比羅神社

北方屋島は屋の棟の形をなせるによりて名づく、其東の五

鹽飽群島亂點して眺望頗佳なり、多度津琴平間の善通寺は第十一師團を設置し四國軍事上の中心たり、弘法大師は此地の出生なりといふ、琴平は金刀比羅神社(俗に金毘羅と稱す)のある處にして、その社殿は高く象頭山の半腹にあり、賽客常に絶ゆることなく一千五百の商家これが爲めに繁昌せり、其西方海岸に觀音寺あり、地方の要區なり、高松の

吉野川は四國三郎の名あり

祖谷川は断崖絶壁の間を流れ風景絶佳にして、絶橋を架して交通の供として、長き間に及ぶ山間の奇観なり

劍山は古は五峯聳立せしも、今はその一峯を欠けり、其麓に志度あり共に源平二氏の古戰場たり、東方阿波街道の引田は砂糖醬油の産出盛なり。

### 徳島縣

讃岐山脈は北境を限り四國山脈國の中央を東走して地を南北に分つ、北方は吉野川の流域に屬する地方にして平野よく開け交通運輸の便あり、此地方に脇町・半田・池田の市街あり、その附近の藍は産額品質共に帝國無雙と稱せらる、吉野川下流は數派に分れて海に注ぐ、其河口に徳島あり、南方は勝浦川那賀川の下流に當れる地方を除く外總て高峻を極む、西境祖谷村は山深くして人烟稀に殆んど別乾坤の觀をなす、祖谷川は此處より出て、吉野川に注ぐ、而して縣下の高峯を劍山と稱し頂上に劍社あり、夏日行者の參詣多し、

人口六萬二  
千  
蜂須賀氏の  
舊城地

(一) 人口三萬  
八千

(二) 人口一萬  
三千

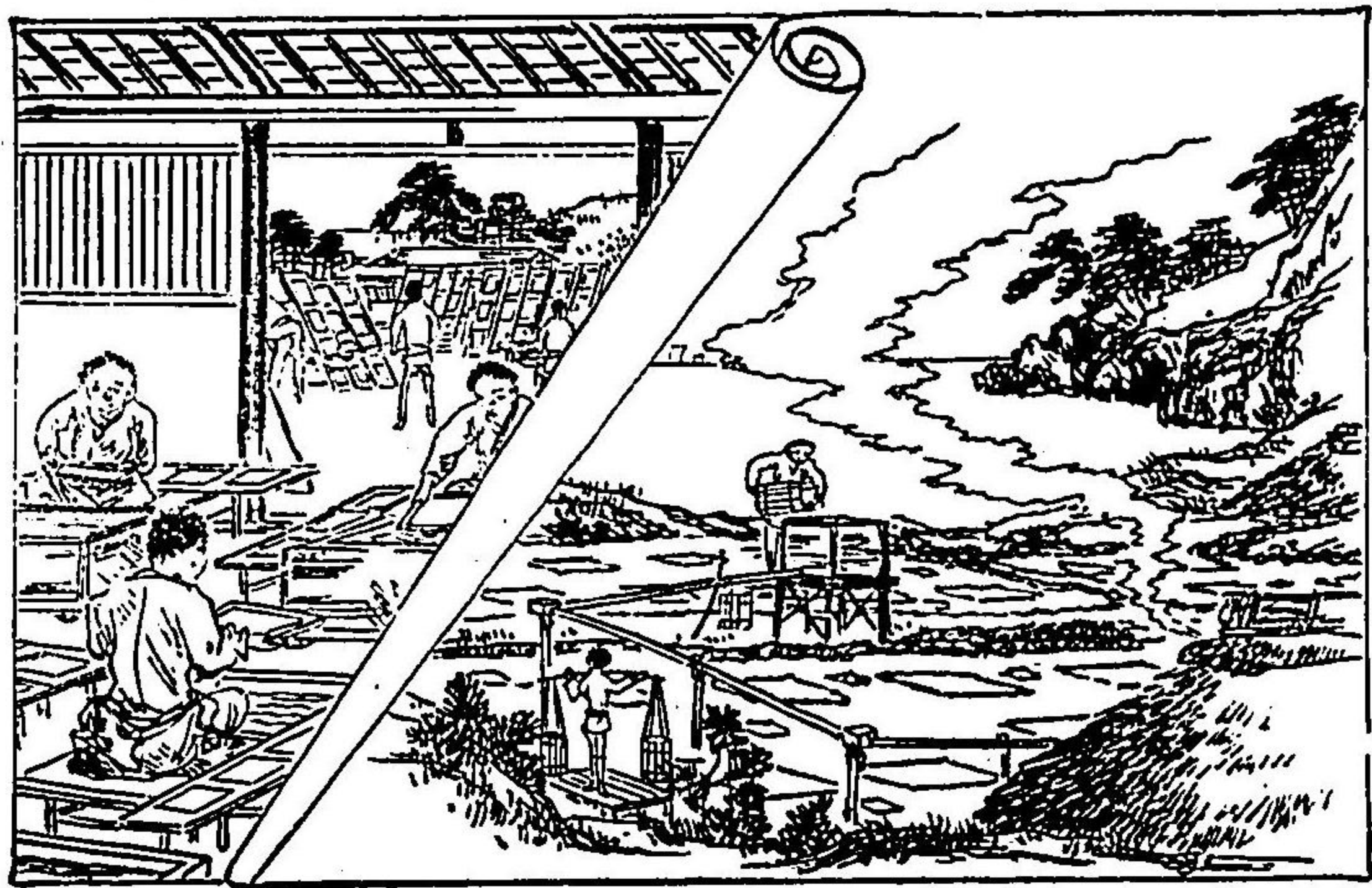
徳島市は縣下第一の都會なり、徳島鐵道は此處より吉野川に沿ひて上流に通じ、水陸の便に富み、商工業盛にして阿波縮緬(シロリヤ)綿(ワタ)等々を多く産す。吉野川の上流に半田の漆器、池田の煙草等有名の産物あり。徳島より北三里にして撫養(ニライ)あり、鳴門を挟みて淡路に對す。齋田鹽は此地の名産なり。鳴門は瀬戸内海の口に當り、潮汐干満の際外洋の水、内海の水と平準を失ふによりて、茲に激流をなし、海面渦流を生ずる故に古來航海者の危險とする所なり。南方は主として那賀川及勝浦川の流域地に屬し、小松島、富岡等の名邑あり。北方吉野川平野と共に砂糖の産出少からず。

### 高知縣

四國山脈の南面をなし、山岳國內に起伏して、東北殊に嶮惡を極む。南方蹠(タガ)岬と室戸岬とにより、土佐灣を抱く。こゝに

人口三萬七  
千  
山内氏の  
四萬石の  
城地

### 高知の製紙



### 養蠶の製鹽

注入する物部川、仁淀川、渡川(四萬十川)等の下流に屬する地方のみは稍平野をなせども、其他は概して交通に不便なりとす。産物には土佐半紙、珊瑚、鱈、鯨等あり。  
高知市は鏡川に臨み、浦戸灣に接す。灣内水深く、神戸、大阪に汽船の便あり。縣下唯一の貨物集散地なるを以て、商業盛なり。市の中央なる城跡は現時公園となりて、士民の遊賞常に絶えず。其牙城の威臨

浦戸は元龜  
天正の頃長  
會我部氏の  
根拠地なり  
國比佐は國  
府の在りし  
所なり

(一)沿道なる  
脇磯は土御  
門天皇行在  
所ありし處  
なり

閣は全市を瞰下し吸江の眺望殊に佳し灣口に浦戸の要津あり其他市の東北三里の所には史上に名高き國比佐あり高知より阿波街道を取れば室戸甲浦等あり甲浦は港内水深くして大船を泊するに適すと云ふ高知の西南方には須崎宿毛等の名邑あり須崎は縣下の良港なるが上に其附近の地に製紙の業盛んなるを以て市街の繁華は高知に亞く宿毛は西南隅の小都會なれども維新の際名士を出せるを以て知らる。

愛媛縣

四國山脈は土佐の境上に連亘し石槌山瓶森山等の諸山聳え支脈高繩半島に出でて高繩山を成し地勢を東西に分つにより山岳到る所に起伏す唯重信川肱川の流域及沿海の地のみ纔に平地をなし農耕に適し今治松山長濱宇和島の



市街あり、海岸長くして出入多く島嶼散在して漁鹽の利あり、興居島は全島一山より成り風色佳美にして、伊豫の小富士の名あり。

人口三萬七千  
久松氏十五萬石の舊城地なり

(一) 人口一萬五千  
(二) 人口一萬二千

松山市は西北に三津濱の良港を控へ、東一里餘に有名なる道後の温泉あり、浴客常に絶えず、而して是等を連絡する鐵道あり、又平井河原森松及郡中（シノヅメ）に通ず交通至便市街爲に繁華にして松山縞伊豫素麵等は市の名産なり。三津濱は中國九州に渡る要津なり、松山より東、國道に沿ひて西條に出づ其北方（ノ）今治は伊豫灣に臨み尾の道との交通頻繁なり、更に東に向へば川江に至る、有名なる立川別子（ニ）の銅山市、川の安質母尼鑛山は此の街道の南にあり、其北海岸は製鹽業盛に新居濱（ニ）最も名あり、川江は讚岐及土佐に到る國道の岐點に當り土地繁華なり。

(一) 人口 一萬三千



道後温泉

別子銅山

松山の南方なる大洲は肱川に跨り河口の長濱と舟楫の便あり、此地にて製する大洲半紙殊に名あり、其西南豊豫水道に面する所に八幡濱及宇和島の要津あり、宇和島は同名の灣に臨み市街繁華にして木綿紙を産す、此地より九州に渡航の便あり。

問、銅の産地を列記せよ。

問、四國の略圖を描き山脉及港灣を記入せよ。

### 西海道

問、西海道の國名及縣名を語れ。

筑後川は筑紫次郎の名

(一) 人口 二萬五千  
門司の近傍に昔三韓の貢を受けし文字の關趾あり  
小倉市は小倉原氏の舊城地なり  
人口二萬八千  
小倉の近傍に柳浦は安徳天皇の御地なり  
又内里と稱す

### 福岡縣

問、本縣の境界及管轄區域並に縣廳所在地を語れ。

九州の要部を占め本州に最も近きは福岡縣なり、九州北部山脈中央に連亘して地を南北に分つ、南方は筑後川の流域に屬し筑紫平野の一部をなし多量の米穀を産す、久留米市大川、柳河、大牟田等の名邑あり、北方は遠賀川の流域及博多灣沿岸の地にして田圃開け農産物鮮からず、且炭脈に富み門司、小倉、福岡の市街ありて九州中人煙最も稠密の所なり。門司市は馬關と相對して内海の咽喉に當るを以て砲臺の設あり九州鐵道の起點にして且開港場なるが故に市街頗繁華なり、是より西南三里にして小倉市あり、兵事、上樞要の地なるを以て第十二師團の所在地たり、又小倉織の本場なり、汽車は此地より分れて南に向ひ海岸に沿ひて大分縣に入る、其支線は織物の産ある豊津に通ず、小倉の西に洞海あり。



(一) 人口一萬二千  
 本縣は石炭の産出本邦第一なり  
 製鐵所の敷地坪數二十萬坪あり  
 六萬坪あり  
 蘆屋港は神武天皇の行宮の地なり  
 宮の地なり

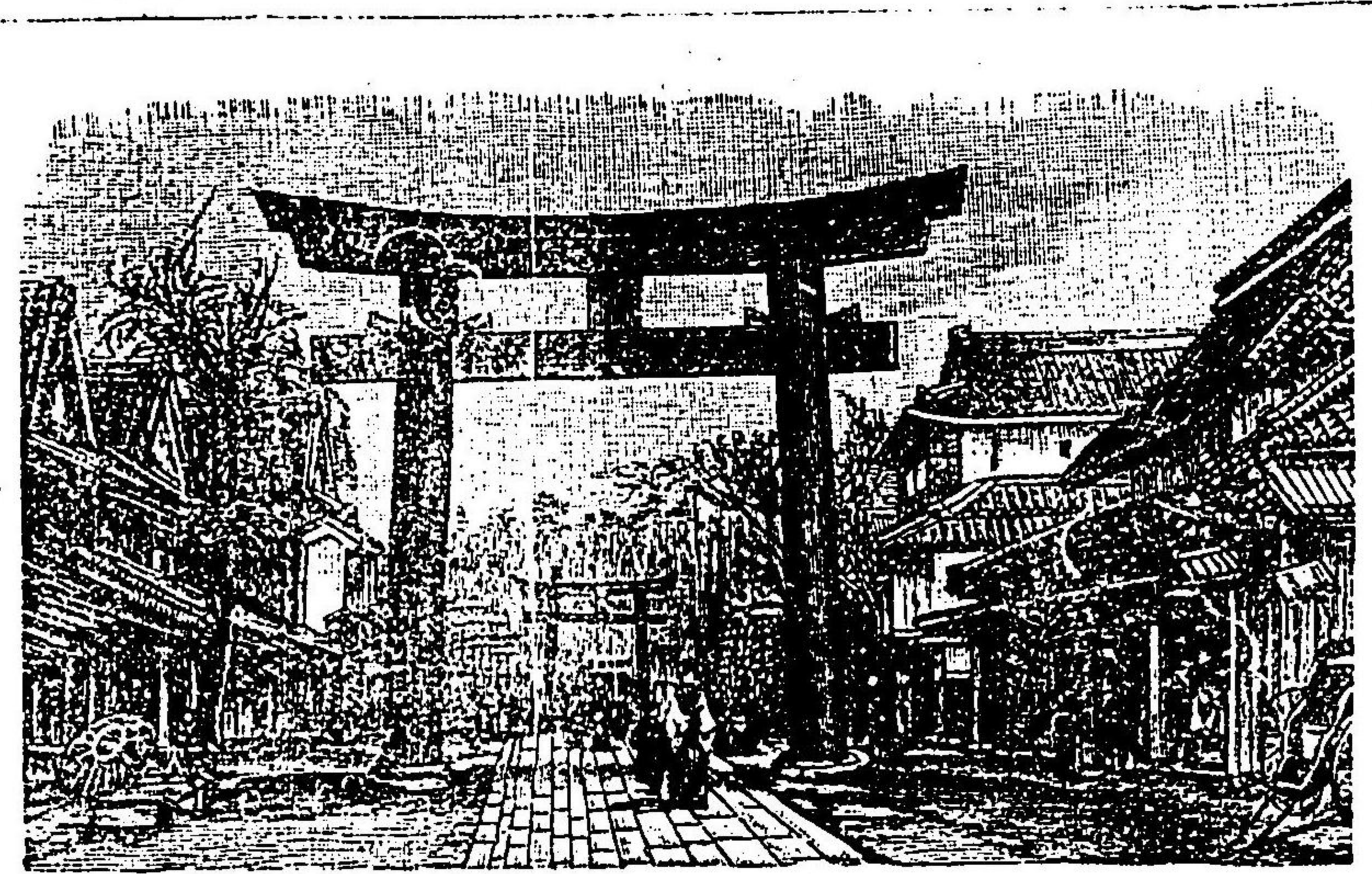
黒田氏五十萬石の舊城下なり  
 人口六萬七千

福岡の近傍に九州探題の城址あり  
 (一) 應神天皇の靈を祀る

り其海口の若松港は遠賀川流域なる一帯の筑豊炭田を控ふるにより石炭積出の要津として鐵道を通せり、本邦唯一の製鐵所はその原料を陸中に仰げるにも拘はらず石炭供給の利あるが爲に此港の附近なる八幡村に設置せられたり、遠賀川の河口に位する蘆屋港は洞の海と運河を通し舟楫に便あり、汽車は尙進みて福岡市に達す。

福岡市は九州第二の都會にして博多灣に臨める開港場なり、那賀川市内を貫流して博多・福岡を限り本市は歩兵第二十四聯隊の所在地なるのみならず博多織・蠟燭等の特産物ありて市況頗繁盛なり、其附近の地は古來外國と交渉の盛なりしとき最も頗繁を極めたる所なりとす、東方一帯の沿岸白砂青松の相映する所は所謂千代の松原にして箱崎香椎は共に史上に名高く、名島は神功皇后征韓の役に出船

(一) 人口二萬九千  
 有馬氏の舊城地



し給ひし所として知らる、此地方には今に至りて殘壘の所々に點在するものありて人をして元寇の往時を追想せしむ、香椎の北より砂州一帶西方に延びて志賀島に連なる所を海中道と稱し九州の天の橋立と稱せらる、東南の太宰府は天拜山と共に史上に名高く水城の古城趾その附近にあり、汽車は僅に佐賀縣を掠めて久留米市に出づ、市は筑後川の畔に立ち、歩

(一)寛政の三奇人の一なり  
(二)人口一萬一千  
(三)人口一萬九千

有明洋の不知火は世に名高し

人口三萬三千  
鍋島氏三十萬石の舊城下なり

兵第四十八聯隊を置き且久留米カヌメの産出ありて市街殷賑なり此地に高山正之タカヤママサノの墳墓あり筑後川の下流に大川オホカハあり縣下南方の要津なり其東南なる柳川は立花氏の舊城下にして地方の名邑なり大牟田オホムタは三池炭坑と相接し石炭輸出の要津なり。

### 佐賀縣

域内の中央には九州北部山脈東西に連亘すれども高峻ならず北は松浦川マツウラガハの灌域に屬し唐津伊萬里の二灣に面し南は有明洋アキラマヤの方向に緩く傾斜する筑紫平野の一部にして交通至便地味肥沃農産極めて豊なり。

佐賀市は南方平野の中央に位し九州鐵道長崎線は鳥栖トリノセより分れて此地を通過するを以て容易に熊本長崎或は門司に至るを得べし佐賀より西に向へる鐵道は溫泉場を以て

人口一萬

知られたる武雄タケオ及有田を経て長崎縣に連る武雄の北方唐津鐵道に由れば松浦川の吐口なる唐津港に出づ唐津は開港場にして唐津燒の産あり市街稍繁華なり唐津灣の東方に九州の玄武洞ともいふべき芥屋大門あり此近傍に有名な唐津炭田あり其西方松浦半島の名護屋は征韓役の時秀吉の本陣を定めし所なり有田は其北の伊萬里と共に陶業盛にして伊萬里燒有田燒は從來世上に名高し此二邑間に伊萬里鐵道の設あり。

### 長崎縣

海岸の屈曲出入多きこと本縣の如きを見ず北松浦半島及彼杵半島斗出して大村灣を抱き島原半島東南に突出して有明洋と天草洋とを分つ海上には對馬壹岐平戸島五島列島等數多の島嶼羅列し海岸線の長さこと本邦第一に位し

人口十萬七千

良港に富み漁業の利極めて大なり。

長崎市は東北南の三方は山岳を以て圍まれ、西方は海水深く灣入して灣内は波靜に天然の良港をなせり、我國鎖國時代に於ける唯一の貿易市場にして又泰西の學術始めて我國に傳來せし門戸たり、且、横濱神戸に次ぐ本邦主要の開港場にして重に石炭、錫、樟腦を輸出し、砂糖、石油、生牛、牛皮等を輸入す、控訴院及長崎醫學專門學校の設ありて市街益々繁盛に赴き今は九州第一の都會となるに至れり、煙草、籠甲、細工は此地の名産なり、灣の西南海上に中の島及び高島あり共に良質の石炭を産す、東方に島原半島あり中央に温泉、岳聳立し硫黃を産す、山腹諸所に温泉あり、其裾野には牛馬を養ふ又其東麓に島原の舊城市ありて市内に砂糖を産す、西に口の津あり開港場にして盛に石炭を輸出す、長崎より鐵

(一)天草の亂に賊の據りし處なり

大村氏の舊城地

人口三萬八千

道により東北の諫早地頸を北に向へば大村あり第二十三旅團の所在地たり、是より九州鐵道は北早岐に於て支線を出し西北の佐世保に到る、佐世保は大村灣(一名鯛浦)の咽喉に當り第三海軍鎮守府ありて、市街繁盛なり、西北方に平戸の瀬戸を挾みて平戸島あり、捕鯨最も盛なり、その平戸港は島内の名邑にして始めて和蘭と互市を開きし處とす、伊萬里灣の北なる鷹島は元寇の歴史に由りて著名なり、●壹岐は肥前の北七里の海上にあり、勝本の名邑、郷浦の良港ありて船舶の出入多し、對馬は壹岐の北十五里の沖にあり上下二島よりなる、古來外交上軍事上樞要の地たるを以て警備隊を置く、竹敷には要港を設け、嚴原、佐須、那鹿見の三港は多く朝鮮と貿易す共に開港場なり、島内には馬の産あり、壹岐と共に海産物夥しくして一一枚舉するに遑あらず、是より

五島は福  
江中通久  
賀奈良宇  
久の五島な

(一)五家の莊  
は平氏の遺  
族の住所な  
りと傳ふ

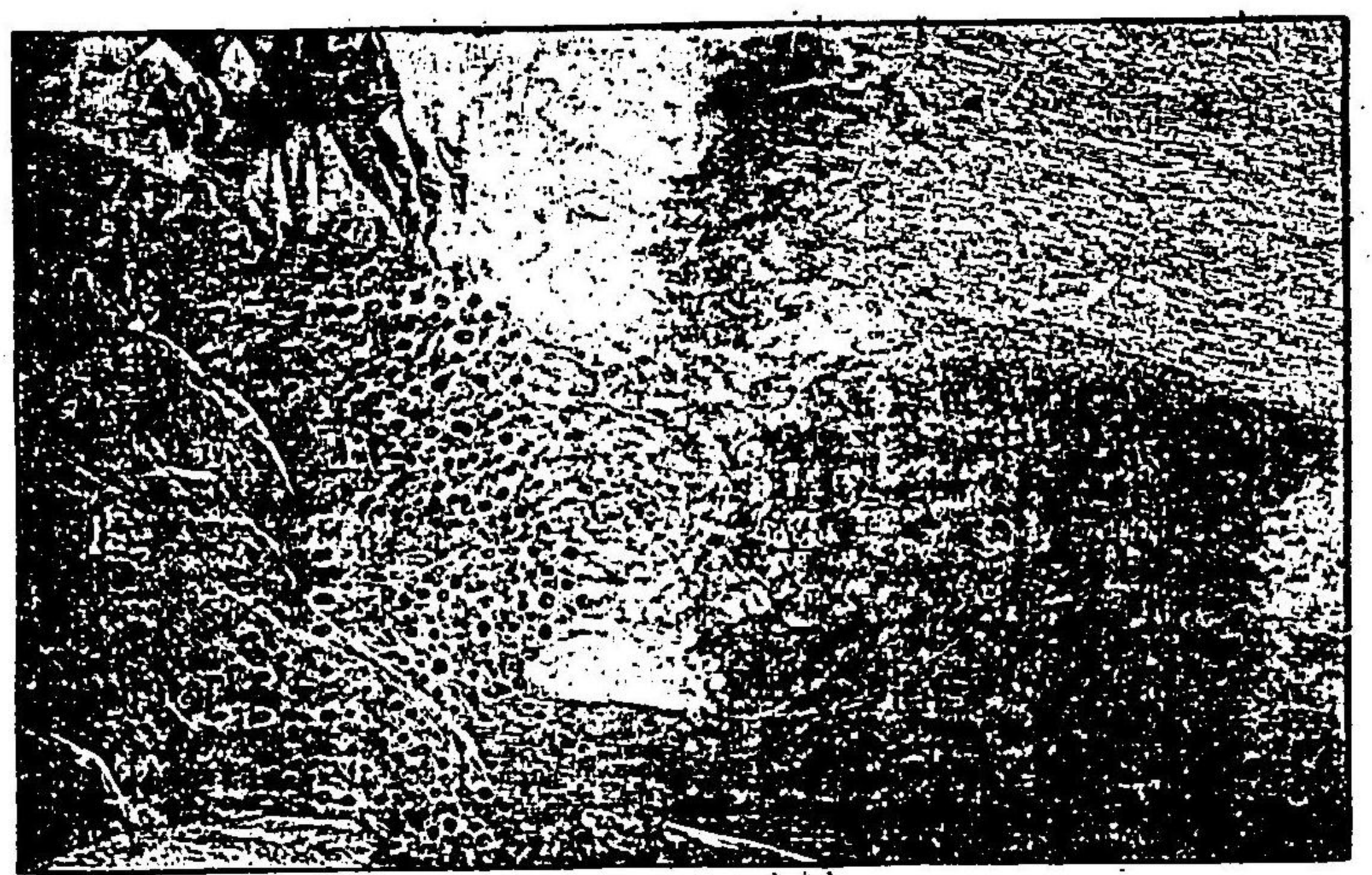
富岡は天草  
群島の名邑  
なり

南方海上に五島あり福江島最も大にして中通島之に次ぐ  
此近海も亦頗魚族に富み殊に五島鯨五島鰯は古より名あり。

### 熊本縣

地勢は九州南部山脈東南境に連亘し豊後の界には阿蘇火山脈ありて山勢最も險惡なり南境に三太郎越國見山の嶮あり東に市房の高峯五家の山莊ありて東半面は地勢最も高峻なれども菊池川白川球摩川等の下流なる西部は一帶の平野をなし肥後米粟及煙草等の生産地なり熊本市其中央に立てり宇土半島は中央より西に突出し有明洋と八代灣とを分つ無煙炭の産を以て有名なる天草群島其西方海上に散在す群島の西は頼山陽の詩を以て有名なる天草島なり。

人口六萬二  
千  
細川氏五十  
四萬石の舊  
城下なり



安蘇山  
熊本市は九州屈指の都會にして白川市内を貫流す第五高等學校の設ありて鎮西文學の中心たり九州鐵道は此地を過ぎ交通便にして市況甚だ殷賑なり熊本城は市の中央にあり加藤清正の築く所にして本邦無雙の堅城なりしが西南の役重圍に陥り其大部は兵燹に罹り今は唯一の小樓閣を遺すに過ぎず現時第六師團あり其近郊に有名なる水前寺の勝地あり。

人口一萬一  
千  
代の城址あり  
菊池氏歴

白河の河口に百貫石あり縣下の要津なり、白河の河源を探れば阿蘇山に到る、此山は有名なる活火山にして綿々として煙氣常に絶えず、山麓所々に温泉あり、汽車は熊本市より北方に通じて植木・田原坂等の古戦場を過ぎ菊池川を渡り福岡縣に入る、菊池川上流の山鹿隈府は共に北方の名邑なり、熊本の南は宇土半島の頸部を経て八代に到る、半島の尖端に三角港あり、開港場にして多く米穀を輸出す、八代は球摩川の右岸に立ち八代焼セメント等の産ありて市街賑はし、其南の日奈久は温泉を以て著はる、是より日本三急流の一なる球摩川を遡れば人吉の舊城下ありて薩摩に通ずる要區なり、東方山脈を隔て、本縣と向背をなせるは大分宮崎の二縣なり。

### 大分縣

人口一萬三千  
奥平氏の舊城地

人口一萬五千  
地蔵岬佐賀關の東に突出して伊豫

九州北部山脈及九州南部山脈は南北境に横はり、中央には阿蘇火山脈凸起して國東半島突出し地を南北兩部に分つ、地勢一般に高峻にして交通甚だ不便なり、中津灣・別府灣に朝宗せる山國川・驛館川及大分川・大野川の流域のみ僅に平野を開けり、藺・蒨・錫及礦物の産あり。

大分は大分川に臨み汽船の航行ありて市街稍繁華なり、檜物細工を産す、別府港は大分の西北海岸にありて温泉を以て名高く、豊後富士の名ある由布岳はその西に聳ゆ、山國川の上流は所謂耶馬溪にして河水浸蝕の作用は數里の間怪岩奇石をして所々に屹立せしめ實に海内有數の奇景たり、中津は山國川の東岸にありて市街賑やかなり、豊州鐵道は是より東に延びて宇佐に通し、更に驛館川に沿ひて河口なる長洲に到る、宇佐は宇佐八幡のある所にして和氣清麿の

の佐田岬と相對し早吸の瀬戸を扼す中川氏の舊城下なり

故事を以て著はる●大分の東なる佐賀關東南なる臼杵佐伯は共に船舶出入し市況盛なり大野川上流の竹田は山間の名邑なり

### 宮崎縣

西及北には九州南部山脈を貫ひ西南の境界に霧島火山脈あり此等の支脈域内に蜿蜒し地勢一般に高峻なり一の瀬大淀の流域地海岸に相連り平坦にして田圃稍開けたり其他美々津川五箇瀬川等あれども流域廣からず交通耕耘共に不便なり日向炭樟腦椎茸日向半紙は縣下の名産なり國道大分縣より本縣に入れば延岡に出つ延岡は五箇瀬川の流域にありて北方の名邑なり此川の上流には天孫降臨の地と稱する高千穂あり細島はその南にある要津にして神戸鹿兒島間に往來する汽船の便あり此所より佐土原の名

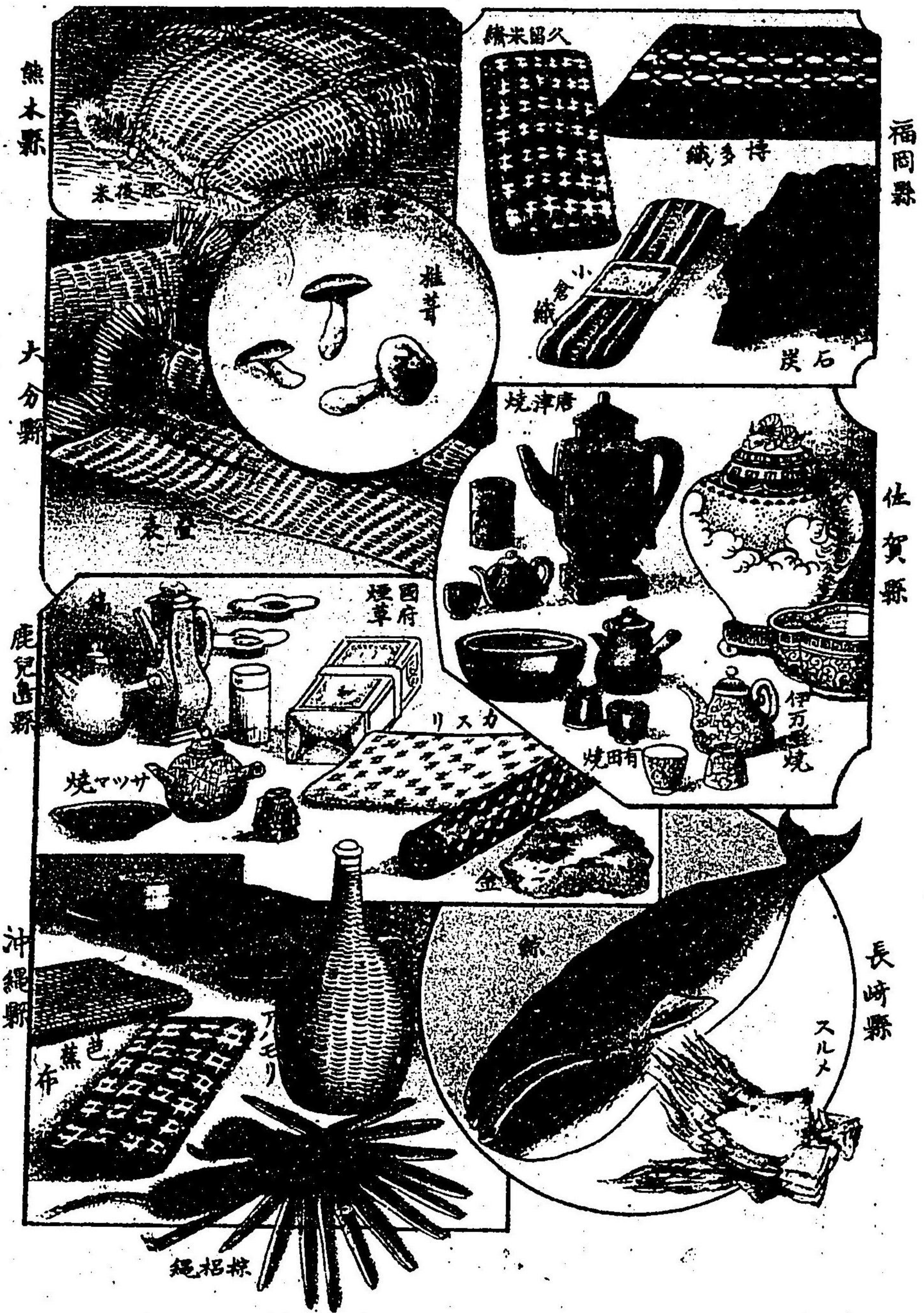
(一) 人口一萬三千  
近傍の宮九村には高千穂の遺跡ありと傳ふ

邑を経て宮崎町に出づ宮崎は大淀川に跨り縣廳の所在地たるも近年の開拓に係り交通不便なるが故に徴々として振はず人口も未だ一萬に達せざる小市街なり都城は日向より大隅に通するの要路に當り縣下第一繁華の都會なり其附近には盛に茶樹を栽培す北方霧島山東嶽の高千穂峯には絶頂に天逆矛ありと傳ふ油津は大島前に横り縣下の要津なり

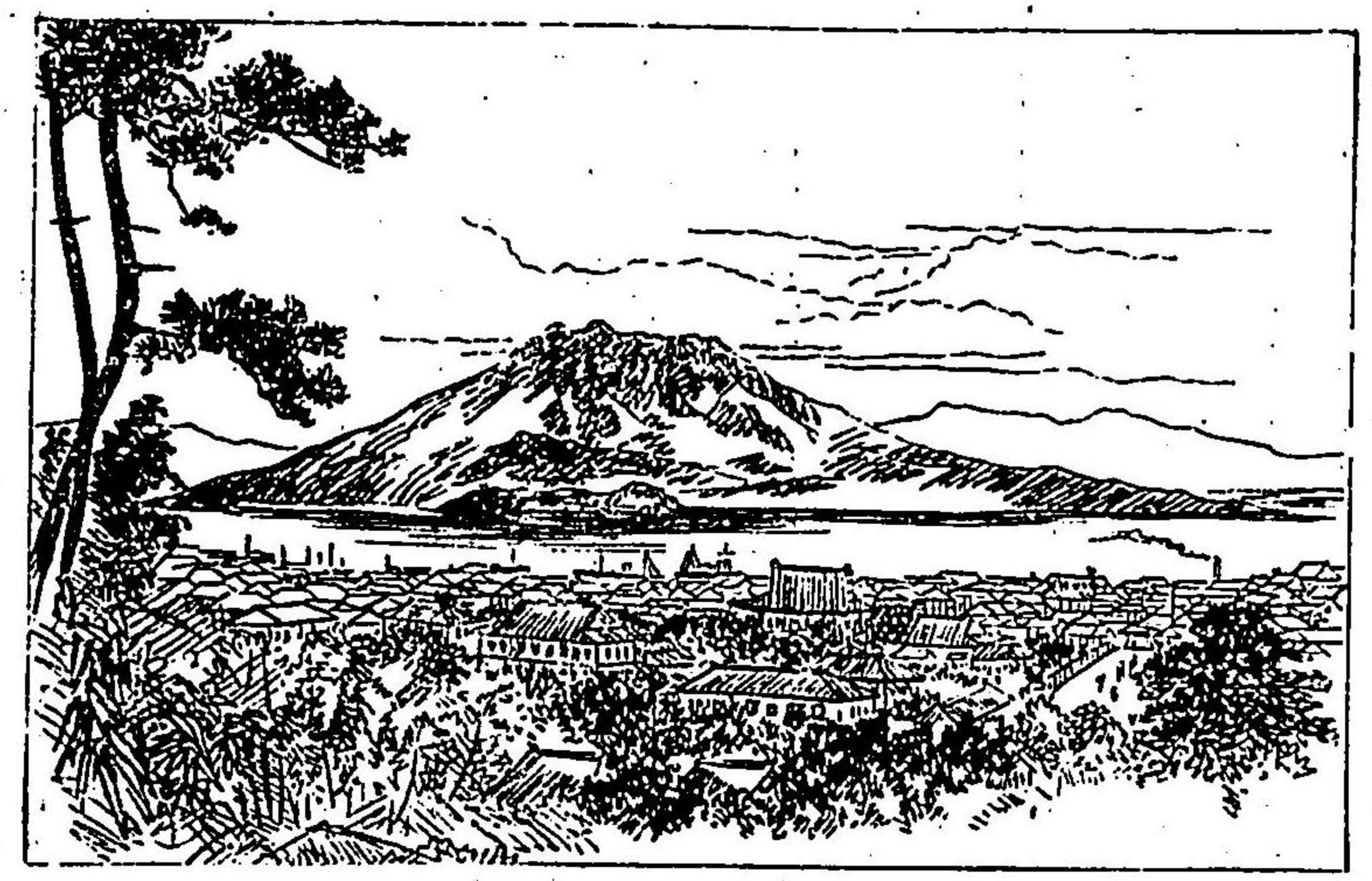
問 地方廳所在地にして人口一萬に充たざる都會を擧げよ

### 鹿兒島縣

九州の南端にあり鹿兒島灣深く彎入して薩摩大隅を分ち共に半島狀を成せり域内には九州南部山脈及霧島火山脈横はり櫻島岳開聞岳等聳立し川内川の流域及沿海の地方を除くの外地勢概ね高峻にして交通不便なり而して薩隅



人口五萬四  
 文久年間英  
 艦と戦ひし  
 所なり



鹿兒島市より櫻島を望む

諸島遠く海上に羅列して輿論島に至る、金・錫・飛白・煙草・陶器・馬は縣下の名産にして薩摩節等海産も亦甚だ多し。鹿兒島市は鹿兒島灣の西岸にあり、西北に城山を負ひ甲突川西南部を貫流す、其海港は神戸・長崎・基隆との間に定期の航行あるを以て市況頗盛なり、而して陶器・飛白・煙草等を市の名産とす、前面に櫻島あり北岳最も高く噴煙止むときなし、蘿蔔の産地なり。

(一) 人口一萬二千  
 (二) 人口一萬  
 (三) 人口二萬六千  
 (四) 人口一萬  
 (五) 人口一萬六千  
 (六) 人口一萬六千  
 (七) 人口一萬五千

(一) 口ノ島、中ノ島、臥蛇島、平島、諏訪瀨島、石島、寶島、の寶七島及

煙草の産地として有名なる國分は鹿兒島市の東方に在り、現時鐵道を以て兩地を連ぬ、其途中なる(一)加治木は大隅の名邑にして陶器を製造す、その北方には山野の金山あり、(二)志布志は志布志灣頭にありて漁業盛なり、鹿兒島の西北方(三)阿久根は肥後に通するの要路に當り焼酎を醸造す、其北方の(四)出水は煙草の産地なり、阿久根の西南海上に(五)甌島あり、鹿兒島の南に(六)谷山の名邑あり、錫を産し南の福元には軍馬育成所あり、尙その南に(七)楯宿あり、盛に薩摩焼を製造す、南方なる山(七)川と共に良港なり、加世田は西南部の名邑にしてその附近には鹿籠金山あり、北方なる芹野の金山と共に本邦主要の金産地なり。

本縣の南方には島嶼甚だ多く所謂薩隅諸島にして大隅海峡を隔て、種子島(三)屋久島(十)あり、種子島は我國に始



之に黒島、硫黄島、竹島を加へた等あり  
 藤原成俊(二)平康頼僧俊寛等の流されし地なり

めて銃器の渡來せし所なり、屋久嶋には八重岳(六千二)の高峯聳ゆ、其西南に寶七島連綴しその海上を七島灘と云ふ、航行甚だ危険の所とす、其南は所謂大島群島にして大島、鬼界島、徳の島、沖、永良部島、與論島等互に相連なりて、琉球諸島に到る、就中大島最も大にして周圍七十三里あり、島内の名瀬港は琉球に渡る要港に當り、島廳の所在地たり、以上の諸島は皆に海産の利あるのみならず、盛に砂糖、紬、疊表等を製造す。

沖繩縣

沖繩縣は薩隅諸島に連りて、西南海中に羅列せる沖繩群島、宮古群島、八重山群島等大小五十五の島嶼よりなれる列島を管轄す、就中沖繩島最大にして周圍百十里、島内を國頭、中頭、島尻の三部とし、其下に間切と稱する郡の如きものあり



琉球人の圖

て之を管治す、地勢は薩隅諸島と共に琉球列島を成し、各島嶼は丘陵起伏し平地少く、その高き所も千五百尺に達せず、地味は肥瘠相半し、河流少く、且水量淺くして灌漑の便

なく、良好の飲料水に乏しきを以て穀類の生育に適せざるが故に住民は甘藷を栽培して之を常食とす、琉球餅(薩摩餅)

砂糖・紬・泡盛・酒・塗物等の産あり。

本縣は其位置熱帯に近けれども、島嶼なるが故に海より涼風を送りて氣候を中和にせり、されど颶風時に襲ひ來るを以て一般に家屋の構造を低くし、或は堅固たる石垣を繞らして之に備ふ、住民は琉球種族にして、言語文字は内地と同なるも僻遠のものは土語を使用す、風俗は一般に内地と稍異にして衣服は平袖を着し帯を前に結び、男子は頭髮を束ねて簪を挿す、又一般に男逸し女勞し下民は跣足を常とす。

人口三萬六千

那覇區は島尻の南西部に位する開港場にして、中央の市場には露店を張り豕を始め野菜等日常一切の需用品は皆此露店にて賣買し行人雜沓を極む、琉球飛白・砂糖・泡盛等を輸出し、米穀を輸入す、されど港内水淺く大船は港外に碇泊す

るの不便あり。

人口二萬五千

首里は那覇の東一里許の所にあり、往時藩主尙氏の居城地にして、今も王都の古風を存す、第六師團の分營を置けり。國頭の運天港は沖繩三良港の一にして近地の産物を輸出す。

沖繩の西方、慶良間群島の阿護港も亦三良港の一なり。

宮古群島は沖繩の西南六十餘里に在り、宮古島最も大にして上布は其地の名産なり。

八重山群島は宮古島の西二十八里の所に在り、石垣島、西表島共に大なり、西表島の船浮港は運天港、阿護港と俱に沖繩三良港の一にして其近傍より石炭を産す。

與那國島は最西端に在りて元本邦の極西と稱せり、島民今尙は太古の風を存し結繩或は象形文字を用ふ、波照間島は西表島の南方に在り、是亦往時本邦の極南端なりし所を以て知らる。

- 問一、各府縣市制地を擧げよ。
- 問二、市にあらざる地方廳所在地を列記せよ。
- 問三、人口十萬五萬以上の都會を北より南に順次列記せよ。
- 問四、開港場を列記せよ。
- 問五、三大島の府縣名を各別に語れ。

### 臺灣

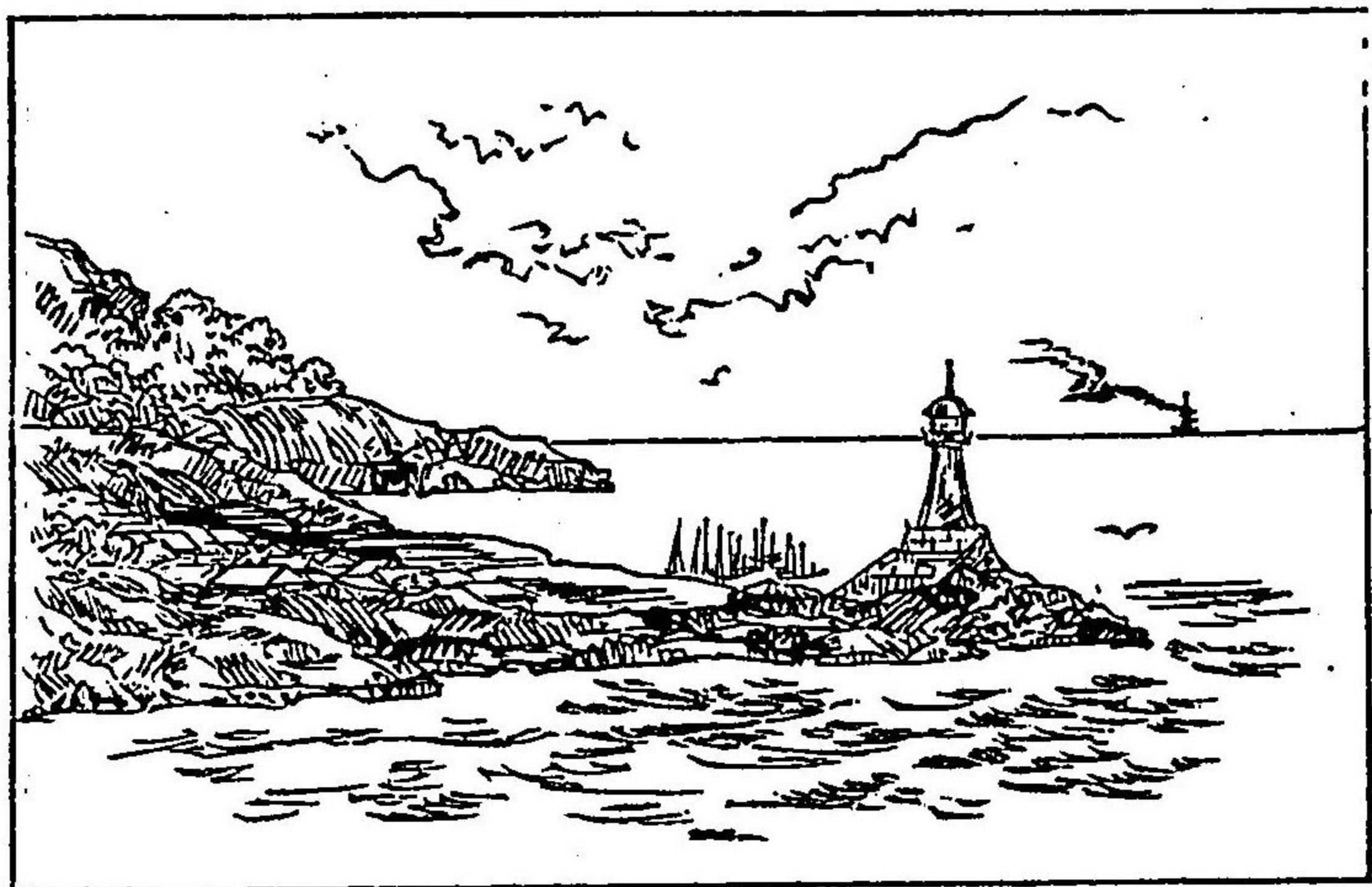
- 問一、臺灣の地形は何に類するや。
- 問二、臺灣の四境を述べよ。

西洋人は此島を「FOUR MOS」即美島と呼び我國人は往昔高砂島と稱したり  
 二十廳左の如し  
 臺北基隆  
 宜蘭深坑  
 街・桃仔園  
 新竹苗栗  
 臺中南投

臺灣は長さ南北百餘里、東西三十里、面積は澎湖群島(其數四十七、面積十四方里)を合せて二千三百方里、人口大約二百八十萬あり、此地もと支那の領土なりしが日清戰爭の結果支那より我に割讓せしものなり、北方の臺北に總督府を置き其下に二十の廳を設けて之を管轄す。  
 地勢は臺灣山脈稍東方に偏して南北に連亘し本島の脊骨をなして地勢を東西に分つ、東部は支脈錯綜して海岸に迫

彰化斗六  
 嘉義鹽水  
 臺南鳳山  
 蕃薯寮阿  
 猴街恒春  
 卑南馬公

山脉  
 新高山は富  
 士山より高



カ ラ テ ン 燈 臺

り平地甚少く僅に宜蘭平野及花蓮溪、秀枯巒溪、卑南溪の狭小なる谿谷あるのみ、且此の山地は生蕃の巢窟にして田圃開けず生産少し、西部は之に反して地域廣く沃野遠く連り數多の河流其間を流れ勤勉なる支那人(漢種)多く住み茶、砂糖、穀類の産出甚多し。  
 臺灣山脈は甚高峻にして三貂角より起り全島を縦斷して南岬に至る、山脈中シルヴ

分水界とは  
二流域を分  
つ高地を云  
ふ

ヤ山(一萬一千尺)より新高山(一萬二千八百尺)に連り、數多の高峯屹立し本島の高地帯をなせり、大屯火山脈は澎湖群島より本島の北部を経て遠く琉球諸島に亘る。

河流は臺灣山脈分水界をなすを以て、東面には大河なく、西面には稍長流あれども、多くは溪流にして平日は水量少く強雨に逢へば濁流泥土を運び來りて下流に堆積するを以て舟運の便なく且屢氾濫の患あり。

淡水河は、本島中最有用なる大河にして、上流を大姑陷溪と云ひ、シルグヤ山より發し新店基隆二河を合せ淡水港に注ぐ、河口より艋舺迄舟運の便あり。

下淡水溪は新高山より發し、臺灣西部平野の南方を灌溉して、東港に注ぐ淡水河と共に利用多き河流なり、其他大甲溪大肚溪濁水溪等ありて孰れも沃野を灌溉せり。

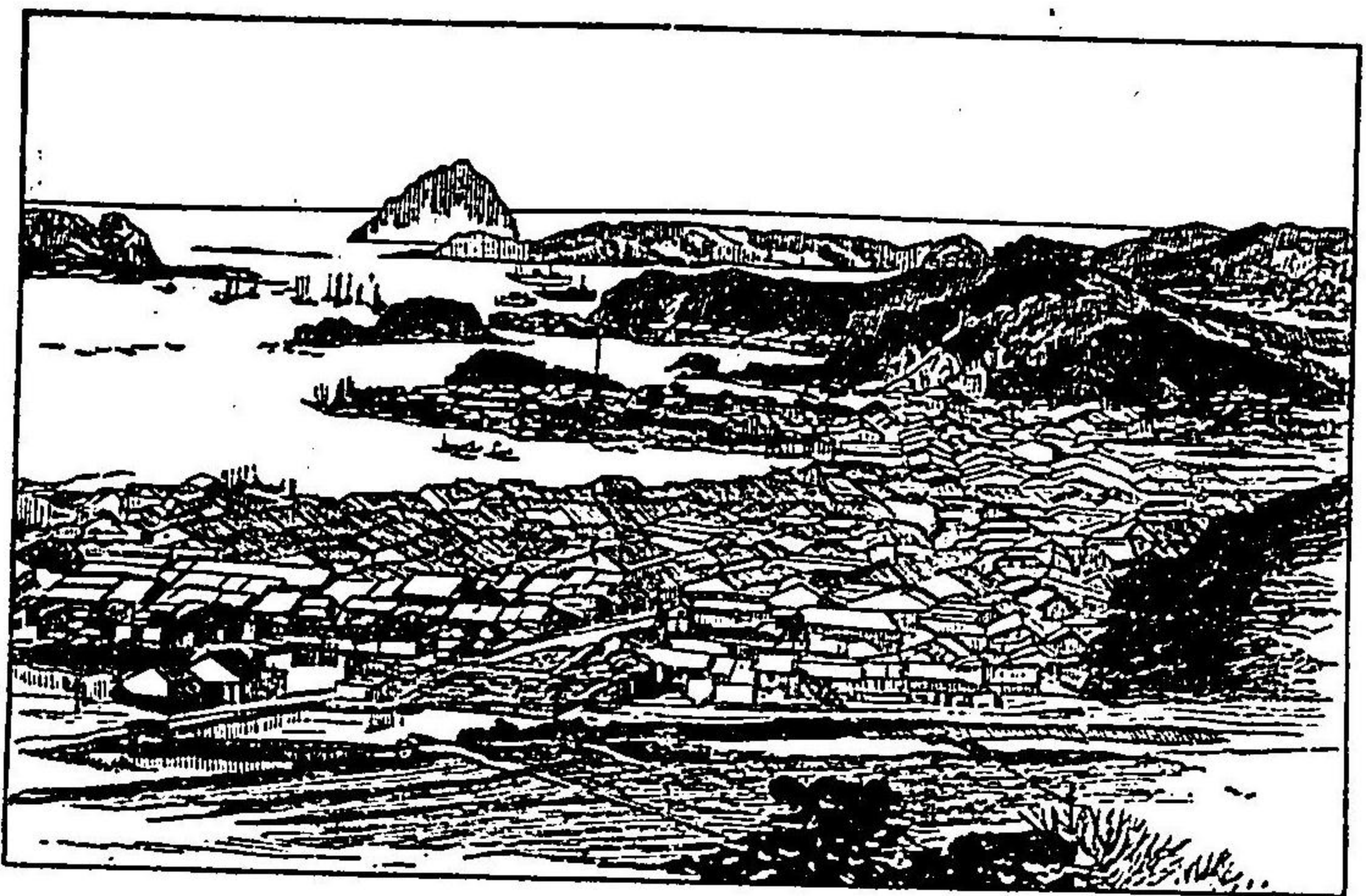
沿岸は屈曲に乏し、且北・東・南の三面は險崖多く殊に東岸は

城壁は高三  
間厚二間上  
部に凸凹あ  
り

最も嶮峻を極め諸山水際より屹立して三千尺乃至七千尺の高度に達し世界第一の斷崖なり、而して西岸は遠淺なるを以て全島港灣少く基隆・淡水・塗葛窟・安平・打狗の諸港稍著名なり、唯澎湖島の馬公港のみは甚良港なり、岬は北端に富貴角あり其東南の三貂角は、我征清軍の上陸せし所なり、恒春半島の南岬に有名なる鵝鑾鼻の燈臺あり、屬島には澎湖群島及紅頭嶼あり。

西部 問 西部の地勢を語れ。

臺北は地味肥沃なる臺北平野の中央にありて周圍に堅固なる城壁を繞らし、市街清潔にして且殷賑なり臺灣鐵道は北邊を通し、東は二十哩にして基隆に至り、西は四十哩にして新竹に達し、北は十哩にして淡水に通ず、總督府混成第一旅團・覆審法院臺北廳等あり。



基隆港

臺北城外に艋舺・大稻埕の二市街あり共に水路に由りて淡水港と通す、艋舺は城西にあり新店河に臨み商況頗盛なり、大稻埕は城北に在り大姑陷河と新店河との合流する所にして烏龍茶の再製盛に行はれ、外國商館及巨商の住宅多し、此二市街及臺北の人口合せて凡六萬あり。

淡水港(滬尾)は港口泥砂の爲に大船を容るゝ能はざれども、香港・廈門との取引盛にして茶樟腦を輸出し、綿布・金屬阿片・煙草・石油等を輸入す海

基隆長崎間  
は百三十七  
哩なり

底電線は此地より支那の福州に通せり。基隆港は三面山を以て圍まれ、北は外洋に面する良港にして大船を容るゝに適すれども、冬季波荒くして碇泊に便ならず、長崎と定期の航海あり、近傍は炭層に富み石炭は本港の重要なる輸出品なり、基隆廳を置く。

臺北基隆地方は本邦中降雨最も多く、冬季東北風の吹く頃は陰霖數十日に亘り氣候稍々冷氣を覺え、稀に近傍の高山に白雪を見ることあり、晴天の日は温暖にして恰も春の如し、又晝夜寒暖の差大にしてマラリヤ熱の如き惡疫流行す、故に内地人は多くフランネルの underwear を用ひて之を豫防すといふ。

新竹は人口  
一萬七千

新竹は現今臺灣鐵道の終點なれど輕便鐵道は此處より本島を縦貫して臺南に達せり、市街繁華にして新竹廳の所在地なり、其西北に貿易場なる舊港ありて支那船の出入多く苧麻を輸出す、新竹より南行すれば苗栗あり地方の要區に

臺中は住民五千餘未だ完備したる市街を爲すに至らず然れども城内には壯麗なる建築あり彰化は人口一萬八千あり鹿港は人口一萬八千あり第一淡水七百萬圓第二安平二百萬圓第三塗葛窟六十萬圓

して苗栗廳の所在地なり、此近傍は樟腦の主要なる産地なり、西北に後壠の貿易港あり、小汽船を容るゝに足る。臺中には混成第二旅團及臺中廳を置く、清國政府は嘗て此地を以て臺灣省の首府となせしが、地理の不便なるが爲め、今の臺北に遷したり、彰化は其西南にあり、彰化廳の所在地にして市街繁華なり、西南に開港場の一なる鹿港あり、最も支那に近きを以て支那船の桅檣林立し、蕃社の貨物も多く、此所に集り、古來頗殷賑の地なり、大肚溪の河口にも亦塗葛窟の開港場ありて、輸出入の盛なること、臺灣中第三に位し、今や鹿港を凌駕するに至れり、輕便鐵道は此所より臺中に通ず、右二港は綿布、豚等の輸入を主とし、輸出品には米及樟腦あり、大肚溪上流の山地に埔里社あり、支那人及熟蕃の雜居殊に多し、此大肚溪の流域は特に農産豊にして、人煙稠密なる所

熟蕃は重に苗栗、臺中、埔里社、雲林、嘉義、蘇澳等の地方に住居せり

嘉義は人口一萬八千あり

なりとす。

熟蕃は生蕃と共に本島の土人にして、馬來人種に屬す、而して熟蕃とは嘗て支那人の感化を受け、之に租税を納めたる種族を云ふ、性温和にして、支那人と雜居し、農商に従事す、生蕃は之に反して、支那人に對し、敵意を挾み、深山幽谷に棲み、性殺戮を好み、鹿を狩り、魚を捕へて生活す、其内最野蠻なる擺安種族の如きは、好みて首狩をなし、多く首級を得るを榮とすといふ。臺中より南行すれば、一條の濁水溪あり、シルヴィヤ山の南面より發源し、新高山より發する、郎涼溪を合せて、西流し、下流は數派に分れ、海峽に注ぐ、此川は本島の巨流なれども、平日は水量少く、降雨に際すれば、濁水忽氾濫し、交通の便を妨ぐるに少からず。

濁水溪を渡りて南すれば、樟腦を以て有名なる斗六街(雲林)に達す、斗六街廳の所在地にして、全市曾て土匪の兵燹に罹れり、尙南方に進めば、嘉義あり、嘉義廳を置く、其西方に下湖口及東石の兩開港場あり、澎湖島と相對し、米、赤砂糖を輸出

臺南は人口  
四萬六千

臺南の近傍  
蘭人の築き  
たるセーラ  
ンチヤ城址  
今尚存す

す、臺南は本島第二の都會にして臺灣西部平野の要區を占め、西に開港場安平を控へ混成第三旅團臺南廳等あり、周圍に城壁を繞らし市況繁盛家屋壯麗なり、鐵道は其北方なる灣裡より起り、此處を経て南打狗に達す、此地は久しく本島の首府たりし所にして彼の濱田彌兵衛が蘭人に怨を報じ又鄭成功が蘭人を放逐したりしも皆此地に起りし事實なりき、近傍製糖の業盛に行はる、安平港は古代より外國と貿易を開きし所なれども、港内水淺く大船の碇泊に不便なり。米、砂糖、麻、樟腦等を輸出す、臺南より南進すれば鳳山に至る製糖地の要區に當り鳳山廳の所在地なり、其西の打狗港は砂糖、米を輸出する開港場なれども、海底淺くして大船を泊すべからず、其東南に東港あり、本島最南の開港場にして米穀、砂糖を輸出す、恒春は最南の都邑にして恒春廳の所在地

なり、其東北の牡丹社は明治七年我臺灣征討軍の爲めに討伐せられし所なり。

- 問一、西部中にて廳の所在地を北より南に順次に擧げよ。
- 問二、西部の開港場を列記し、且港の狀態及商況を述べよ。
- 問三、臺灣西部の交通を語れ。
- 問四、河流を北より南に順次に列擧し、其中二三に就いて、其特性を述べよ。
- 問五、西部の主要なる物産は如何。

### 東 部

臺灣山脈以東の山地にして、交通不便暗黒未開なる地方なれば、其狀況未だ詳ならずと雖も、生蕃到る處に社をなして住居し社數百餘ありと云ふ。

卑南は卑南溪の流域にあり卑南廳のある所にして、住民は主として農業に従事す、其北の花連港は東海岸の中部に於

宜蘭は人口一萬四千あり

ける唯一所の錨地なれども碇泊に便ならず宜蘭平野は三面山に圍まれ熟蕃の最多く居住する所にして宜蘭は其中央にあり此地は東部第一の都邑にして宜蘭廳のある所なり其東南蘇澳灣内なる蘇澳港は東岸第一の良港にして將來有望の地なり。

問 東部に於ける都邑及港灣の狀況を述べよ。

### 澎湖群島 問 島數及面積を語れ。

澎湖水道を隔てて本島に面し臺灣海峡を挟みて支那の福建省と相對す東海支那海の咽喉を扼し軍事上樞要の地なり島内山嶽なく風強くして喬木を見ず人口七千僅に魚貝馬鈴薯落花生等によりて生活す澎湖白砂漁翁の三島鼎立して一大灣を擁す灣内水深くして風波の患なく大艦數十

氣候及產物

隻を泊し得べし馬公港(又は媽宮)其中にあり開港場にして要塞砲兵駐屯し澎湖廳の所在地なり。

砂糖・茶・米樟腦は本島の四大產物なり

臺灣の氣候及產物 本島の南半は既に熱帶に入るを以て内地に比すれば全島の平均溫度甚高く(東京一三、臺中二二)殊に冬季温暖にして夏季も亦海洋の影響を受くるを以て猶百度を超ゆることなし且夏季頗長く降雨量も一般に多量なるにより植物の生育極めて佳良にして米・茶・甘蔗・芋麻等の農産甚豊なり製糖業は主として西南に行はれ茶は北部の地味に適し四季共に摘取をなし一年七回の多さに及ぶといふ而して米作も亦一年二回の收穫あり且森林には良材を産するのみならず北部には樟樹密生して樟腦の産頗多し。交通は從來道路を修繕せず且良港及河流の運輸を助ぐる



ものなく、天然人工共に交通に不便なること尠しとせず、西部平野は狹隘なる道路ありと雖も、河流に橋梁なく一朝降雨に遇へば忽ち交通を絶つに至る、殊に東部の如きは山岳重疊し僅に蕃民が時々獸獵の爲め谿谷を跋渉するに過ぎざるのみなりき、然れども、今や鐵道は北方に於て基隆臺北・淡水・新竹を連ね南方に於ては打狗より臺南を経て、灣裡に達し將に西部を貫通して北方に連絡せんとす、輕便鐵道は新竹・打狗間百六十四哩并に臺中・塗葛窟間二十九哩を連接せり、又海には基隆・淡水・安平を中心として鹿兒島・長崎・香港及清國各港に達するのみならず本島東西岸の各港にも亦定期の航行あり。

- 一、臺灣の面積人口を述べよ。
- 二、臺灣の地勢を述べよ。

北海道  
本島面積五  
千五百七十  
方里  
千島列島面  
積千三十三  
方里

三區  
札幌區  
函館區  
小樽區

- 三、臺灣東部の都邑及港を記せ。
- 四、澎湖群島の地位と主要なる島及港を述べよ。
- 五、臺灣の人口・氣候・産業・交通行政は内地と如何なる相違ありや。

### 北海道

問、北海道の國名及道廳所在地を述べよ。

北海道本島と千島列島とを總稱して、北海道と云ふ、其面積六千餘方里ありて、殆んど本邦の四分の一を占め、臺灣九州四國を合せたるものより稍々大なり、此地もと蝦夷と稱し土人の占居せし處なるが、明治二年開拓使廳を置かれしより爾來大に拓殖の途開け、移住者も年々著しく増加し、今や人口百萬に達せり、然れども土地の廣大なるに比すれば人烟甚、稀少なり、現今北海道廳を置き其下に三區十八支廳を設けて之を治む。

### 北海道本島

十州島又は北州島とも云ふ。

十八支館 札幌函館 松前檜山 喜都岩内 小樽空知 上川増毛 宗谷網走 室蘭浦河 釧路那 根室

西南半島

山脈

地勢 本島は石狩平野によりて東西の二大部に分る。東部は蝦夷山脈と千島火山脈と中央に相交りて主脈をなす。此の結節部は地勢高峻にして、大河の源をなし、是より土地三面に低下す。即ち西面には天鹽石狩の二大河流れて天鹽石狩の平野をなし、南面は十勝川流れて十勝原野を灌漑し、又北面には湧別常呂の川流ありて北見北岸の低地に達せり。西部は西南半島とも稱し、到る處に山岳重疊し、山勢急峻にして平地に乏し。本島の海岸は屈曲少く殆んど平直線なれども、西南半島と根室の海岸は稍良港灣を有せり。山系 蝦夷山脈は宗谷岬に現はれ北見天鹽の間を走るを東北山脈と稱し、宗谷岳天鹽岳を起し中央部に至りて千島火山脈と交叉し、是より石狩十勝の間及日高十勝の間を走り襟裳岬に至りて盡く、之を日高山脈と稱

河流

湖沼

し芽室山神威岳等此中にあり。千島火山脈はヌツアカウシベ山チアテシケ山石狩岳雄阿寒岳雌阿寒岳良牛岳を起し、千島列島に達せり。この外に後志渡島の兩火山脈あり、前者は樽前岳有珠岳マツカリヌプリ等を含み、後者は噴火灣の南方駒岳より恵山に至るものなり。水系 石狩川は源を石狩岳に發し、上川の原野を流れ、右岸に雨龍川左岸に千歳川等の諸支流を合して日本海に入る。此川は本邦第一の大河にして、長さ百六十七里幅の廣き處五町餘、水勢緩にして下流五十里間は小蒸汽船を通するを得、又鮭の漁業甚盛なり。十勝川は源を十勝岳に發し、多くの支流を集めて太平洋に注ぐ、其長さ五十三里あり、釧路川は源を釧路湖に發し、南流すること三十三里、釧路港に至りて太平洋に入る。其下流凡二十里の間、小蒸汽船を通することを得べし。天鹽川は源を天鹽岳に發し、北流すること七十四里、日本海に注ぐ、舟楫の便に富む。猿間湖は本島第一の大湖にして、東西八里南北三里、北見のオホツル海岸

にあり、其他根室の樺運湖釧路の釧路湖、膽振の支笏湖、洞爺湖等も亦稍々大なるものなり。

### 沿岸交通及都邑

人口七萬八千

本州と津輕海峽を隔て、函館灣あり、灣内にある函館區は舊五港の一にして、青森市を距ること二十餘里にあり、北海道支廳控訴院要塞砲兵等を置く、市街壯麗繁盛にして、北海道物産集散の中心となり、水産物硫黃石炭を輸出す、今や築港工事成り、船舶輻湊し、貿易盛大にして、浦鹽斯德港とは僅に四百哩を隔つるのみなれば、西伯利亞鐵道全通の日は、更に幾層の繁盛を増さんこと知るべし、區の東北一里半に五稜廓あり、安政年間函館奉行の經營せし砲臺にして、維新の歴史に於て其名高く、今は渠内の製氷を以て著る、此地より西南に進み、白神岬を経て、福山に達す、昔時は松前と稱して

人口五萬七千

蝦夷の首府なりしが、今は唯鯨の漁場として知らるゝのみ、是より西海岸に沿ひて北に進めば、江差港に達す、江差より奥尻島を左方に見て、尙北に進めば、壽都に至る同名の灣に臨めり、是より岩内を経て、銀銅砂鐵を産する積丹半島を廻れば、本島の日本海岸に於ける第一の良港、小樽區に至る、即、函館に次げる本道第二の開港場なり、船舶の出入極めて多く、鐵道によりて、東方の札幌に通せり。

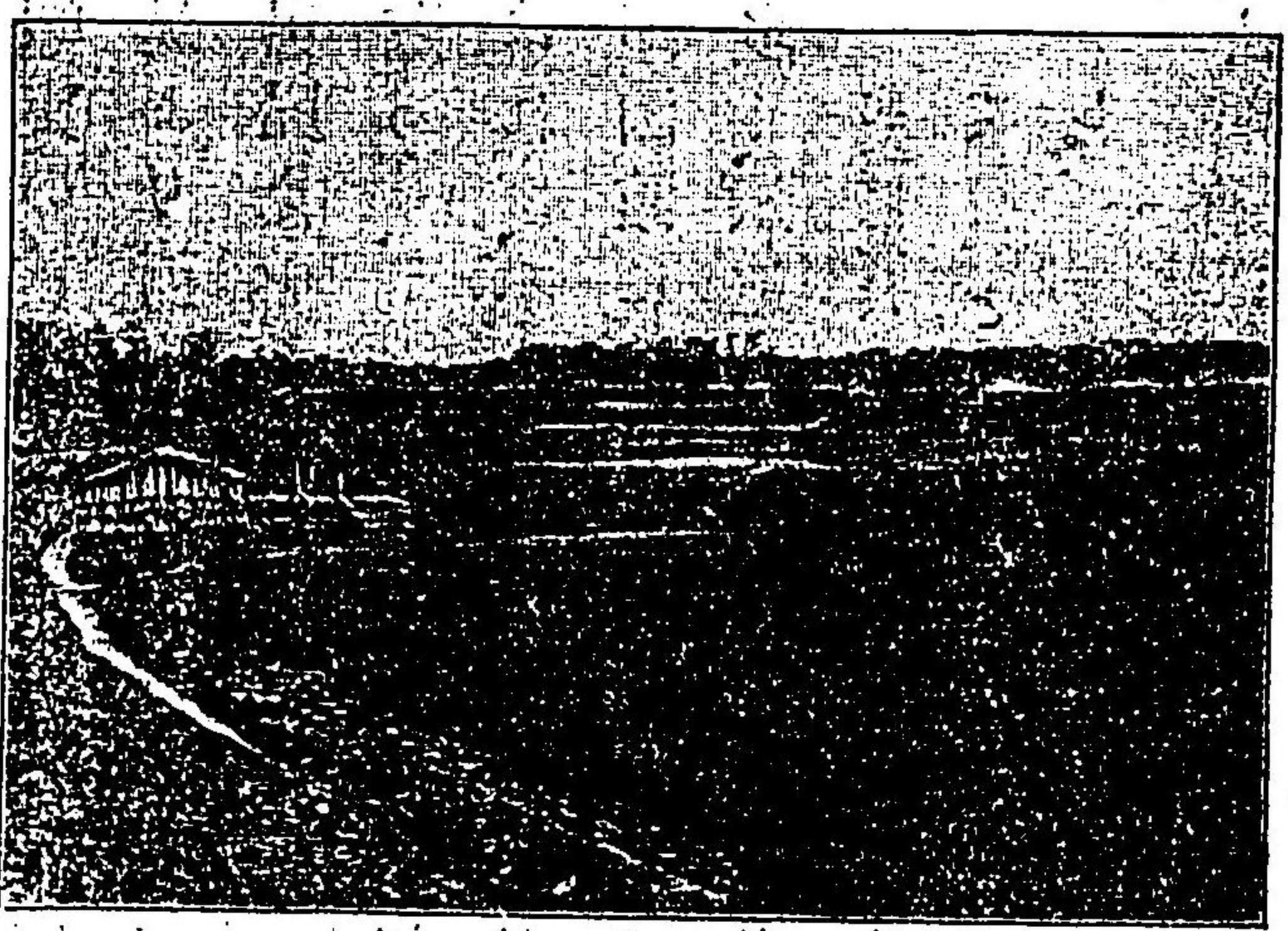
北海道は一般に道路險惡なるを以て、此地と函館間は海路によるを便とす、然れども目下計畫中なる函樽鐵道の通すること亦遠きにあらざるべし。

人口三萬八千

札幌區は石狩平野の西部に位し、北海道廳の所在地にして、市況繁盛、歩兵第二十五聯隊、札幌農學校及炭鑛鐵道麥酒製糖製麻等の諸會社あり、炭鑛鐵道は小樽港手宮より起りて

此地を通過し岩見澤を経て幌内ホロウチ幾春別イツクニベツ歌志内カシノウチ空知ソウチの諸炭山に達せり、砂川に於て官設線となれる鐵道は旭川に於て

室蘭は麥石炭、硫黄、麥粉、木炭、硫磺、硫酸、礦粉、木材、竹材、板に限り輸出を許さる



上川郡兩龍平野水田之圖

天鹽線及十勝線の南北に分岐し、北は永山の開墾地を過ぎて天鹽の士別に達し、南は上川御料地を過ぐ、此地は離宮の豫定地にして第七師團屯田兵第三大隊を置けり、鐵道は尙進みて十勝の落合に通せり、炭鑛鐵道は又岩見澤より追分支線夕張炭山に至るサウ苦小牧クコウキを経て室蘭モロランに達す、室蘭は噴火灣に臨みて港内

水深く第五海軍鎮守府の指定地にして且開港場なり、函館及對岸の森と定期の航海あり、森室蘭苦小牧は函館より札幌に至る東道の要區たり。

繪鞆岬より襟裳岬に至る沿岸は、弓形に屈曲し良港を有せざれども、左方に見ゆる新冠カクワ牧場は雪少く牧草に富み良馬を産す、襟裳岬は古代に謂はゆる口蝦夷、奥蝦夷の境界にして、是より東に進めば右方は沿岸一帯砂濱にして、左方は十勝川の灌域に屬する渺茫たる十勝原野なり、此の河流の沿岸にはアイヌの部落甚だ多し。

アイヌは古の蝦夷にして主として沙流川十勝川等の流域に居住し、多く毛髪を長じ、大抵跣足を常とし、樺皮を以て織りたるアッシを着し、袴ハカマを左にせり、女子は嫁すれば口頭に黥するを例とす、其住宅は粗造の小屋にして土間に起臥し、多くは漁獵に従事せり。

是より尙東すれば白糠より鐵道に由りて釧路港に達す、此港は釧路川の河口にありて開港場なり、釧路川の上流跡差登には、硫黄を産す本邦第一の良質にて海外に輸出す、釧路の東方に厚岸港ありて同名の灣に臨み多く牡蠣を産す、其東に花咲港あり、根室灣結氷のとき船舶の碇泊する處なり、又其東北にある根室港は本島の極東に位する



土人の風俗

港は釧路川の河口にありて開港場なり、釧路川の上流跡差登には、硫黄を産す本邦第一の良質にて海外に

と、千島諸島に渡る要津たるとによりて市街繁盛なり、屯田兵第四大隊駐屯し函館より凡そ三百哩を距つ。根室港の西北に楓蓮湖あり是より流水多き海濱を經、根室海峽を挟み國後島を東方に眺めて知床岬に達す。知床岬より宗谷岬に至る北見一帯の沿岸は、屈曲極めて少く砂丘と潟とに富める海濱にして絶えて良港なし網走より網走湖を左に見て常呂川を渡り猿間湖の北岸を經て紋別村に至り是より砂金の産を以て有名なる枝幸頓別を過ぎ宗谷に達す、宗谷は本島の北端にして十三里の宗谷海峽を隔て樺太島と相對せり、宗谷より稚内に至り西方海中に漁業の盛なる利尻禮文の二島を見て屈曲少なき天鹽の海岸を南進すれば天鹽川河口に達す、是より宮前増毛の諸港を經て終に小樽に歸來す。

### 千島列島

三大漁場  
歐のノルウェー  
北米のニュー  
ラフハン  
岸・北海道  
の東岸海

根室の東北より露領かむちやか半島の間は並列せる三十  
二島を千島列島と云ふ此列島は得撫海峡にありて二部に  
分つを得べし國後色丹擇捉得撫等の諸島は南部に新知捨  
子古丹温禰古丹幌筵占守等は北部にあり其總面積は千〇  
三十三方里即四國の大きに伯仲するも氣候寒冷なるが爲  
めに人口甚少く僅に四千五百人あり其中過半は國後擇捉  
に居住し色丹得撫占守の三島には住民あれども其他の諸  
島は殆んど無人島なり  
此列島は火山脈に當れるを以て山勢起伏甚しく低地少し  
山岳にはトマ松カラ松エゾ松等の雜林を有すれども一も  
巨木なく唯燃料に供するもののみ土地は耕作に堪ふる所  
甚少く北部諸島は多く流木によりて家屋を建て又薪材に

一尋は六尺

供せり。

近海は親潮の寒流に洗はれて波濤荒く鰐鰓獸臘虎海豹鯨  
鯨鮭鱒昆布等の海産物に富みて世界三大漁場の一に數へ  
らる。

其東南なる太平洋の海底は所謂タスカロラ海床にして世  
界中最深く五千尋に達せりと云ふ。

國後島の泊港は當島の首邑にして郵便局學校商店等あり  
根室港より三十哩ありて海底電信を設く住民は主として  
漁業を營み傍ら羅白山の硫黃採掘に従事す。

擇捉島は千島列島中の最大島にして西岸の沙那は沙那灣  
に臨み支廳の所在地及漁業の中心たり。

色丹島には斜古丹の良港あり又本邦の極東に位する占守  
島は千島海峡を隔てトカムチヤカ半島のロバトカ岬と相

對し其間僅に七里なり本島には報効義會員郡司成忠氏移住して、漁獵及開拓に従事せり、阿頼度島は本邦の極北に位せり。

東京は一月の平均温度三度なり

北海道の氣候は一般に寒氣嚴しく、最暖の函館に於ても一月の平均温度攝氏零下三度にして上川にては零下十度に降り本邦の最寒地たり、而して根室北見等の海は冬季凍結するに至る、毎年四月は積雪融解し爾後温度急に昇り、夏期八月は二十一度に達し能く植物を生育せしむ、秋期は温度急に降り概ね九月下旬に初霜を結び、十一月末より降雪し一二月の頃其深さ一尺乃至四尺に達す、殊に千島山中は一丈餘に達する處あり。

産業 本道は開拓日尙淺きを以て、物産未だ多からざれども、原野は廣大にして、農業牧畜に適し、且つ水産の多きこと

農業

養蠶

牧畜

水産

森林

本邦中に冠絶し、又頗る有用の鑛物に富めり。

農業の主要なるものは、大豆・小豆・馬鈴薯・粟・甜菜・麻等にして、蘿蔔・甘藍・玉葱等の蔬菜、梨・林檎等の果物多く産し、又近年水田大に増加せり、養蠶は概ね各地に行はる、殊に桑樹は野生多きを以て之を採りて飼育し得べし、牧畜も亦頗る盛にして牛・馬及豚を養ふもの多く、新冠の御料牧場、石狩國眞駒の官設牧場等の外に、民設牧場八十餘所あり、水産は實に無盡藏とも稱すべく、其最も重要な鱈は、鯨にして、鮭・昆布・鱈・鰺・鳥賊・鰈等之に次がり、其他貝類・藻類・海獸等も亦少なからず、其他海産物よりは、乾製・鹽漬・魚油・搾り粕等を製造す、森林は御料林・官林・民林を合せて殆んど六百萬町歩あり、其他未開の原野には、尙數多の樹林ありて、椴・松・落葉松・蝦夷松等の針葉樹・桂・ヤナギ・モミ・樺・菩提樹等の濶葉樹を多しとす、此等の樹木



鑛業

工業

商業

輸出入高

は建築器具薪炭等に適せり、鑛業は石炭・砂金・硫黄・滿俺等を多く採取す、石炭は石狩に最も多し、砂金は北見・天鹽・日高・十勝の諸國に産し、頓別・枝幸を以て著名なりとす、硫黄は各地の火山より出で、滿俺は後志を著名なりとす、工業は未だ盛大ならざるも、稍々規模の大なるものは札幌の製麻會社、麥酒醸造所、製粉所、該炭製造所、小樽の炭鑛鐵道手宮工場、函館の造船所等にして、商業の主なるは函館・小樽の二港にして、札幌・旭川・岩内・江差等も亦樞要の地なり、本道一年間の輸出高は三千萬圓にして、海産物を主なるものとし、農産・工業・林産等之に次ぐ、輸入高は四千萬圓にして、米は殆んど其三分の一を占め、吳服・太物類・烟草・茶等之に次ぐ。

問一 北海道の國名を白地圖に記入せよ。(卅四、海兵)

問二 北海道・琉球・臺灣等諸島住民の性質及衣食住の有様は如何に異なるか。(三四、高商)

問三 左に列記せる名稱の所在の國名を記せ。(三四、士官)  
 湊川・船上山・伏木等



### 第三編 括論

#### 自然地理

#### 地勢

#### 地勢

二大山系と  
三大火山脈

問一、五大島の山脈の方向を述べよ。

問二、日本海及太平洋に面する土地の地勢を語れ。

問三、高地と平野とを語れ。

土地の高低は、氣候・地味・交通・生業等に關係を有し、人文の發達に影響を及ぼすこと大なり。

本邦は、二大山系と、三大火山脈とによりて構成せらる。即樺太山系は、樺太島より來り、蝦夷山脈・北上山脈・阿武隈山脈等を起して甲信地方に達し、支那山系は、支那に起り、九州南部・北部・中國・四國・紀伊・赤石等の諸山脈となりて、樺太山系と相

會す。之に加ふるに、富士火山脈南洋マリアナ群島より來り  
豆南列島富士八岳等の火山を噴起して、以上の二大山系と  
交叉す。而して其相會合する所は、群嶺秀峯巍峩として蟠  
するが故に、本邦最高最大の地體をなす、是即中央高地なり。  
又千島列島は、カムナヤッカ半島より連る千島火山脈の噴起  
する所にして、琉球列島は、霧島火山脈によりて構成せらる。

山系

樺太山系  
東北山脈日  
高山脈を總  
稱して蝦夷  
山脈と云ふ

支那山系  
内帶山脈

●山系 樺太山系は、北海道本島に於て、東北山脈(宗谷・天鹽  
岳)日高山脈(夕張芽室神威岳)となり、襟裳岬より海に没し、本  
州に渡りて、北上山脈(早池峯・仙人峠)となりて、牡鹿半島に至  
り、再び海中に入り、更に阿武隈山脈(八溝・加波・筑波山)を起し、  
遂に關東平野を越えて、遙に關東山脈(金峯山・國師嶽・小佛峠・  
笹子峠)房總山脈(鋸山・清澄山)に連る。●支那山系は、内帶山脈  
外帶山脈の二派に分る。内帶山脈は九州北部山脈(天拜山)よ

り、中國山脈(船通・大江・愛宕・比叡山)となり、琵琶湖の北を過ぎ、  
濃飛高原(鈴鹿山脈及木曾山脈)惠那山に連る。外帶山脈は、九  
州南部山脈(白髮山・市房山)より、四國山脈(瓶・森・劍山)となり、本  
州に入りて、重厚なる紀伊山脈(高野・大臺原山)に連り、遂に赤  
石山脈(秋葉・赤石・駒岳)を成す。臺灣山脈は、臺灣の南北に連亘  
して、新高山・シルビヤ山等の高峯あり。

千島火山脈  
後志山脈

渡島山脈  
中央分水山脈

千島火山脈は、北海道本島に於て、石狩岳・ムササビカウシヘ山・阿寒岳・良牛岳  
等著名の活火山を含み、千島列島を起し、露領カムナヤッカ半島に連る。●後  
志山脈は、渡島山脈と共に、北海道本島の西部に連る山脈にして、マクカリ  
ムアリ(後方羊蹄山)有珠岳・樽前山等あり。●渡島山脈には、遊樂部岳・千軒山・  
惠山等有名なり。○中央分水山脈は、一の火山帯と一致す、其中に有名なる  
那須火山あるを以て、一に那須火山脈とも云ひ、其北部を陸奥山脈と云ふ。  
陸奥の恐山に起り、陸奥灣に没して再び八甲田山を起し、岩手山・吾妻山・磐  
梯山等を経て那須岳に連り、それより兩毛の北方を西走し、日光山・奥男體

岩木火山脈

彌彦火山脈

富士火山脈

飛驒山脈

能登火山脈

白山火山脈

阿蘇火山脈

霧島火山脈

山白根山淺間火山脈(上野三山淺間山等)となりて、富士火山脈に連る。●岩木火山脈は、日本海岸に沿ふて連続する出羽山脈中を走り、岩木山鳥海山羽前三山等を噴起し、富士火山脈に合す。●彌彦火山脈は、男鹿半島の寒風山に起り、飛鳥粟生島を経て彌彦山米山に連り、以て富士火山脈の一部なる妙高山に連る。○富士火山脈は、富士山を中心として南北に連続する一大火山脈にして、北は八岳より越後の妙高山に連り、南は箱根天城の諸山より、豆南列島大島の三原山を噴起し、遠く南洋のマリアナ群島に達せり。●飛驒山脈は、信濃飛驒の境上に連亘せる我國第一の峻峻なる火山脈なり、御岳乗鞍岳立山大連華山等之に屬す。●能登火山脈は、佐渡の金北山に起り、能登の北端に至りて寶立山を起し、隱岐に至る。●白山火山脈は、白山に起り、日本海岸に沿ひ大山三瓶山等を経て五島列島に連れり。●阿蘇火山脈は、阿蘇山を中心として、九州の中央に蟠廻せる山彙をなし、四國の高繩山石槌山より、讃岐の北邊を過ぐ。○霧島火山脈は、臺灣の大屯火山脈より連続して、琉球諸島川邊諸島を起し、開閉岳櫻島岳を経て霧島山に至る、猶地圖に就き、地勢及山脈の趨勢を知るべし。

地震と温泉

本邦は地震火山及温泉の多きこと世界稀なる國なり

水系

本邦は到る處火山に富み、且地震最多き國なり。彼の磐梯山破裂のときの地震、火山地震及濃尾大地震地(地震)の如き、最著名なるものとす。實に火山の爆裂及地震の激烈なるものは、大なる惨害を人類に被らしむるにより、政府は近來震災豫防調査會を設けて、其災害を未發に防がんとす。温泉は多く火山地方に湧出し、硫黄泉炭酸泉鹽類泉等の別あり。

●水系 地圖を開かば、河流の灌域には多くの村落都邑相

連り、農工業等能く發達し、人煙稠密にして主要なる生産地たるを發見せん。是れ河流は、其流域を灌漑し、或は沃土を運搬して、田圃を肥沃ならしむるに由る、殊に其流域は、土地平にして交通至便なるが上に、河流は尙水運の利を與ふるを以て、多くの都邑は、自ら此の處に發達し、以て貨物の集散地となれるなり。本邦は、地形狭く山勢急峻なれば、大河、大湖に乏しく、且つ急流多きが故に、彼の大陸に於ける大河の如く、

製表

航通運輸の便を與ふること少しと雖も、氣候濕潤にして降雨多く、水量に富めるを以て、細流各地に夥しく、灌漑の利を與ふること頗大なり。然れども霖雨の際は堤防潰決して、水害を與ふること亦少からず。

●製表 主要なる河流を太平洋・内海・東海・臺灣海峽・日本海・オコク海の六斜面に區分し、且左の例に倣ひて表を作れ。

太平洋斜面

府縣名	水源	支流及派流	河口	舟運	都邑	物流域の交通	其他
群馬・栃木・埼玉・東京・千葉・茨城	上野の北境(文珠岳)	烏渡・良瀬・鬼怒・印旛沼	北浦・派流	江戸川	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港
鳥渡・良瀬・鬼怒・印旛沼	北浦・派流	江戸川	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港
鳥渡・良瀬・鬼怒・印旛沼	北浦・派流	江戸川	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港
鳥渡・良瀬・鬼怒・印旛沼	北浦・派流	江戸川	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港	本流は銚子港

内海斜面 瀬戸内海及大阪灣

府縣名	水源	支流及派流	河口	舟運	都邑	物流域の交通	其他
滋賀・京都・大阪	桂木津・派流	安治・木津	河川	大阪灣	京都・伏見	京都・伏見	京都・伏見
滋賀・京都・大阪	桂木津・派流	安治・木津	河川	大阪灣	京都・伏見	京都・伏見	京都・伏見
滋賀・京都・大阪	桂木津・派流	安治・木津	河川	大阪灣	京都・伏見	京都・伏見	京都・伏見
滋賀・京都・大阪	桂木津・派流	安治・木津	河川	大阪灣	京都・伏見	京都・伏見	京都・伏見

湖沼

湖沼は河流の水源をなし、或は其汎濫を防ぎ、或は濁水を清浄にし、氣候を調和し、風致を添ふるのみならず、交通灌漑の便を與ふる事頗大なり、今稍著しきものを列擧すれば左の如し。(但括弧内の数字は周回里數を示す)

北海道	本州
猿洞湖(二〇)	琵琶湖(七三)
網走湖(一一)	河北湖(六)
風連湖(二五)	中海(一六)
厚岸沼	支笏湖(一五)
屈茶路湖(二三)	阿寒湖
洞爺湖(一〇)	支笏湖(一五)
猪苗代湖(一六)	支笏湖(一五)
十和田湖(一〇)	八郎潟(二五)
八郎潟(二五)	猪苗代湖(一六)
北浦(一五)	霞ヶ浦(三六)
霞ヶ浦(三六)	印旛沼(一二)
河北湖(六)	印旛沼(一二)
中海(一六)	支笏湖(一五)
支笏湖(一五)	支笏湖(一五)